

第Ⅲ部 社会主義は作動しうるや？

(このテキストの主題、可能性が示す限りでの社会主義の経済学)

- (1) 社会主義のブループリント
- (2) ブループリントによる社会主義の比較優越論
- (3) (2)の補足的パセージ
- (4) 社会主義システムにおける人間的諸要素
- (5) (4)の補足的パセージ
- (6) 移行過程 ——社会化——
- (7) 社会主義の経済的バランスシート

(1) 社会主義のブループリント

摘要

どんなイデオロギーからも解放された社会主義の定義、「集権的社会主義」、生産の諸段階についての及び生産それ自体についての管理が中央当局に付与されている如くはっきり指示されている一個の制度的パターンで、複数の管理主体の存在は排される。生産の中央当局はその計画を議会に提出しなければならない、また各部局で「その任にある人士達」に対し一定の行動の自由(自由裁量)を与えなければならない。上記の社会主義経済の純粹理論としての青写真の中には、諸価値とその導かれる諸費用あるいは帰属される諸報酬等々があり、そうした基礎的諸概念は資本主義の枠組みに依存するものではなく、もっとも単純化されたモデルであるロビンソン・クルーソーの経済諸活動にある基礎的諸属性を説明するため用いてよいものである。それは全社会機構における生産と消費、貯蓄と投資であるかの如く示されており、一人のクルーソーが如何様に彼の利用可能な諸資源を、彼の当面の及び将来の欲望充足を最大化させることに対応させて、配分するかを示すものである。基本的にこれらの諸考慮は資本主義経済の後を受けた社会主義経済においても同じである。しかしながら、この社会主義経済にあつては、生産過程と分配過程が同一の過程を進むという自動的ルールを欠いている。だからして一個の与件として、社会的生産物の各同志に対する相対的シェアの決定が、別途の異常経済的(政治的)な問題として、一つの区別されるべきこととなる。こうすることで消費の財・用役に対する需要関数と労働と貯蓄に対する供給関数が上記の相対的シェアから導き出され、これらの関数から中央生産当局は、具備している諸生産関数(諸技術)をもって、投入一産出過程における諸財と諸用役の諸数量を丁度、生産における限界生産力が消費における限界効用に等しいか、または対応しているが如くに、更に労働の供給が労働の需要に、また貯蓄の供給が貯蓄の需要に対応しているが如くに、見出すことが出来よう。・・・その他 (編者)

Ⅲ—(1)—1～38

社会主義のブループリント

1 第3エッセイ「作動しうるか？」・・・社会主義の経済学・・・
導入——もとより多かれ少なかれ、それを解義するものであるが——に即して・・・

(1) 社会主義の定義・・・社会主義の概念を他の概念から解放するためには重要である・・・

配分における差、選抜における差・・・本質的であるのは選抜の問題・・・そのすべてが書き換えられなければならない。・・・

(2) ここにおけるテーマ「作動しうるか」——論理的に悪いところは何もないということを示す。・・・

実行(実務的)可能性や比較はこの際問わない。・・・

民主主義的な節約、利子の役割と資本構成・・・経済における論理—管理問題が発生する。・・・最大性について不条理は何もない。・・・バローネ、F・テイラー、ランゲ等・・・たどえそのようになされる必要がなかったとしても、他の代替物が。・・・

(3) テーマは実行不可能性である。・・・事実、それについて語るべき多くのことがある。・・・ロビンズとハイエック・・・省く、時流とともに、しかも時流に逆らって泳ぐ。・・・だが実行可能性とは何時の？それが重要な発見であり、強調されるべきことなのである。・・・

この問題は集中が非常に大切なので、回避することが困難である。・・・多分ここでは抽象的にのみ・・・むつかしいところは、例えば順応性(可鍛性)といった問題は(3)とは区別するべきである。・・・社会主義諸政党の実績・・・

(4) 能率比較・・・これにはさらに一對の留意が！・・・またもや再び同じ問題が、——あるいは正にここにおいて、——何時の？・・・

誰もが必要とされる態度(心構え)は、常にそうであるが、あたかも途方もなく巨大なものであるかの如く準備される。・・・どこまで大衆の規律と長期的政策がなされるかに依存する。・・・知識人あるいはレーニンを乗り越えられる人・・・人間のどんなタイプ、遂行の統制(control of

prosecution)? 誰がそれを運転するのか? . . . その機構からさらに引き出すことはありうるのか? . . . それは再び一つの結果ではなかったか? . . . だが、そうは言っても、これまた不確実なことである。

(5) 移行経済の問題——ただし客観的な問題のみを . . . その時点に依存する . . . 偏見、ただし有効性はある . . . なお、全てでない . . . より良ければ良い程、より後になり、より良ければ良い程、過渡期間はより少ない . . . 喫茶店でべらべらしゃべる . . . 私の祖母が自転車をこいでいた時に、独占曲線を論じることの幼児性 . . . そして喫茶店にいる知識人達には、当然あまりにも多い無駄な行動の中にも、それぞれの段階を良くさせることはありうる。

2 「不幸にして我々は、ともあれ、まずは定義しなければならぬ . . .」 . . . その場合、私は、集権的社会主義だけを考える . . . 排除すべきこと . . . 我々が経済的アスペクト——生産的的局面と分配的局面の双方——において、管理についての権威を求めること . . . だが私は事柄をそうならしめないようにすることができる。それでも分配が入ってこざるをえない。諸資源の単なる管理は、そうは言っても、私的所有と併せて処理されることができのでは . . .

今や「もたらされた諸生産物の配分」を重ね入れるとしよう。次のように言うことは全く正しくない。——集権的な管理はそれぞれの個人が消費すべきものを決定する必要はない、と . . .

競争的選抜(淘汰)の消滅が忘れられてはならない——社会主義が常に「可能的」であるのと同様に . . . しかしなお、消滅しないものもあるということ . . .

3 私は社会主義社会と商業的社会の範疇差の問題、並びに異種の世界にある諸概念の言い換えの問題を十分に強調しなかった可能性がある . . . ドップ — ラーナー論争といったものは、私が社会主義者達は類似性につき失望させられるかも知れないと述べた、その点に多分に即したものである . . .

ドップの差の強調といったことは、一面では多分正しいが、経済的合理性

の中でのことではない。．．．そこへ入っていく人類の意志(Will der Menschheit)が明瞭ならしめられるならば、その場合、何か他のことが重要となる——資本主義がさほどに大きな差をもたらさない状態に至るということを示す可能性、及び、この可能性はその場合、それ相当に恵まれたものであるということ。．．．

当然のことながら、社会主義につき心からの微笑と手を組んで語りしかできない人には、このことは愉快的なことではない。信じようとはしない人には、これら全てを理解できない。．．．

このことを棚上げしてしまうことも、また極めて重要である——すなわち逃避主義である。．．．

4 ブループリントはそもそも報告書(Bericht)なのか。．．．

産業の下位階級(lower strata)における諸浪費、そして上層にても——オー イエス、結構。．．．より単純な課題への集中が——すなわち、それに対して課題の諸制限が働いている場合——能率を進めるのである。．．．非確定的なこれらの無駄以外の無駄とは。．．．拘束された資本主義の下では弁護士が益々重要となる。．．．

ブループリントは過度に能率的であるべきではない。心的な力は連鎖に火をつけさえする。．．．ボトルネックについての複合的な不満。．．．自己破壊。．．．

5 社会主義でない社会に対する標語、「商業的」を用いる。まずは、多くの人は言っている。社会主義は不可能であり、しかも実際的でない、と。．．．あるいは、恐らくどんな理論にも根ざすことなく、主に社会主義に反対するケースである。．．．まず我々は自らを満足させなければならない。．．．

6 論理的非決定性におけるブルジョワ的文化、それが再度である故に。．．．各ケースにあるリアリティ。．．．しかし歴史的諸ケースのもつバリエーションの幅は相当なものである。それら全てのケースの中で次の設

問に遭遇する。観察せられた諸現象の中のどれが明確な意味でのブルジョワ的要素に納得がいくよう帰属させられてよいのか、またはよくないのか。私はこの範囲の諸問題とは——付属的な場合は除き——取り組もうとは思わない。一個の感想を付すことに止めようと思う。

7 「ブルジョワ的諸要素」という言葉を用いる場合、私は個人的諸要素——ブルジョワ階級と呼ばれてよいものを構成している諸個人——のことを考えてはこなかった。考えていたのはブルジョワ時代(*bourgeois epoch*)の文化的諸要素のことである。すなわち一人のマルキシアン的意味での経済過程のブルジョワ的形態にまで跡付けられることのできるような、諸態度、行動の諸型、それに諸成果である。この文化に注意することは可能である(私にはできた)、だが途方もなく広い範囲を認識することは可能でない——童話的ですからある。・・・今や告げられる。技術は分離せられず、また医術と科学をブルジョワ的と拔書することは可能でない。ブルジョワジーの仕事だというわけではなく、合理的精神すなわち合理的な設問設定のもたらす仕事であるという訳で。・・・なおそうであっても a) 意志と b) 手段が用意される。・・・社会主義の精神は構築することが可能である、さらに知識人達は敵に対する仲間として機能する。・・・文化的な力を解放しようとする願望・・・

8 ブループリントの中に含ましめるべきだ、と言っているのでは。・・・しかし、それは混乱をもたらすだけである。誰もが見通しているように、関心のない場合、最初に改良主義、次いでマルクス主義といった行論は避けること。・・・

だが何故にそれが全てなのか？ 絶対的にというわけではないが、敵対的傾向に由来するものとして必要である。ルッソーは事実このようにして道を設けた。あるいは、さらに困難な区別、資本主義—攻撃の対象といったこと、我々がすでに検討しているように自営生産者(*Selbstproduzent*)であるかないかはどうでもよい。・・・

ブループリントは——どんなブループリントもがそうであるように——基準からの逸脱があるだけでなく、古い装いのものであるか否か、知識人の産物であるか否か、あるいは、いたずら坊主のそれであるかどうか、の

差は排除するものである。・・・思想の切り捨て・・・

9 ピグー 社会主義対資本主義・・・

この他に労働組合と政党(さらに政策と諸機会)についての資料・・・

10 社会主義・・・官房学派の簿記学(Cameralist Buchhaltung)・・・
ピグーの計画との比較…疑問1、どこで、イギリスで、疑問2、何が成されたと言うのか、建設的保守主義(konstruktiven Konservatismus)・・・

若さを保つことを「得る」——我々は生体解剖には反対の社会をもっており、そして若さを経験することに反対する何物をももっていない。・・・
人種の改良・・・農民・・・国有化・・・ある文明を好み、且つ好まない。・・・
失敗とその大きな利得・・・

11 それにもかかわらず私は繰り返す。革命によって確立されたこのシステムが全く作動しないとか、その文明は全てのこうした文化的諸損失から回復することはありえないだろうとか、そうした諸論を導きはしないのだ、と。

しかし、これは勇気の欠如から、嘲りによって諸困難と諸災厄を処理しようとする人達を許すものではない。無知な大衆や家庭からめったに外に出ない人々を前にして、栄光裡に解説をなし、そして喝采を引き出すのに勇気などは必要ないのである。大学の教師が何等かの勇気を必要とするというのなら、その勇気たるや——研究のための情熱と頭脳のための輝く眼に替えて——厚かましさと性癖が発酵する動物的気炎をセンス・自制・ファイトのごとく見せかけるための勇気である。活動する人々の真の勇気とは暴民達の欲望を胸で受け止めることのうちに存在し、しかも我々が生活しているシステムが要求するのは、この勇気であって他のものではない。

1 2 我々の時代の「経済的非理性」(die wirtschaftliche Unvernunft)
——ハイエクは常連の教唆者である——はいつも分析の客観性を欠いて
いる。・・・更にそれが理論の上に彩られている限り、この理論は現実
に「主観の意志」でしかない。・・・

1 3 把握されるべき第一の論点はそうした計画のロジックに不都合は
何もないということである。換言すれば、この計画は如何なる矛盾・不整
合と必要条件の欠如を含んでいない——内的な不条理はない、しかも完全
に——。更にこれらの諸条件を満たす状態をもたらすであろう諸方法が指
示されうる、との意味において完全に運転可能である。それは肺のない人
のごときものではない。我々は先ずこれでもって自らを満足させるつもり
である。その場合、論理的諸条件とは離れた実行可能性と能率を保証する
ような諸条件のもつ諸問題については、なお考慮に入れられていない。

これは目下の非常に単純な仕事である。というのは、社会主義体制はその
ロジックにつき責められ続けているが、それらは経済計算と経済計画に
主として還元されてよいものであり、今や問責は明確に棄却されていると
言われてよいからである。バローネ、テイラー、ティッシュ、ランゲ、ラー
ナー。不可能とは何を言っているのか。パレート、ボールギャン、ミーゼ
スにおけるように不可能とすることと共に考えられているものは何かで
ある。・・・

我々は基本的な差から出発する。
商業的社会にあつては、生産——輸送と流通をも同様に意味付ける——
と分配——私的諸所得の形成——はその時々同一の過程の中で進行す
る。経済的意味における生産とは、諸要素を諸財と諸用役——最後には消
費者の諸財と諸用役となる——に変換する目的に適合させられるチーム
に結合する(諸要素の諸チームへの整理配列)以外の何事をも意味しない。
そしてこのことは、帰するところ、それらの購買を意味し、しかもこれら
の購買は再度の——諸企業がしかるべき種類と量の諸財を生産しようと
決意する状態の——出現の期待のもとで諸所得を創出するものでもある。
それはどんな商業的社会にも対応し、少なくともそれに対し典型的である
ようなケースでは、貨幣的・実質的所得の形成を生産諸用役と生産物の価

格付けに同一化することとなる。

その場合投機といったものには何が。・・・更にランゲの言う余剰の配分は——しかしそれは必要なのか？ 私の方法は違う。・・・コスト＝価格であってもよいのではないか、必要にして十分？ 何故に更にそれら全てが使い果たされるのであるか？・・・諸用役の価格付け——そして需要と供給に向けての価格付け・・・そしてこれらは諸所得に回帰する。・・・価格付け——それはこのようにして同時的にすべてを規定する唯一の同一過程でもある。区別はある、a)分配 b)選別 c)相続権（だが必ずしも排除されない）。

1 4 社会主義はそうした自動ルールを欠いている。・・・良くない・・・だから社会的生産物の相対的分け前分の決定は特別経済的問題 (**extra-economic problem**)として別途の問題となる。言ってみれば経済的効率の考慮がルールを形作る諸動機の中に入り込んでくることはあろうけれども、更に同志達が意識して最大能率の達成に合致するように社会的生産物の分配を図ろうと決定することはあろうけれども、分配は依然一個の与件であろうからである。更に道徳的考慮の問題のようにもみえる——だがそれは、その問題の本質ではない——そして作業はそれだから進まない。・・・

平等性がそれぞれ異なった好みの方に即して意味するものは何か、平等性は不平等性を意味するものではないのか、それぞれ異なった理想を実現させるには何が必要か、などは配慮しない。誰に対しても必要と能力に応じて——このことは付言すればそれぞれ区別されるべき事柄があるとの表現である——を我々は決して配慮しない。我々はこの構図においては単純に、「全ての成人(**Vollperson**)は等しく一個の単位として登場する」ということ、次いで「この単位は述べられた期間内に消費した財に対する支払いがなされなければ取り消される」ということ、を仮定しているだけである。・・・ピグーを！・・・

その場合、論証は二つのステップで、1)熟達した生産(よく知られた常識ではあるが)・・・どこで競り(**verauktionieren**)が(そのように全ては生産される?)・・・2)それが生産手段の諸価値を与える。この諸価値は、

全ての生産手段が使用されるという条件の下で比較調整され、そこから均衡価値(gleiche Gewichtswerte)が結果として導かれる。合理的な諸コストと賃金・地代が与えられる、ところが興味を惹く。減価償却といったことも。・・・そこで通常以下の生産(underproduction)は？ 貯蓄は？・・・労働証券(labor notes)・・・あとは省略が許されよう。・・・構築されたシステムでの分配としての作用の中に利子の問題が、だがこの点についても不必要、偏執者？・・・生産と満足(もとより後者の方が大である)。・・・

それら全てが意味していて、しかも意味していないもの、競争・・・最も粗雑な社会主義者達だけが——彼等はある種のシュララフィア(Schlaraffia…怠惰を良しとし勤勉は悪徳視する)であるか、馬鹿者だけが——それ故に反撥する。・・・競争は一個独特の義務だが、残念なことに至る所に押し入ってくる。事実(分配についてのごまかしといったこと)・・・あらゆる経済的制約と配慮が予見されてあれば、同じ方法と手段をもつことでもあり、そのようにして潤沢に至る。だがこの理念は影響力を持つ！更には冷笑して反対される。・・・見通されたこの不誠実(驚きである——正直な信念をもつ不正直。・・・取り除くことだけを要求しているような理念は独立した何かとして存在する。・・・

それはだが定常過程のロジックであるに過ぎない、しかし容易に拡張できる。利潤が動態では入ってくる。・・・だが次のようにされてはならない。すなわち、労働者は賃金だけを受け取ることができるのか、さもなければ、黙ってその全てをなのか。・・・何故にロシアではかくも容易に、しかも複雑な計算を必要とすることなしに、できたのか。・・・

帰結、財生産の基本的課題と経済的諸関係の論理は同一のものである。

——ロビンソン・クルーソー。

* シュムペーターは次のように記している。

限界生産力は価値限界生産力であったが、オーストリア学派の場合、物的限界生産力に或る消費者の限界効用を乗じたものである。この基礎に立って同時に生産の理論となり分配の理論となる彼等の理論をつくりだした。このような把握はただロビンソン・クルーソーの経済の場合において

のみ明白な意味をもつものとなる。クルーソーは様々な稀少な生産手段に対し生産物の限界効用である価値に従って評価する、すなわち価値を帰属させる。帰属説による生産手段の限界効用の認識は集権的社會主義の運営方式にまで発展させられた。バローネはそうした經濟が、原型においてクルーソーの經濟であるような様式で作動させられ、抽象的には一意に決定される一組の解をもつ方程式体系として与えられることを示した。・・・
「經濟分析の歴史」第4編第6章3・第7章5を参照・・・編者]

15 ロビンソン・クルーソー——彼がそれとは別に社会的性格を強調することに極めて熱心であった、ことにマルクスが価値を認めたという点が重要であろう。・・・

16 あまりにも早くから述べることはできないこと、ロビンソンが一週間のうち一定時間を食物の調達にしていることは、論理的完全化の中で、それが満足の最大という問題で他のどんな資源配分にも無限に優越するものだからだ、ということを表そうとした、ということ。

17 「簿記は並のことよりも、もっと重要だ」、クルーソーは、そう強調するに至った。・・・基本的な差(資本主義經濟との間の)・・・そこでは先ず所得を規定する、そして他の全てを入れ替えることができる。次いで価格が他の任意の諸量と共に規定される、しかし、これらの諸量が規定されなければならない。そしてそれが、すなわち、配分(allocation)である。・・・

我々は、これだけの生産手段をもって、この財のそれだけの単位量を生産することができよう。その財の単位量はそれだけの貨幣単位価値があり、しかも少なくとも他の用途を正当化するための必要物である。・・・

限界調整があるのみ、・・・限界生産費！・・・社會主義の下での貨幣(価格におけると類似——一般化された範疇)・・・

総合的につき合わされた貸借対照表・・・可能性は異論があるだけでなく、社会主義者自身がそれに疑いをもっている。カウッキーやその他は資本主義的価値付けとの連結において(auf Anschluss an cap. Wertungen) 価値を設けている。だがそれは実務的には重要であっても、問題を解くものではない。・・・

18 社会主義は、資本主義におけると同様に、産出の最大に赴く。ただし資本主義が正にそこまで赴くのは静態の諸仮定の下においてである、ということが本質的な点である！・・・経済的合理性の図式なるものは常に一個の最大を与える、ということよりも以上に理論が意味するところは何もないこととなる恐れがある。・・・

エゼキールに至る。・・・相対的シェアについてのノートブック・・・生産物提供の価値と一致する外部賃金の価値・・・直接的に与えられる比率(ratio)・・・生産関数の理論・・・

19 最大化条件は常に——それは条件だけのことではあるが——システムが能率のため常に試みるところのものである。・・・しかし各瞬間での最大化問題は、完全に第二次的な問題である。・・・我々はほとんどの些末な条件だけを明らかにしている(だからといって所与の量に即しても他に多くのことがあるだろう)、というのは、別な事柄が問題なのだから。・・・所与の量のパンを配分するとせよ、その場合、所与の生産構造が採用されているのと同じである。・・・全問題は長期間問題に転じる。

20 産業活動の諸条件がカルテルやトラストといった資本主義からはみ出してくるということが重要である。・・・ a)平等性は正義の、b)経済的なものは、より大なる効用水準の考慮の下においてのみ招来される。・・・ウェブの低落についての著作や他の著作、イギリス共和制に対する計画はどこで。

2 1 (最大化条件を満たすような解の)明確な一般化ははかり知れない困難を示すものであろうか? そしてもし我々が、経済的決定とは方程式群を解くことの問題ではなかったか、という段階にひとたび至るならば、その場合、社会主義の方程式群の解は——資本主義での多くの込み入りすぎた時間導関数、ラグの関係等々は主として寡占状態から来たるものであるから——全面的ではないにせよ、そうした困難を免れているだけに、技術的には、はるかに楽しい作業となるであろう、との疑いをもってよいのではないか。・・・

真実を言うと私は不運であったと思われる。私がそれを告白するべきであったその前に、私は社会主義システムの論理がどのように設問に召喚されるかを理解することは困難であることを見出していた。そして今、類似の告白をしなければならぬ訳でもない。資本主義のシステムは果たして方程式群を解くことによって作動していたのか? この点が極めて重要である。調整や再配置における勘(かん)による方法(**the method of feeling by adjustments and rearrangements**)が商業社会で採用されている方法であること——これが生産問題を解く合理的な解への道であるのかどうかは明瞭ではない。

2 2 選抜(淘汰)と配分・・・最大? 競争・・・私はそうは言っても読者が見極めるだろうと確信している。・・・重要度が些細であったとしても、無意味ではないということならば、完全競争は二重の意味をもつ。・・・適正は、選抜(淘汰)の一つの方法である。・・・このようにして比較においても再度、最大が・・・それは些細なことといったこと。・・・他の全てのことは第二次的。・・・完全競争についての改良、a)原価計算、b)所得の限界効用。

2 3 価格の性質と所得の性質・・・社会主義社会における地代・・・移転のコスト・・・重要性と配分の諸指標・・・労働コストだけではない。・・・諸利潤は他の支払いを満たす——各々の所得で加重せられた搾取の諸

指標。・・・各産業は受け取るものを支払うという含意——そうは言ってもそれがそうである必要はない。・・・平均費用原則の採用の中に・・・最適状態の性質、限界効用の働きの故にそれ(総効用)は当然大となる、と言われるのならば、それは疑わしい。・・・ここそこでウェルフェアについて・・・

「技術」についても・・・今や、豊かな遺産、そしてとりわけ、あり得たとしても静態的な問題である。・・・しかし「何故に、それにもかかわらず、進歩が重要なのか」については後に検討するであろう。・・・指導と方法がつけられなければならない。・・・「飽和的潤沢は達成されるや」(“Saturation erreicht sein?”)・・・この言葉は尚言及されない。

24 与えられた所得、自由な選択、要素は与えられている。・・・需要は与えられている、そしてそれ故に価格は $p_m = \varepsilon$ 、数量が与えられたとして。・・・それはあたかも所与の生産関数に即して一つの結合のみが得られ、しかもこれは内生的にのみもたらされ得るものであろう。・・・多数決が決して最大をもたらさないであろうことは、明白である。・・・更に生産方法と同様に財の種類も数量も決まる(所与の生産関数)、要素の価格が与えられるならば(競争があるならば)、要素の価値は $\pi q = \varepsilon$ よりも大となることが決まる。・・・生産費、意味?・・・その価格はそれぞれ手持たれている要素について質と均等になるところの価格である。限界生産性(Grenzproduktivitäten)との関連でいうと、「収益」(revenue)一単位当たりの要素価格は等しいということ、そしてこれらの諸価格は調整され得るということである。・・・故にどこでも価格=限界生産費が形成され、且つ、供給=需要である。・・・多くの策定配列のうちの一つのみが上記の配列である。・・・他の図式・・・クルーソーの経済・・・サン・シモン・・・

25 我々の行論を次の段階で役立たせる目的から、またこれらの疑問を解き、しかも理念を確立するために(pour fixer les idées) 我々の社会主義国家——しばらくの間それを一国とさせておく——の経済的世話がエンリコ・バローネ生産担当相に信託されていると仮定することが便宜である

だろう。言ってみれば大蔵大臣が予算案を下院にはかるのと多分に同じやり方で、バローネ大臣はその経済計画を議会に——必ず——提出する。それは実際上一個の予算——その外側では「生活を得る」為の何の努力も残されていないであろうような包括的予算——となるであろう。バローネと他の人達——F・テイラーは真に必要な友である——は社会主義の実現を妨害しようとする異教徒によって持ち込まれた二つの不可能性の最初のを成功裡に論破した。

最大化条件と更に進んで多くのことが明らかである。・・・全てのコストは価格に等しい、価値の諸指数・・・だが部分的である場合にのみ・・・「強制される」場合にはトラスト・・・

1) それがさほどにはなされていないことは確かである。それに他の仕方であったならば、もっと良く成され得たかも知れない！ ということ。(だがそれは民主主義的実務であったかも知れないが、民主主義的理想ではなかったろう。)そして実際に合理的根拠からのものである。だがそこで加えて二つの事柄がある。・・・

2) 不作為については合理的でないと言及(実務的言及に即して)・・・

3) 社会主義者達はその含蓄がブルジョワ的だと腹をたてる。更に多くの社会主義者達は自由と民主主義との関連でぶざまに負けてきた(ランゲ)、更に人々は節約を欲しないので腐敗があり得るということをみていない。貯蓄が過小となる。・・・貨幣といったもの、それは何事をもなさないが、実在性が言い張られているのは真実である。・・・分配について、これもまた他とさほどに異なったものではない。・・・

4) 選抜(淘汰)はここでか、もっと後で・・・性情の変更・・・信じられない受胎についての如く泣く、それについて笑うほど愚かなことはない。それがどれほどに宗教的なものであるかを告げるのみ。確かに解放は資本家達にも・・・

5) 新しい性情が必要か？ (否 それは実務であるだろう)・・・非常に高い道徳的水準が？ 「どこで作動するのか」・・・成果に対し知識人は？ それは結果の良さに関連するのみ。・・・

そしてそこでランゲ、目的設定といったこと・・・異論は様々な好みの方ではない、尚また・・・どれ程に多くの生きる喜びが潰されることか！そこで規律と規律賛歌の必要性が。・・・どこで、恐らく官僚制に即して、政治的成果の劣等性・・・文化論——それによろしいとして、我々は全く合理的に「怠惰の中に良き優しき」を保つことになる。我々にはできない

のでは?・・・完全に成熟が示されている場合は、その時は何の説明も不要であり、そのように「解放」などを語るのは馬鹿げたこととなる。・・・しかし、それに対して絶対的理想が・・・それは選択の根拠として提供されるものではなく、そこには今なされるべきことは何かに対して選択の余地のないものである。・・・

資本主義の文化についてはどこで、病患、芸術といったこと? そしてそれはほとんどが大衆のためにのみ作り出されてきているということ。

・・・

26 各生産単位が「ある価格」(a “price”) ——それは限界費用に等しいか、または、ともかく比例している——で「売る」であろうところのものを生産すべきである、ということをこのルールは示してる。・・・だがここには混同の危険がある。それは限界費用が、時間の与えられた経過に関連させられた場合においてのみ、一定の数量的意味を担うという事実から起こってくる。一週間以内に鉄鋼追加一トンを生産するのに、あるいは列車の追加一本を走らせるのに、かかってくる原価の計算はその期間内に支払う全ての要素のコストを計上したりはしない。計上するのは一トンまたは一列車を追加するため蒙るべきコストについてだけである。一週間だけの問題なら原材料費以外の全てが實際上オーバーヘッドである。俸給や大部分の賃金すらもがそうである。そしてその価格が総費用のその部分をカバーしないという理由で注文が拒否されるいわれはない。もし、一か月、あるいはもっと長い——例えば一か年——観点からこれを問題にするならば、ずっと多くのコスト要素がオーバーヘッド範疇から離れて限界費用に算入され、生産過程を調整することになる。・・・限界費用は理論的文献の中では短期的視野と結合している。

何等かの突然の変化に直面して、社会主義的管理単位の経営者は今や歴史とは無関係な事柄となったコスト部分を——換言すれば、問題とする期間の長さとの関連で規定されたオーバーヘッドに帰属するすべてのコスト項目を——無視することになる。・・・しかし、このことは私が述べようと欲している論理原則をどちらかと言えば曖昧にする。すなわち、この論理原則は——人生においては事物が変わることなく期待から離れていくという事実を負うものであるから——生産単位が計画されるときか、現存している単位に広い範囲にわたる再編成が図られる時においてのみ、

実践的措置の中に見出されることができる。その時はオーバーヘッドコストはなく、減価償却費も含めて全てが主要・限界費用に入れられる。・・・社会主義経済の純粹論理を仕上げていく場合、言葉のこの意味を保っていくことが重要である。・・・入念に叙述すれば次のようになる。考慮されている場合では、課せられる限界費用は——事実上——課せられる平均費用と等しくなるだろう、あるいはそれらが実際に読み取られるであろうように、限界平均費用(marginal average cost)は追加的増加部分が生産せられた時、発生するであろうその平均費用に等しい、と。高度に重要な論文の中で、H. ホテリング教授は、一般的厚生を最大化にせんがためには、あらゆる諸価格が限界費用だけをカバーするという風に置かれるべきであり、そのオーバーヘッド部分は、言ってみれば、課税によって配慮されるべきである、という命題を以て彼の権威の重さを与えてきた。しかし疑問がある。どんな時間幅当たりの限界費用なのか。そして我々はこれに答えたけれども、尚、次の結論から逃げることはできない。見込み得る諸生産量と諸価格を計算する上で——これらの諸産出量や諸価格はその投資が行われた場合に見込みの中に入っている筈のものなのであるが——見込み得るべきオーバーヘッドコストを原理的に無視している社会は合理的な資源配分をなさないであろうこと、同じことであるが、欲望充足の可能な最大を達成することに失敗するであろうことである。

27 そうした構図を見て我々にショックだった最初の事柄は、資本主義過程についての構図との類似性である。今のところこのことに感情を害するような社会主義者はいないし、このことが自分にとって都合な何事かを立証してくれると希望するような、どんなアンチ社会主義者もない。実際次のような結論に至る。経済的結果における諸々の差は——バランスにおいて——両陣営が信奉していると公言しているほどには大でない。この結論は他の分析によるもので、単なる概念的な類似性によるものではない。コスト計算は一般的合理性の派生物であり、価格形成もこの図式で演じているものである限り同様である。貨幣は実体の貨幣ではなく、我々がそのタイトルを拒絶し得るように浄化されたものである。——次のような抗弁は初歩的な誤りである。将来に備えられる、労働によってのみ生起する、それに自己犠牲——最も不出来な田園詩は全く論破される——。本質的な差、分配は別な何物かであり、任意に理想的なものへと制御し得る。指導者やプラントや生産形態の選抜(淘汰)は別である。所得は何か別のよ

うに呼ばれる。このこととその構図自体は十分に詳述されなければならない。

第二の事柄は、この構図が特殊的に特殊なケース——自由にして完全な競争——と相性が良いということ。完全競争は社会主義者達と共にある種の聖油が塗られている筈であるから、多くの社会主義者達は、社会主義が遠く発展した将来に完全競争を実現する唯一の道である、と告げるほどに突き進む。・・・大企業の関連役職者の粛清・・・競争的企業者と大企業——何故にこの種の行論に人気があるのか。不平等に対する合理的な行論——平均以上の能力の育成の必要性・・・他の競争による指導者やプラントの選抜(淘汰)には触れられない。・・・

第三の事柄は、この構図が多くの可能な諸形態の中の一つに過ぎないということ、従って、必然的に「最良のもの」ではなく、しかもそうであり得る、ということである。このことはとりわけいくらかの人達(例えばランゲ)に——最大化の公理や他の諸根拠から——委託するのが良いかのように見える諸論点の中に正確に見られることができる。例示的に次の如きを受け入れる。議会による裁決は配分原則だけとし、そのフォーミュラが同志の需要に応じて如何に行動するかを律するとする、消費財の内容や装置との関連でどれだけの量をとったことは、同志達に委ねられる。正にその上に最大化が基礎付けられることになる。議会の裁決ではその最大がどれほどに少なかったかが告げられるということ。・・・誰が如何様に決定するのか——それは官僚機構であり、それを構成する社会主義が！である。・・・何を生産すべきかの決定が議会の議決という方法でなされると、予算の細目のかたちで裁決——または大臣への委任がなされるが、そこでこの場合の多数性はどのように機能するのかはもっともな疑問である。だが高位の知識人のある者が多大の影響力を持つことができ、更には順応に配慮を欠くとなると失脚させられるのはどんな人々かを予見できるとなると、そこで彼は単純に人民のため、及び、民族や国家の将来のため何が良いか——牛乳・衛生・住宅・禁止・スポーツ・文学など——を裁決することができる。それは合理主義者を変える。統治と決定の中樞をだけではない。・・・時間超越的の最大と瞬間的の最大は尚いつも民主主義とは別であるかも知れない——民主主義と個人的自由が混同されない謂れはない——。ランゲに従って、節約が甚だ不十分であるかも知れない、という点がとりわけ重要である。前もって見通され得るゴスプラン。・・・

何故に貴君は社会主義的経済計算につき煩わされるべきではないのか？・・・

28 これらの、および類似のケースの重要性・・・そうした重要性がどんなものであれ、社会主義的経営は——それら(最大を目指した相互に矛盾と不整合のない解としての計画を得ること)と取り組むことに十分な適応を果たすことで——非常に有利な位置にあるということが明白である。・・・十分な適応に達することは、商業的経営の場合にも達せられることがはっきりしていたとしても、それよりも煩雑な道程(*détour*)なしに——より確実に、より効果的に——なされ得るであろう。更にその上、その経済の持つ補完的部門の反作用についての不確実性から発生する諸困難の全てが著しく——言ってみれば最小限に——切り下げられるであろう。

これが社会主義経済の「実行可能性」に対する最初の障害(計算可能性)と取り組んだとき、私が当該経済システムの最適状態を規定する諸方程式を解くことは、社会主義体制の下では一層愉快で、しかも、希望に満ちた事柄となるであろう、と述べたその理由である。と言うのは一見してこの困難なるものを考量しようと試みるや否やすぐさま、第一次導関数、タイムラグ関係、「世襲」の諸現象など、そうした厄介な事柄の大部分がこれらの方程式群の中に侵入してきて、以てその単純な古典学派的諸系列を完全に破壊するからである。

不完全競争の諸条件の下においては、完全適応の一意の状態の正にその存在が——純粹理論の中の最も純粹なものの枠内ですら——しばしば極めて疑わしいものとなる。例えば、与件の各組に対して合理性の判定基準を充たすような「生産され、消費される生産物の諸価格と諸数量の一意に決定された体系」が存在するには、二つの想定が必要であり、この想定とあまり重要でない例外を除くと、その状況の何等かの変動に対する反作用がそのシステムを再構築していく過程で遅延や損失を引き起こすことがしばしばであり、いくつかのケースではシステムの構築そのものが結局のところ達せられないことすらあり得る。反作用そのものが遅れさせられる場合と同様、急き立てられる場合がある。もし全ての生産者達が価格における上昇を一斉に達成するならば、それは供給される数量における増大を

もたらずであろうし、更にその供給量の増加は価格がもはや適応を図り得る水準以下に迄低落するほどのものであり、更にまたこれに対する反作用は再びその上に大きな距離を設けるような様々な結果を招くであろう。もし生産者達が、例えば反作用が彼等の工場内で時間多用型の再配置を含むという理由から一斉に反応しないのであれば、直面する諸状況は完全な適応に替わるような他のある方法を導く、というやり方で反作用がなされることに、帰するところ、ならざるを得ないであろう。・・・(社会主義経済の下での社会主義的経営の計画では、このような複綜性や不確実性は免れている。・・・編者)

29 私は走り書きした必要性についての私の覚書に、何の誤りも犯さなかったことに注意せよ。(投資公準が)書かれる必要のないことは尚正しい。・・・それは出来うる限り[3]に向けられている——現代資本主義のホテルにあるよりも、もっと幅広いものが観察されよう。・・・資本主義は今も世界的前進を成している——その最大限の給付(Leistung)がなされている。彼等は前進を伴って競争する！・・・創造的破壊(creative destruction)はもはやなく、彼等は不競争でもある。・・・その一方で、私の主張が将来のものにも通用するのか、または今日のものに通用するだけなのか、については見解が様々であることはすでに e)において指摘されている。・・・

(1) 自然諸資源のアメリカにおける浪費(Squandering)

(2) このようにして、大規模資本は資本保持(Kapitalerhaltung)を決定的瞬間に向けてはかる。そして生活の変化についての一傾向がつけられる。

a) その決着は事実がつけるべきである。・・・石が水中で浮上しようとする傾向をもつような、相互に反発し合う体系をもった諸理論について。・・・

b) 事前的視点と秩序だった前進・・・ここでは速すぎるか、また、遅すぎるかがある。・・・

そして概括していうなれば、我々の理論は「社会的利益に逆らっても、出来るだけ遅からしめる？」とするものである。

c) 社会主義は——一層の諸改良が期待されるならば——諸計画を推進するであろう。

d) 資本が償還されている場合か、あるいは、平均トータルコス

ト>平均プライムコストと現存プラントにおいてなっている場合においてのみ、私的諸企業は(新プラントの)導入を図るだろう。・・・

すでに投下された資本の価値への配慮なしにどんな改良も取り入れられるものは取り入れる、そしてそのようにして「資本の価値の保全とは言えない結果に飛躍する」、ということは正しいことなのか？

コスト漸減的生産をもってする競争、それがあつたのでは！・・・ロビンスは道路輸送について述べている、「賃料制」の自動車は資本の十分な価値を更新しなければならない、でないと(社債で生産がなされている場合であるが)倒産する。・・・このように、価格下落によって得られる社会的利得は、それだけ多いということにはならないのである。

e) どういう場合競争が入ってくるのか？ 旧式は削減しないだろうとなると、その結果、新式は安売りすることを望み得ない。かくして問題は、新式がただ一種のレントを——今やトータルコストが少なくなり得たのであるからして——持つことができるだけか、ということになる。その場合、実際に、その場合尚、買収価格の不安がある。ランゲ自身は社会主義の中で、それらが共に働くとしている。・・・このようにして、平均トータルコスト<平均プライム費用がもたらされたとなると、旧式の資本をもつ——そして価格引き下げをもよく為し得る——企業群にとっては、その場合、そのままが利用可能なかたである、当面そうでないとしても、その場合は償還(但しそれは恐らく急き立てられよう?)がある。しかしなおも何等かの改良が導かれることは正当であり得ない——さもないと一セントの節約が百万の支出を、公共に対しある利得を作り出す限りにおいて、正当なものとなすだろう。しかもそれは尚、独占的企業者自身が基礎付けるを得る一つのコスト的利益ということになろう——諸利益は恐らくは手渡されはしない(ランゲ、p 129、改定版IV)・・・そして資本保全への傾向は、資本の所有が企業者機能と分離されている場合には、「一層力強くさえある」であろう。

私は理解することに失敗したことを告白する。問題はどんな革新かはそこに存在している概念そのものに依存する、ということである。論理的問題点を明らかにせんがために、我々は非現実的な諸仮定を設けている。次の如し。新プラントの寿命、乃至、年齢は固定されており、旧プラントにおけると同様固定されて同じ長さをもつ。更にまた、双方共に同じ産出の流れをもたらすという非現実的な仮定をおいている。更になお、これらの産出は古いプラントが見捨てられることになる筈だということに見合っ

たものになるという仮定をおいている。その場合、経常コストの流れの現在価値の額+(プラス)古いプラントの償却期間の末年における新プラントの現在価値の額>新しいプラントのコスト、ということになる。このようにして資産の現在価値が最大化される時、革新は導入されて、旧式のプラントはスクラップされることになる。かくして社会主義社会での導入ということになれば、新プラントは導入されるであろう。且つ正に資本価値への配慮が導入を必要とさせているのであり、旧式プラントの価値への顧慮は何の役割も果たしていない——入ってこない。だからこそ、——出来る限り同じ価格を承認しないとしても——資源の社会的浪費はあり得るのである。平均的創造を伴ったものの滲透の中にそうあるのでは。

(3) 貯蓄——リカードと同様に正しい。貨幣は人々の下に来るというよく知られている見解は尊敬に値する。・・・ここにおいても、「常に」そうであるという同じ飛躍がある。

30 経営はこの差を実現するものではなく、直接的に生産のその過程を——指令集第三項を今や満足させるであろうような、より大なる産出物を生産するという風に——再配置する。・・・

31 そうした潜在的諸「利潤」は、それらが諸資源の再配分の方角と範囲を——今や合理的になされ尽くされているというように——一意に決定する、という機能をなおも満たしている。更に社会主義社会におけるこの変更は、同時にそれら自身を示唆すると言ってよいような、あらゆる他の類似の変更と整合させられることができる。それは諸改良の秩序だった連続の中に適正化されるものであり、商業社会のようにそのシステムに——阻害要因として失業やあるいは不況の原因としてほとんど破局に近く作用して——侵害を加えることはないのである。機構についての純粹理論の領域の枠内では、この路線に沿った行論は「社会主義のための万歳三唱」を以て完結させられるほどに感銘的なものとなり得るであろう。・・・しかし、それは実務(行)(Praxis)ではない。・・・そしてこの他計画に属するものとしては——ランゲが見落としているものへの言及。・・・利潤の最大は利潤ゼロであることはどこで?・・・ビッグビジネスが競争

的産業に優越しているのと同様の優越性についての論理的可能性は？・・・ランゲの場合、資本の蓄積についての率を決定しようとする精力の浪費がある、それは社会主義社会で生きていくための価格であろう。・・・

32 その標準所得では消費者の需要よりも少ない「手、乃至は頭脳」をしか惹きつけられないような仕事に対しては標準以上の報酬が必要となる。この割増金(*premia*)は煩わしさにおける差と明瞭な関係をもち、生来の、及び獲得せられた熟練にも或程度の関係をもつであろう。この点は資本家賃金(*capitalist wages*)も同じである。我々は実際にある種の労働市場をもつべきであろう。価格決定機構としては、それはどちらかと言えば非効率市場であろうが、最も民主主義的な——それほど民主主義的な市場はいくつかの市場でしかない——市場である。それは我々の社会主義システムの稼働において多くを変えるであろう。それは確定性に影響することはないであろうが、その一方でどんな場合にあっては諸資源配分の合理性を一層明瞭にもたらずであろう。

33 しかしながら、——何故に我々は——我々が結局において何等かの様々な例外を設けることに行きあたるとのならば——包囲において停止を為すべきなのだろうか？ 何故に実際に我々は我々の構図をまとめて捨ててしまわないのか？・・・より高い人間性を作り出す？・・・実務上の最大のために、その故は彼が偏に合理的であるからか？・・・大豆と小豆・・・最大——理論が最大というから最大・・・

だがもし我々がゴスプラン——ソ連の国家計画委員会——を攻撃する根拠を求めているのであれば、何故にそこで停止するのであるか？ 真実であることを保証するものは何か、大豆か小豆かはどうでもよいが、全てがそのようにどちらでも良いのではない。・・・私はこのようにして最大の性質といったものを、並びにそれから進んでこのことの資本主義との家族的類似性を、とりわけ競争的資本主義とのそれを、並びに恐らくはそこから出てくる他の——費用といったものを示す——可能性をも、持つ。・・・

34 最大であることの長所——その場合、所得の平等という場での最大もまた、如何に知性が問われることでもあることか、この行論は諸属性を切り捨てている。・・・

35 何故に、では我々の青写真は一括して捨ててしまわれぬのか？何故に我々は包囲に関して条件付き例外のところで留まるのであるか？・・・もし我々がそのため一種のゴスプランを受け入れる用意があるのならば、何故に他の全ての事柄においてそうしないのか？・・・競争的商業社会とのアナロジーで言えば、最良の配分に基づいた「満足の最大」の故に、我々の社会主義体制は実現されるべきものであろうか？・・・徹底したビフテキ社会主義——より良いなされ方、青写真に付加されることのできる実際上の根拠のみにある、最大について、ビフテキ社会主義——だけが、それで満足させられることであろう。すでに指摘し尽くしたように、その他の如何なる方法も諸個人の実際の経済的諸要求を数え上げるところまでは進み得ないであろう。それは真実である。最大は表現の作法 (*façon de parler*) だけのものであり、与えられた諸条件の下で、特定の諸数量の最大化、乃至は、最小化することの中に存在する経済的合理性に対する別名である。時には一義的な解を得るが、時にはそのもとには何もない——それでも全くという訳ではないが——場合もある。一個の新しい約束と一個の新しい文化と一個の新しい人間性のヴィジョンをもち続けているどんな社会主義体制もが、その時点にある実際上の諸欲求を無視しなければならないことがあるのはほとんど確実であろう。例えば大豆と小豆の選択の如く、視野の中に他のどんな配慮もないといった場合にあっては、社会主義はそれらを学ぶかも知れない。牛乳とウィスキーの間の選択には差があるだろうし、徒食(*loafing*)と住宅供給の間の選択は更に一層の差があるだろう。もし人間の肉体を他の形態に造形するならば、欲求における徳目などはない。・・・しかしこれは他の問題である。・・・我々にとって疑問はこうである。

青写真を受け入れようとする我々の動機が論理的整合性を検証しようとするものである以上、社会主義はそれから外れたケースをも合理的であると為し得るや否やである。それ故に次の事を強調しておく必要がある。社会主義は尚一層に合理化され得る。——何となれば、それを評価し、そ

して誘引する者がそれを指揮する者なのであるから。ロビンソン・クルーソーの経済学が不当に見下されているのでは。・・・

36 職業選択の自由もまた、それにどれ程長時間働くかについても：単純に最悪というわけではない！・・・社会主義者は利潤に向かう権利をもつ(濫用！とは隔離)・・・後に独占の下で告げられるところと衝突しない。・・・だがそれについては比較論で時に応じて多くを。・・・

37 これらの行論はその説得力の多くを緩めている。・・・個別諸利潤の直接的充足を求めての闘争。・・・巨大なジョークを語るにおかれた準犯罪的教唆・・・

38 我々が考慮しているタイプの社会主義経済と完全競争タイプの商業的経済の間にある——しかも、かくもしばしば強調される——特殊な家族的類似性については何事が言えるか？ 社会主義思想の一学派に言及しているのであるが、その学派は完全競争を賛美し、次の根拠において社会主義を弁護する傾向がある。すなわち、現代社会にあつては、それにより完全競争の諸帰結が達成されることができ、更に改良され得る唯一の方式を提供する、それが社会主義であるとする。・・・一種の逃避主義の態度である。社会主義の陣営にあつてマルクス主義者の弱点を見抜き、更に流布されている批判の弱点をも見抜いている。更に実際上の重要性を産業分野ではもはやもっておらず、将来も再度もつことは決してあり得ないようなケースに対して、それを喜んで承認する。感じるどころが何であろうと承認されるべきであるとする、という態度であり、そういう御都合主義を喜んで包攝する力量ある経済学者達に訴えようとする。それ以上に次のような戦術がある。社会主義が自分がもともと欲していたものを達成するであろう、とオールドタイプのブルジョワ経済学をして語ることを得さしめるということ。・・・だがそうは言っても重要であり、それは社会的油で聖油を塗るものである。・・・

社会主義経済からの距離において商業主義経済の形態はもとより様々である。その中で展望されているタイプの社会主義によく似ているのはどれか、は力点が置かれるべくして選ばれた特定の諸特性に依存する。いくつかの巨大企業によって制御された資本主義経済が他の如何なる派生物よりも社会主義に似ている。同じ意味で完全に競争的な資本主義ほど似ていないものは何もない。その分配原則とその経営管理諸単位の指導者達の選出方法はこのことを示すのに十分なものがある。更に競争的資本主義のエッセンスはと言うと、その正に生活の息吹くところが個人的企業であるところであり、金銭的な責任体制であり、個人的な成功と失敗のロマンスであり、人的な成功と市場的な成功の同一化である。これらの全てが社会主義のどんなタイプのものも正確に排除しようとして意図してきているのである。・・・もっとも、そこには競争がある！のではなかったか。更に私がおの場合告げようとしていることは「生き生きしているという意味で自由な企業が自己責任の下で意味付けられる」ということ。・・・大企業におけるよりも多分に様々なものがある。・・・選別と配分・・・類似性、有害ではない、しかし、利益もまた少ない・・・

血の気のない概念であることも真実である——理論家の完全競争——。そこからは価格形成についての少しばかりの形式的な諸属性を除くと、全てのことが消失してしまっている。ところがこれらのことこそが、我々が生活類似の構図の中で見逃している類似点を実際に示すものなのである。その生産物及び生産手段の市場にあって完全競争下の企業は、無限小的要素であって、それ自身の行動によっては、いずれの諸価格にも影響を与えないのであり、諸価格はその行動の与件として受け入れられなければならないのである。もしこのことがあらゆる産業における、あらゆる企業の保持するところのものであるならば、諸価格と産出におけるこれらの諸量に対する反作用は、我々の社会主義経済のブループリントの中での産出物の諸価格と諸数量によって充たされるべきものであるような、ある諸条件を充たすものでもある、という帰結をもたらすであろう。特殊な家族的類似性とはこの点を指している。それに対し大きな重要度を付すには、一人の理論家を必要とする。・・・ランゲは、多すぎる嫌いはあるが、多くを純粹理論から裁定した。

付

1 競争的諸条件を回復させようとする試みについての、並びに社会主義者と槍で武装したブルジョワジーが、このように思いやりを以て共働しているような場において株主の役割を象徴するものについての、ノート。・・・もとより、小さな独占化は損失を仕事にまで強制する。

2 社会化された産業・・・活動を調和する・・・それが事実上、諸産業から育ったものであることを如何様に注意させるか。・・・企業者機能の機構化が(恐らくはⅡで)、社会主義のための歩行調整・・・ワシントンにおける計画・・・

3 新規の投資においてのみ問題・・・過程の中での利子率はゼロ——ゼロであるように努める？・・・この意味において、規定する。目標が与えられる場合には、更に一層に規定することになる。サン・シモン、他の社会主義者達——恣意的ではない、あるいはいまだに対象であるだけである——それを強調されなければならない、だがⅤでは扱わない。・・・

4 中央銀行の社会化——その場合、そのこと自体の中に巨大な経済があると信じられてよいであろう、すなわち、当然あり得べきものであったものの回復に有用であること。・・・更に節約のためにも、但し現実に非論理的である。・・・最初に判断があり、しかる後、跡を追うというのは、今日では非論理的である！

5 甚だ当然のことながら、準備の整っていない状態での社会化の指示による試みは、それを合理的ならしめる——問題を創出する！——ように映じる。・・・ドイツの社会化案は討議によって次のように要約される。・・・実行に干渉を伴わないように、極めて慎重に。

6 社会主義Ⅲ、・・・私は社会主義的調整を確実にしたか。・・・一歩一歩とそれに向けて・・・資本主義に対する負荷について・・・発展諸局面の特徴・・・そして(3)において次のことを見出す、すなわち、正しい諸決定は最適のものである、ということ。・・・ただし、これらの諸決定が最適の諸決定であるのは、場所的諸要素を最適に固定していることによる。・・・国家は創出しはしない。

(2) ブループリントによる社会主義の比較優越論

摘要

比較はメンタル・イメージを伴った諸実体の間でなされるべきである。社会主義のブループリントを、完全競争についての古典的タイプを具えた類似の(家族的類似性をもった)図式に対応するが如く、評価するべきではない。また更に進んで社会主義の下では文化的諸力が異常に解放されるといった評価も排されるべきである。比較するべきは、社会主義のブループリントと資本主義のそれを単純にそれぞれの経済的効果の立場からのみの一個のもっともらしかるべき諸可能性としての対比であろう。同じ人口と同じ生産諸手段それに同じ技術をもってするそれぞれの実質所得の流れの比較である。社会主義経済にあっては、何をどのように生産するかについての諸決定が完全に確定的である。こうした解は資本主義の構図に立脚して行われるよりは、一層の確実性をもって及び一層の迅速性をもって得られうる。比較が競争型の資本主義との比較であろうと、独占類似体の資本主義との比較であろうと同じである。更には経済的な問題においてであろうと、その改革に起因する問題(「経済進歩」の管理問題)においてであろうと同様に、然りである。決定された諸解が、それが人的エネルギーと物的諸資のすべてを節約するという根拠から、「合理的且つ最適的」であることに注意が払われるべきである。この一意決定性こそが、たとえそれが唯一つの支持してよい優越性であったとしても、社会主義経済の効率性は——諸潜在可能性から言って——大規模資本主義の経済的効率に優越しているところが、後者が19世紀中葉あたりのイギリスの標準的産業の資本主義に優越しているのと、正に同じだけ大なものがあるとなすのに全く十分であろう。無駄に関しても社会主義は多くの局面で免れている。一例をあげれば、失業の殆どは資本主義世界における技術上及び組織構造上の進歩に帰されるべき諸変動に根ざすものであるが、社会主義のブループリントではそもそも扱われるべき何物もないということである。そのように社会主義の経営は——可能性の問題としてではあるが——経済的ゴールに至るのにより少ないトラブル乃至は阻害ですませることができよう。・・・その他 (編者)

Ⅲ—(2)—1~49

ブループリントによる社会主義の比較優越論

1) 社会主義の美学・・・途方もない文化的諸力を解放する、この比較の源泉・・・ランゲ・・・比較・・・文化的には不可能である。そして、どんな種類の人々を生み出すか、それが本質的である。・・・

1) 意味・・・一人当たりの生産(量)・・・見通されたこと、能率または相対的能率については何も言えない。・・・競争と独占の間の比較の困難性・・・及び様々な諸段階における諸関係・・・更にそれだけでなく、資本主義との比較は様々な異なる諸段階に属する場合には可能でない。・・・文化的といったものの比較、資本主義がもち来ったものは何かの検証が必要・・・人々が捨てないもの・・・ブルジョワジーの文化的業績・・・

2) 我々は資本主義を何事か——それが欠乏からのみ成り立っている何事か——のように見捨てることはできない。単純に盲目的な希望を託する(たとえ覚醒(Enttäuschung)が充分になされていないとしても)こともできない。・・・更にまた、能力と失業と構成の無駄も単純にはいかない。・・・尚、失業は資本主義が a) 自動的に水準を高め、b) 対策を用意している事柄である。・・・

3) だが確かに社会主義に対し持てる諸能力が過小評価されることはあり得る。あるいは節約の可能性についても。・・・(法律家3万人の良き頭脳、それは多すぎないか!)・・・様々な諸サービスが反社会的な利益に向けられているか、または生産過程の防衛に向けられているか、そういうことに無頓着である。・・・

帰結、そこには、社会主義は長期にはより少ない生産となる、というに等しい諸状況があるという可能性があるということ。ここでは恐らく所有制と官僚制についての行論が。・・・それはエッセイⅡ(資本主義は生き延びうるや)と衝突する。・・・金利生活者を欠く。・・・より大な収入に由来する蓄積(の喪失)は大衆にとっても一個の損失である、それは発展を促進するものであった。・・・有閑階級はみるべき節約をなさない——とりわけ今日では。・・・一個の社会の知識は、個々人の知識を変えることなしにでも変えることができる。(Intelligenz einer Gesellschaft kann

verändert werden ohne die Intelligenz eines einzelnen zu verändern.)

・・・選抜の方法は次のエッセイ(社会主義と民主主義)で・・・国家は創造しない。・・・

2 創出しない国家・・・他の機構、そして不幸なことに必要なことがあらゆる諸偏見の方向に逆進している。・・・諸々の偏り(deviations)を伴った諸困難・・・諸現場の闘争・・・

3 国家は創出しない・・・他方において、国家と自治体(Gemeinden)の生産者としての成功は、正しく疑問である。・・・

a) 顧客となることを強制することをもたらす態のものであるから、

b) ペイしないから・・・

戦争感情をかきたてる歪められた諸事実・・・

4 比較能率 案・・・

A それの意味のあることだとしても——比較はそれぞれの時代に対してなされる必要があり、「あり得たかも知れない場合」を論じたものとの比較は笑うべきものである。・・・とりわけ、対決的配列(Auseinanderliegendes)や極めて特異な構成、個々の好みの方角(Geschmacksrichtungen)もまた比較にならない。・・・更に我々は先ず文化的契機を除外する。・・・それは決定的である。更に新人類が生み出されるであろう、といったことを受け入れない。・・・資本家と人間類型(Menschentyps)——それは劣化されてきている、更にアメリカでは低級なものが輸入されている。人は残念ながらサーバント個々人であり、彼女達の中の恋人ではない。・・・経済的なものの比較だけに限定する——かくして他にして等しい諸関係の下での一人当たりの平均的長期消費支出、といった副次的な事柄と取り組む。分配問題とはどうか？ 時期の問題は除外されるのか？——実際の選択の場合も、その時と同様に・・・

B 無駄(浪費)(waste)についてのナンセンスははねつける、過剰能力—

—消費者のための生産、独占。・・・

C だが大規模事業に対しては、——それらが競争的経済に対してもつ
のと同様の——、(優越の)事実上の可能性は認める。

D その場合、大きな諸利益が・・・

経済的成果は——その死活的な結果の故でなく——参画(*Beteiligung*)
として意味付けられる！・・・現代のラディカル・・・生き長らえている・・・
ベンサム主義者達・・・積極的に、a) いつも100年遡る(またしても
古い産業的事実を)、b) いつも集中し得る限り、本質的でないことに集
中する。・・・

ここに至る前から定量的に告げられ得ることは何もない、ことは明らかで
ある。与えられた可能性に即して、恐らく優越している。しかしこの可能
性の発展は一つの別の事柄である。しかし経済学者達がうまくやれば、尚
正しく算定されよう。・・・

5 第2エッセイで述べられたこと(第II部)を想起するならば、念入りに
「資本主義の現実」(*capitalist reality*)という語の二重の意味に我々は注
意を払わなければならない。理論的な諸々の青写真の間で比較を試みる時、
心に抱くであろうような資本主義経済の異なった諸類型の間で区別を設
するだけではなく——この種の最もラフな区分は競争的とビッグビジネ
ス的な資本主義の区分であろう——、青写真とは区別されたものとしての
諸現実態を語る場合においても、同様に今一つの、且つ遥かに困難な区別
を我々は引き出さなければならない。資本主義の過程は、常にそうであっ
たし、今日の資本主義でははっきりとそうでなければならないのであるが
——自らに対し、時には援護的であり、時には敵対的であるような、殆ど
の場合、ある点では援護的であり、他の点では敵対的であるような——政
治的諸活動によって強力に影響されてきている、という事実がある。援護
的であれ、敵対的であれ、あらゆる時点での政治的諸活動は、それを欠い
た時、その資本主義のエンジンが生み出したであろうものとは明らかに異
なったものであるような諸帰結を強いることになる。

6 政府補助金、課税、保護、規制等が諸々の凶解を提供する。今や非常

に多くの事例にみられるそれらの政治的諸活動は、論理的に言って、その資本主義過程によって創出された諸情況と社会的諸構成から育てられたものであるということ、並びにそれらの諸効果はその(資本主義のエンジンの)作動の一部であり、一片であるとみられるべきものであるということ、並びにそれを包含することに失敗するような、ある「現実」なるものを想定することは意味がないということ、が論じられてよいだろう。全ては結構。他のところで進められてきている特定の制限付けが付せられたとしても、私はこの行論に見出されてしかるべき欠点をもっていない。しかし、きちっとした診断のため付せられる、あらゆる名称の中には、もしそれらが独立した諸現象ではないと言われるのなら、我々は区別し得るよう残されてあるものを尚も区別しなければならないのである。その最も適切な比較は現在と似たある時期——そこでは資本主義に向けられる敵意ある諸態度や諸行動が資本主義の果たす機能の道程で数え上げられることが甚だ多く、また説明されることが甚だ多い——を以てなされる時、我々は生産の資本主義的エンジンを語っているのか、またはその歯車を語っているのか、を各事例の中で明確ならしめることは、我々の権利であり義務である。この意味において、他のようにはなし得ないのだが、我々は「自由」(free)と「拘束された」(fettered)資本主義を区別する。・・・

この側面はかくしてエッセイⅡ(資本主義は生き残りうるや)との関連におかれる。・・・次のように言うことは十分に悪い。・・・

- 1) 長持ちさせられた機械が良きアナロジーであるかも知れない。社会主義者は安易にそれに手をつける。最初にこわし、次いで嘆く。・・・
- 2) 恐らくそれは青写真と実業界から与えられた諸現実の間の区分だけのことであろう。・・・だが現実のものは尚、他のものを含むことも事実である。・・・

(5, 6は“fettered” capitalism の概念を定義的に示すものとして、極めて重要!!・・・編者)

7 比較・・・理想対理想間のものか、しからずば合理的な実体と合理的に期待された実体間のものか、(entweder zwischen ideal und ideal oder zwischen rationeller und rationeller expected reality)。・・・後者の場合には、傷ついた、またはダメージを受けているか、第3の場合であるか

ある。・・・比較においては資本主義に関連する諸罪悪もまた区別される。即ち資本主義が a) 自動的に除去する罪悪であるもの(フリーな資本主義下での失業) b) 除去のための手段とメンタリティを創出するもの(拘束された資本主義下での失業)。罪悪は例えば失業。・・・
資本主義はその敵対者に自由に且つ鷹揚に資金を提供する。・・・

能力はストックとして注入される(Ability runs in stocks.)——そしてこのことは、見逃されたことが重要であるという事実に対する見地から、見逃されざる必要がある。

8 拘束されたものとの比較か、拘束されていないものとの比較か。・・・後者の場合、正に社会主義そのものと同様に仮説的である。・・・どこで執行部は機能し、そして背を叩き、給料を出すのか。・・・

9 それにしても拘束された資本主義は現実に正しい対立点なのか？もし作動することが全く許されないのが当然ということになれば、社会主義の優越は自明のことであろうからである。・・・多分そうだから大規模産業資本主義は、[それは実際のところ、既に消滅したものでもある]と笑って告げることになろう。・・・

しかもそこでは、それほど拘束されているのならば、更にもはや道徳上も結びつくべきものが全くないのならば、当然のことながら優越は明らかだと告げることになろう。・・・

「このことを真直に受け取らせよ、聖職者が生活を得ることになる」。・・・ワイントラストは存続し得る、1820年、1870年、1900年にいつもそうであったように、——個人ビジネスが無しには済まされ得ないことの論証。・・・

社会主義は一個のビジネスである、そこで若者は自らの手柄(?)($\alpha\rho\eta\theta\tau\varepsilon\iota\alpha$)を少ない犠牲で得ようとするだろう。・・・

諸要素の搾取(開発)の重要性について・・・社会的労働者、または観察者の反社会性・・・

10 選抜(淘汰)過程における私的資産は他者の同意なしに行われる個人的決定の中に存する成功の塊である。・・・それは尚、自由競争に即している！！・・・

拘束され、そして傷ついた資本主義との比較・・・それはだが他方において、その社会政策的給付でもあるだけのことである。・・・

11 帰するところ、リストに能率を保持するという要素を付け加えるということに行き着く。・・・だがその前に、例えば、理想—現実・・・拘束された、拘束されざる・・・といった一連の論点がある。・・・
価値の創出というだけのことであれば、多分に単純なものである。定義は単純に、同等の人々、同等の諸手段、同等の技術的諸可能性でもって、実質所得のそうした一組の諸層(a such strata of real income)を——時の経過の下に——生産しようと欲していること。・・・
(分配と厚生はここで再度には取り上げない、社会主義の楽しさといったことも同様。)・・・

12 能率そのものの定義・・・より良き能率はより大なる能率である・・・
(3)または(4)で終わる——だが甚だ民主主義的とは見えない。・・・短期的視点となる危険もある、そしてそれを意図する場合にだけのことだが「国家は長期的視野を採り得る」ということ。・・・拘束され、且つ傷ついた資本主義は現実態ではないのか？・・・それに知識人の影響が纏いつている場合には確かにそうである。・・・だがその場合、傷つくことも重要な視点であるだろう。・・・
同じ人々と同じ技術・・・同じか、または・・・意味されているもの(他の方法もあり得る——確かに——)・・・
競争的システムの下でも良き生産はない。・・・寡占・・・比較は他の配分を可能にする。・・・

13 「比較」においても短期?・・・そしてどのように、と誰によって、の問題に属するのか?・・・民主主義の問題に属するのでは! 恐らくはそうは言っても、比較することは意味をもち得るか、という問題から始まる。・・・

それは「理論家」の祈りの中においてのみ可能である。・・・

国営企業(資本主義の下での・・・編者)は今のところ恐らく能率が低い、しかしそれは社会主義がもつであろうような頭脳をそこにもってはいないのである。・・・労働者の能率は多分に究め尽くされていない——全ては少数のグループに依存している。

14 衰退しつつある、しかも拘束された資本主義との比較——私と友人との間の見解の差——

標題1 尚、なされるべき多くのことがある——前稿3との整合に向けてもまた——、ここそこで我々のやり方を試みる。

標題2 秩序付けの範囲内で——但し我々は「後で検討するだろう」ということを強調している。・・・「資本主義が遅く社会主義に置換される」ということが、その重要性を「益々もっと少なくする」ようなことは何もない。・・・飽和化させられる、そして静態状態に接近し、しかもそこで自由競争についての章句がくる。・・・どのように社会的最大がブルジョワジーに対して抑制されるのだろうか、が全く明らかでない。・・・社会化の出現に対し有利な社会的諸条件があったとすれば、とはすでに述べている。・・・

エコノミストは官僚制に期待しよう、だが他方で国家は何物をも創出しないという。・・・カルテル官僚・・・現代の大企業の優越性はどこで・・・社会主義の他のものに対する利点(Vorteil)は資本主義で大規模が小規模を圧倒する利点よりも大である。・・・

小規模企業がより良い状態にあり得るとすれば、それが良き人物の魂の表出である場合(wenn der Ausdruck die Seele eines guten Manness)である。・・・

標題3 最初の6頁は恐らく書き替えられるべき・・・だが、メディチが征服したものがあつたとし、しかもこの企業群が再び独立した場合には、

それらの企業群がメディチの管理人によるよりは充分により良く管理されるであろうことは今日ありそうにない。・・・

II (資本主義は生き残りうるや・・・編者)における独占資本主義について。・・・というのは、このこともまた競争があり得るとすれば、それだけ厳しい能率が要求されるということ。・・・しかし、いつもそうであり得るわけではない。・・・競争はその構成からして、資本主義が資本家を生贄にする (compet. constitutionally incapable of accompl. those preposses, dasz Kapitalismus den Kapitalisten opfert——insult——) という——(無礼)——そうした先入観を完成する能力はない。・・・規制を伴ったものは独占資本主義に内在する諸傾向である。・・・

15 かくして「諸欠点」と社会主義の強力な長所・・・グッドアイデア・・・それは(2)と(3)を連結するものである。

I 技術的配列からの客観的長所・・・仕事が省かれるところが多い、即ち徴税と弁護士(私はどこかで以前このことを述べている)・・・消費者のための生産といったフレーズは排除する。・・・

有閑階級と高額所得者(所得5000乃至50,000ドルの問題)の除去はさして大きな利点ではない。・・・かくして無駄の下には現実に何かがある。独占権力、それにその場合の執行能力も。・・・

二種類の物足りなさ——ここでは恐らく、大きな文化的諸力の解放についてと失業の除去について——、更に不必要な支出——広告と弁護士——、及び、能うる限り利用し尽くさないことの除去も。・・・但し資本主義は明白な失敗があった場合のように脱ぎ棄てられない。・・・質的な重要性については、極めて様々な見解がもたれる。・・・多くの補償付きの長所・・・恐るべき見世物——第IIエッセイで恐らくたてられた諸問題の解決——・・・

更に私にとって考慮すべきことは、資本主義が何を自動的にもたらしていくのかではなくして、どこに手段と意志を準備していくかである。(nicht nur, was Kapitalismus automatisch hervorbringt, sondern wozu er Mittel und Wille bereitstellt.)・・・どのように文化において、事業だけでなく、並びに技術だけでなく、科学や医術においても・・・

II 異様な精神(Psychosis)、そしてそれは瓦解する——というのは、私は

巨大なる新しい力と巨大なる精神高揚の存在することを信じないものだから・・・恐らくは常に傷ついていくものとして・・・全てが益々指導的で支援的になっていくというナイーブな信仰はそれに対峙するものをもつ。・・・

官僚制的世界では極めて重要である勲章と肩書のあるところでは・・・帰するところ、私はここでは眼を離している選抜(淘汰)の故に信用してはいない。しかし肩書には冷笑している？・・・移行のところでは来たることがあり得る！・・・

しかし私にとって二つの尺度は一体何なのか。・・・それにしても社会主義における無駄の諸源泉は？・・・官僚制？・・・経験と実績が一体的であるかどうかにかかっている！・・・

「だがこれらは諸々の可能性である」と——それはどこに来るのか？ 押しなべて、最初の節の後に来ることになれば、あちこちでということ。・・・しかし対峙しているものに印象付けられた現実性であるのならば、それでよいと言われてよいのでは。・・・とりわけ資本主義がこれまでに創出したものであるだけでなく、それに向けて手段と意志を準備している場合には——すなわち失業——解決されない場合は別な何かがある。・・・それも一つの可能性・・・

16 改革はあらゆる諸条件を充たすための上昇である。そして知識人達は現在あるものと同じ諸利益をもつであろう——この事実に対し、且つ知識人達に対しどういう重要性が与えられるかによる。・・・「都合の良いケース」ははっきりとした優越性に基づくものでない、「邪魔せられた」とか「搾取せられた」とかいった「自由な途方もない文化的諸力の設定」に基づいてのみ言われる。・・・化学工業の計画・・・

17 1) 帰するところ、今や比較であるものは何か。・・・自由なる資本主義・・・競争・・・ここに最大限の優越があるとする・・・それが失われた。・・・拘束され、しかも課税で縛られた資本主義・・・全ての三つの場合が扱われなければならない。・・・スコットランドと東プロシヤは決して扱われない。・・・生産機構の経済的立場からの非合理は——人々

に対して配慮がなされることができない点にあるのではなくして——これらの国々がそれぞれ非合理的数百万人を抱えているところにある。・

・無駄をもたらす計画についてはもはや・・・

2) 更に、可能性と可能性を利用し尽くすこと、の間にある区別が(die Unterscheidung zwischen Möglichkeit und Ausnützen der Möglichkeit)・・・ここでか、あとで・・・

3) 比較論は十分に他のように構成されてよい。・・・相対的能率に対する私の定義——遅かれ早かれ——に基づくことになる、ムーア(Moorés)のような概念となる?・・・その場合強力なケースが・・・そこでは諸々の質と論点が注意されるべきである。

18 自由にして巨大な文化的諸力の設定・・・

第2、我々が社会主義の行動主義者的問題(the behaviorist problem of socialism)と名付けてよいものについての我々の議論から

第3、事物がより明らかになる、一層の規律・・・

どこで失業を・・・一個の非能率としてのみのようにみられる・・・

衝撃的なものが多大にある。・・・それをもって、事物がもっと明らかになるところが大で、だからして集団行動の規律が(部分的には脱落することも)、更には他の規律の手段をも確かに、というところから等しく始まる(農業者にはそうでない)・・・

19 不確かではあるが、全てが排除されるわけではない、無駄の諸源泉。・・・無駄・・・行き過ぎの比較(展示のそれ)・・・但し不安と寡占は・・・資本主義との比較、a) 現実性をもった比較(Wirklichkeitsvergleich)ではない、(社会主義の)理想を以てする傷ついた(資本主義の)現実との比較である、b) 資本主義の内部にも改良はある——失業、その対策の手段の用意・・・保障をする事業支配人達による大規模事業体の危機・・・結びつける(hitch)よりも論理を思い浮かべることの方が容易である。・・・誰がどのように?・・・充分性に至る時期・・・能率の定義・・・諸条件の選択・・・どのようにと誰によって・・・悪しき事業・・・満足と不満足との排除・・・設問一般が意味をもつや?・・・理想—現実・・・
社会主義諸国が生産すべきものに対する諸手段の通路は、我々が所得を低

位水準に平等化する場合には、極めて大なものとなり得る。・・・但しこの増大は純利得(Reingewinn)ではあり得ない、そのための準備がなされるが故に。・・・

20 会社についてのアダム・スミス・・・そのように社会主義についての現代の著作家(ランゲのこと?・・・編者)・・・言わずもがなのこと・・・

2) 独占の評点簿には何の利点もが数え上げられていない。大規模事業体との比較について、もっと正確な原価計算が?!・・・

5) 失業・・・無慈悲且つ無条件の失業に根差している限りにおいてのみ。・・・部分的には資本主義性のものでなく、仕事に伴った妨害によるものも。・・・

4) 貯蓄と蓄積の誤った管理・・・

そして今や尚 6) 有閑階級の除去と更に一層の所得の平等・・・いずれにせよ弁護士の除去がある。・・・社会主義の下ではなくされる筈であるものを比較せよ。・・・それをなさないことが反社会的であるような価値豊かな力の合理的育成・・・

3) 資本価値の保全

最初にあげられるもの 1) 「他の無駄」、他の過大能力・・・過大能力の下での急速な発展については、社会主義の下でも恐らくは容易には避け得ないだろう。・・・

[消費のための生産、利潤は一種の手数料(a toll)である]。・・・我々にはこうした行論を用いない——消費者はそれ程良くには処遇されない!・・・ランゲの説、資本主義は資本価値を制限によって防衛する、そしてその場合、投資機会を破壊する、というもの。・・・しかし得点のバランスはそれ程大ではないのでは? 否、可能性はより大なる優越性のあり得ることを示している、と言われるのがベターである。しかしそこで次のように言われるべきであろう。全てはどのように機能するかに帰することになる、ということ以外は全く何事をも分かっていない、と。・・・我々が、社会主義は理想的に機能するであろう、と信じるのならば、我々は全て社会主義者であるだろう。・・・更にそこではポピュラーな行論、私的所有制や官僚制が。・・・

長期的な視野幅に由来する動機(Motiv aus Spanne long viewed)はあらゆる

る国々の人々——その義務を——愚かなる政治家によって邪魔されるにも拘わらず——結局において果たそうとする人々——にとって偉大なる讃嘆をもつ。・・・堅実な雇い主は将来のために働く。・・・

更にここにおいて正にその場合、それは理念と現実の、及び理想と現実の、比較についてということになる。・・・よく知られている誤りは些末なものであり、それを論破することに困惑させられる。しかし真実をポピュラーな信条の中で強調することは困惑の度がより少ないという訳ではない。・・・理論的平面での拘束された資本主義との比較は多分に変革についてのものである。・・・

2 1 改善され得よう——我々がシステムを扱うのに我々がそうしているようになすのならば。・・・そのように多くの事柄がある、しかし今のところ、現実に産出を本当とは思えない程に大ならしめるので、という丁度その点だけでも。・・・

需要が弾力的であれば、独占の重要性は大なものではない。しかし非弾力的である場合にあっては、事柄は甚だ重要ということにはなりえない。・・・需要表のシフト・・・殆どのが競争と二者択一的なものとしてあったかの如く扱われている。・・・競争はさほど重要ではない！・・・識別・・・統治の大きさにおいて二つがあるのでは。・・・蓄積・・・誰が一個の社会主義国家をファイナンスすることになるのだろうか、がわきまえられること。更に費用価格においてはより安くなるであろう、及びより多くの生産がなされるであろう、といったことは定かでない。

2 2 社会主義の理論と実際・・・大規模産業のように巨大経済と結合した目的(end mit huge economy)が優れている、そしてアダム・スミス・・・今や真実であるところのものは自己利益である、それに官僚制といったこと。・・・狭く且つよく定義された諸目的の重要性——利潤・・・各人は生産者として搾取(開発)され、消費者として資する。・・・加えて独占、またしても良く管理されているといったことに根差している場合には、高利益はある意味では独占化の事情に根差している——その意味でそれに非難が向けられるのは全く当たらない。・・・

法律家達は彼等の所得——以前他のところで述べた——ではなく、彼等の能力の浪費が問題なのである。・・・ワルグムンド事件についての小説・・・

23 会社についてのアダム・スミス・・・社会主義・・・(除去されるもの)・・・

1) 法律家や他の活動等、所有権を防衛せんがための無駄(浪費)——企業の国家行政との闘争(Kampf der Unternehmung mit Staatsverwaltung)の中に向けて陰を拡げていき、そのようにしてそれが他方において私的システムの道徳的破壊に至る・・・

2) 半狂乱の投資と新しい事物と資本の摩耗・・・イギリスの戦後の実績(戦後・・・第一次大戦後 編者)と1932年のアメリカの実績は自慢の諸原因と共存しているので数え上げられない。

24 それ故に、社会主義経済が資本主義の大規模事業より優越しているものであることは——資本主義にあって大規模事業体の経済が中規模産業の経済、我々が、ラフにか、または悪く、過ぎ去りし時代の多かれ少なかれ完全競争と結び付けようとする習慣の中で用いているようなタイプの経済、に対して優越するものであることが論証されたのと同じように——いつの日か論証されることになるだろう、という可能性を疑うことは不可能である。このケースは、一見して(prima facie)、我々が問題の社会心理的帰結を考慮に入れる場合にも、弱められるものでなく強められるということである。・・・

慣用的な意味での無駄ではないとしても、尚、他の分野に無駄があるのである。・・・寡占体制のもつ無駄と反社会的な能率、私はこれをどこかで集中審議するべきであろう。・・・

単純に所与の量のパンの配分を考察する必要だけでなく、現存する装置を運転することも必要だ、ということはどこで。・・・このように尚も何事かが告げられてよいであろうもの、例えば戦争・・・更に能率の定義に即して公正ということとは？・・・戦争と有閑階級の切除はどこで？・・・

25 そして適切な規模を以てする競争・・・比較に際してはより良くなし遂げられる。・・・ビッグビジネス同様にそれだけは優越していることの可能性・・・

競争、所有、動機・・・自己責任・・・誰が官僚制を知っているのか——大市場が如何に良いか。・・・交易と貿易(T and T)・・・

国家は諸動機を創出する可能性をもたない(State have not Möglichkeit, Motive zu schaffen.)。資本主義体制における国営企業・・・些細なことに対応した位置・・・8時間制は戻される・・・健康と競合することは少なくない。・・・それは資本主義の一つの源泉をもたらす。最も平和裡に、且つ非政治的に。・・・失敗に通じる——代表者の欠如・・・責任、動機付け、官僚制・・・国家は何物をも創造しない。・・・

26 必要に応じて各人が、はどこで。・・・可能性は最高の給付を引き出すことに結び付けられるといったことが重要である。・・・

ランゲと私の理論との区別・・・私は商品引換券(voucher)が今や無価値になることはないであろう、と論を進めることはあってはならない。・・・人々は地代を受け取る。・・・利子の支払いを排除するような実行案をもち出してなされるべきことは何もない。・・・所得は賃金的性質をもたない。・・・賃金は二通りに入り込む。・・・利潤——自動的に信用を指導する。・・・それ故に利子と共にあるもの・・・貨幣、価格、所得、需要に戻らなければならない。・・・労働の衰えている質・・・監督がない、職業選択がない。・・・

他の可能性 a) 我々の構図は他のように構築されてもよい、 b) 別な構図。・・・資本主義との家族的類似性、しかしそうすることによってのみ、私はラフではあるが競争的資本主義を完全に論破する。

27 国家は創造しない。・・・経済が統治に対して——並びに同様、政治(策)(Politik)に対しても——下位に位することは正になかったとする論点、自由は正に政治的装置が全てを支配するものではないということの内にある論点。・・・

階級から発進する、どれ程に良く、または悪くなされたかに依存する。・・・

発展段階は可能性に対する予備的設問よりももっと重要である。・・・私はそうしたことをプラトンに任せる。・・・可能性に対しては、そこで社会主義は大きく優越している、だが動機付けは選択(抜)次第である。・・・

課税によって推進力を失った拘束された資本主義について、・・・比較においては、トラスト化した資本主義あるいは競争的資本主義との——自由なる資本主義あるいは拘束された資本主義との——そもそもどんな資本主義との比較なのか。・・・田舎の広告——単に一個の技術問題であったのか、それとも個々の俳優達がタバコを吸っているのもあって欲しかったのか、何れも望みうる。・・・読者を愛しはしないだろう——最良の成果(*best performance*)——プラトン・・・

28 かくして私はもう一度、移行上の諸困難の議論は——別に取り扱われるべく——先送りすることとし、更にそれらの諸困難が——それらが社会化後の数十年間に渡って様々な結果をもたらす、または歪めるであろうことはもとよりのこととしても——完全に克服されているという想定をおくことにする。こうした諸限定によって設せられた領域の中においても、そうは言っても、我々は尚、社会主義の実体が赴き易いところのものを描き出さなければならない。それは社会主義の理想化された構図ではない。我々が資本主義の実体との比較を設する時はいつでもそうでなければならない。もとより我々がある理論的なシェーマを他の理論的なシェーマと比較することは構わない。あるいは他に、何等かの種類の完璧に理想的な社会主義を完璧に理想的な資本主義と比較してもよい。しかし次のようになすのは無意味であり、不正直なトリックであると言えるだろう。即ち、我々が知っている——正当に検討された——あらゆるその染みと汚点と共に資本家の諸行動はもとのデザインに不忠実な以外の何物でも決してあり得ない、となす傍らで、社会主義者の諸行動はその理想の完全なもの以外の何物でも決してあり得ない、と想定するような比較は。しかしそうは言っても正確に殆どの人々がそういう比較をなしているのである。社会主義の優越性が先験的に(*a priori*)明白とするような社会主義者の信念は正にここに根差している、と告げても決して誇張ではない。

29 あるタイプの社会構成は他のタイプのものよりも、その理論的乃至は理想的構図から偏奇(逸脱)することが起こり易いであろうと論じることは可能である。しかしこのことは逸脱のそれぞれの種類に対して別々に論証されるものでなければならないであろう。更にそうした論証は博士論文の材料としての用途をもつものである限り、次の点が心に留め置かれるべきであろう。即ち、資本主義のケースにあっては、我々の先行する進化の過程たるや、その個々の歩みは進化の過程の本質的な諸特徴に関して決定的な証明とは必ずしもなるものではないということ。これを知ることが、その長い期間に渡る趨勢に眼が向けられる場合においてのみ可能なのである。

30 厳格な意味では、商業的社会と社会主義社会の文化的世界間の比較は可能でない。それは通常包括的な比較のどんな試みにも根差してはいない関説となるともとより別問題である。しかし世には容易にその比較を見出すような理想主義者達乃至は偏執者達がいる。彼等はいくつかの特殊な徴候の強調の上に、一方または他方を選好または排除するのであり、その特徴を他の全てを排除してしまうほどに評価するのであり、しかもその特徴を見せるよう社会主義に期待するのである。しかし、我々が——我々の理解が届く限りにおいて——一個の文明のもつあらゆる諸事実をそれと共に生み出され且つ死んでいく光の下に見極めようと決心するならば、我々はたちどころに全ての文化は固有のものとどんな他の文化とも共有するものをそれ自身の内にもつような一個の世界であることを明らかならしめる。このことはどんなケースにあってても比較の道程に立ちはだかるであろう。しかも我々のケースにあっては、我々が社会主義の文化的不確定性(**the cultural indeterminateness of socialism**)と呼ぶところのものがある。社会主義者の文化を商業的文化と比較する、あるいは一方を他方よりも選好する、といった者の場合ならば、そうする誰もが社会主義一般を比較乃至は選好するのではなくして、ただその中の自分のもてる個人的ブランドだけを取り上げているのである。我々が比較を経済的分野に閉じ込めようとする理由がこれである。私は個人的には経済的分野は第二次的な重要性しかもたない一つの局面であると信じている、にも拘わらずである。そうすることによって我々はこれらの諸困難から逃げられはしない。生産の社会主義的エンジンは多くの異なった方法で構築されるものであるから、我々はそれらをもっと・・・に還元したいのである。

3 1 上記のように示された諸理由の故に、私は商業的社会と社会主義社会の文化的世界を比較することには赴かない。しかし次のことは観察されるべきである。経済的分野に限定するとしても、我々をしてそうするように誘引する諸困難とは完全には縁切れにはなっていないということである。というのは社会主義は文化的に多くの顔をもち得るのとほとんど同じほどに経済的にも多くの顔をもちうるものであること、すなわち、社会主義のエンジンの経済的効率なるものは——その潜在的なメリットとデメリットが何であれ——良きにつけ悪きにつけ余地が如何であるかに大きく依存するであろうこと、並びにこの余地なるもの、帰するところ、誰がこれを運転するかに依存するであろう、ということである。この明白な論点はそれが通常なされているよりも一層に強調される価値がある。無邪気にもこの仕事が自分達の上に展開されるであろうことを決めたことととっている社会主義者の知識人達がある。彼等はこの仕事は余人ではなし得ないであろうと自分達のもてる諸能力についての確信を開陳するだけでなく、何にもまして最重要事はそのことだということが十分に論証され得ようと、これまた決めたこととしている。しかし我々はしばらくの間彼等の範例に追随していくことにする。いふなればあらゆる諸経験は、社会主義のエンジンのもてる諸々の可能性をフルに利用する(可能性を活動に転じる)ため要求されるであろうことを、ともかくも招来しつつある、という想定に基づいて我々は論を進めることにする。・・・次のことを想起されたい。上記の行論は要求せられる能力と経験の量が資本主義産業の経営に注ぎ込まれる能力と経験の総量よりも多くはないであろうということを確認しているのだ、と。

3 2 しかしながら、比較におけるエラーやトリックとは全く独立して、心的映像を以てする諸実体の比較(comparison of realities with mental images)に内在する危険は責任感というものを完全には欠落させてはいない人ならば誰の良心にも重く作用する筈なのである。

33 冷笑による及び思慮のない言い張りや否定による、そうした行論に對抗して身を守る必要のあるのは他の如何なるところよりも正しくここにおいてである。・・・冷笑と主張によって論を進めること——知識人達はここでは経済学の規律(学問領域)から解放されている。・・・社会主義者達は皮肉な笑いで以て多くの良識ある諸結論を避けることの技術を獲得してきている。・・・思慮のない言い張りや否定については次のことを観察するのが面白い。つまり議論が経済理論の規律的な力の下にある(学問領域に止る)限り、幾分か責任を開示することになるような両陣営の習熟した経済学者達が——彼等が自らの「正確なグラウンド」を離れるやすぐさま——その領域を自分達の想像上のものに移してしまう、ということである。このことは方法を切り捨てるということになる。・・・無責任性と行論の愚劣性の果している役割という点に関しては、友と敵双方の間に選択の余地はほとんどない。・・・必要だと、可能だと、論証せよ！・・・資質とプライバシーを欠く悪弊・・・極めて疑問・・・私はいつも自らを冷笑している。・・・

34 理想—現実の選択・・・現実にあるものと、そうであるとされなければならぬものとの比較——それは操作し得るものか。・・・しばしば過大視さえする、ボルシェヴィズムの判断にはツァーリズムの下ではどうであったかという設問だけがたてられる。・・・社会主義についてはここにも前もって封建的管理とのアナロジーが・・・それから所有制については他のどんな論点があるのか？・・・何が軍事的な結果であるのか？・・・両親だけが？・・・判断には社会主義それ自体が作用しているということを見逃す、という方向変化がここにあるのでは。・・・

35 純粹に経済的領域に限定されたとしても、比較の問題は——量的なものに限っても——解決をみることはないであろう。帰するところ、何等かの意味をもち得る比較である為には、比較されるべきそれに替わり得るものが共にはつきりと同じ時点に関係させられていなければならない。環境的諸条件——技術論的諸可能性、人々の数とタイプと嗜好、そういったものを含める——はそこでは同じであるということ、これらは比較能率の定義上少なくとも何等かの克服し難い困難とはならないであろう。我々は、

他に比して実質所得のより豊かな流れ(a richer stream of real income)を永続的に生み出すであろうような、そうした配置をより能率的である、と称するべきである。

36 この定義が明確な意味付けを担うのは、ただ偏に相互代替性を以て同じものであらねばならないであろうという意味で、単一の種類と質をもった消費財の束のケースに対しての場合のみである、ということは真実である。現実には所得の流れは消費財の無限のバラエティからなる。更に所得の資本主義的配分を正確に再生しているのでなければ、双方の相互代替性を以てという意味は異なった意味をもつものであろうから、どちらの所得の流れがより大だと呼ばれるかは、それほど明らかではない。しかし人々の嗜好が同じだと仮定する限り、この困難は次のような手法で処理されることができる。つまり殆どの経済学者が同意しているのであるが、富の消費の目的のため、多数の消費財のケースを単一の消費財のケースに縮約するという方法である。これにより我々の目的にとって本質的であろうことをも失うという危惧なしに後者の単純性を享受できるであろう。・・・社会主義が自動的にもたらすものであるところの資料目録の変化を究明すること・・・もし差が大きければ放棄する——だがその場合ケースが明らかとなる。

37 人々は社会主義社会の中で——択一的配置の中で何等かの与えられた状態におかれる——「裕福」(better off)であるのかないのか、我々の相対的能率の判断基準はこのことを必ずしも告げないこともまた真実である。というのは我々は全ての人々に、あるいはその中の特定のグループに、要求せられる相対的な努力の量については何も言っていないからである。もしも、例えばであるが、社会主義のケースにおいてより一層に長時間働くことになれば、そしてそのもとで呻いていることになったとしても、その時生産された総実質所得が永続的に商業社会のケースよりもより一層大でありさえすれば、我々は尚、社会主義のエンジンは一層効率的だと言わなければならないであろう。・・・それを好まない人は閑暇を消費財に見立てることでこの結論を回避することができる。・・・更に進んで、社会主義によって廃止かまたは削減がなされるであろう所得の受領者の

欲望に現在対応している消費財の生産は打ち切られるものだからして、・・・失業？ 社会主義者であることを喜ばせる。・・・そうしたことが段階に依存することは明らかである、更にどのように誰が運転するかにも依存することも少なからず明らかである。・・・生産能率の比較・・・それが厚生を担うことに疑いはない——しかし厚生(幸福)そのものではない。・・・社会主義に生きることの充足、それは読者に委ねる。・・・

38 私はコメント(最大化)のところでこれまで言っていなかったことをここで言うべきだろう。——資本主義の文化はこれを侮視されることができるが、侮視できない部分を意のままに切り取り、これを非資本主義的文化だと名付けることはできない！——ブルジョワジーの文化的成功・・・だが価値判断には決して赴かない。・・・信奉者にとって優越性と劣等性の比較は必ずしも必要でない、前もって格律(axiom)や道徳的確定性がある——今まで語られていない。・・・しかし少なくとも我々は社会主義者のエンジンの相対的能率に胎胚する様々な指摘をもつに至っている。可能的優越性についてはすでに語った。問題はどこまでそれらが我々を引っ張るかである。・・・はっきりしていることは何もない、ただ数量的な解が見込まれるということだけで突き放されている。・・・だが我々は以下を想起するならば直ちにこれを実現する。・・・比較のありうべき諸結果は資本主義的進化の段階——共和国が社会主義に転換する段階——に従って大きく異なるものであるから、我々は農業は例外として、十分に発達した大規模産業によって特徴づけられる段階に論議を限定することに同意することで、この障害を克服するであろう。・・・そうすることで移行上の諸困難を排除する——尤もそうした段階でも困難は尚残るであろうが。・・・我々は成熟性を定義しただろうか？・・・したとしても正確にしていないのでは！・・・またしても全ては古き発芽のようなものに依存するというわけである。・・・

39—1 社会主義経済と商業主義経済の間に存在する特定の際立った諸差。双方の経済の能率に及ぼす影響は、重要性の量的なところについては明瞭であるとは言えないものがあるけれども、方向に関しては完全に明瞭である。我々は次のように結論を見出してきた。すなわち、社会主義社

会にあっては諸資源の合理的な使用(employment)が可能であるということだけではない。そうした合理性に至るため開かれている諸方法が——商業的社会に開かれているものよりも——適用において一層容易にして且つ一層確実である、と論証されると期待されてよいとさえ言えるのだ、ということ。この路線で論が進められている限り、このことは——それ自体——可能な優越、努力の節約、無駄の回避を語るものである。社会主義マシーンがその理想的バランスを模索しなければならない程度は、商業的マシーンよりも少ないものではないかも知れない。しかしその模索たるや、燦々と輝く光の下で、しかも諸努力の整合の欠如によって妨害されることはなく行われることが可能なのである。

資本主義は、それが単純に無秩序(無政府的)であるのではないか、などとは全く言えない、とはどこで。・・・理論的な可能性があるのみ・・・多分ここで、能率についての規定、いずれの場合にせよ諸困難の引率に向かつての能率を・・・大規模事業体のもつ優越は保持される。・・・多分その場合、どのようにと、誰によってと、どのような精神で、が語られる、そして短期のそれが。・・・長期的視野を採り得る。・・・その場合選抜(淘汰)が・・・より良い車が常により良く機能するというわけではない。・・・しかし、そのことはセクション1において既に半分は告げられている。そして悪くまとめられてしまった。ここでは多分、a) 失敗は理想と現実を比較しようとしたこと、b) どんな資本家かは、傷ついた資本主義の中の現実である資本家。・・・段階はどこで?・・・a) 事実上さほど重要でないこと——転嫁されるべきでない、b) 社会の浪費(無駄)——見逃されるべきでない。・・・資本主義に対する公正でない異論・・・吸収した資本主義の経験や能力についての冷笑、及びその段階は長所を現実に実現されることができるところのそれ。

39—2 読者が唯一なさなければならないことは、自らを納得させるために、先に提示した行論を今一度読み返すことである。このことは基本的な産業的諸変化に関わるあらゆる事柄の中で、とりわけ明瞭であることはもとよりのことである。無駄と紛争を社会主義的経営はかなりの範囲で避けることができるのであり、その究極の目標をばそれだから一層速やかに描き出すことになり、一層円滑に実現されることができるのである。その上、諸変化乃至は「進歩」の問題からとは離れてさえも、合理性はこれら

のケース——主として寡占と双方独占のケースであるが——の中にある問題を、社会主義の下では、よく捌くであろう。これらのケースを捌くことに商業的社会は結局において一個の確定した結果を生み出すことに失敗しているのである。・・・今日不確定性と不確定性一般 (*indeterminateness and uncertainty in general*)、それにとりわけ寡占的市場戦略に根差した不確定性と不確定性は、過剰生産能力と他の損失的努力の最も重要な源泉の一つなのである。すなわち、一方で企業群に余分の能力を建設するよう下命する傍ら、他方で・・・

硬直価格——誇張・・・全体の諸ユニットが利用し尽くされてはいないとした場合、限界にまで利用し尽くすこともまた。・・・どこで、このことのリストの中に幾ばくかの論点が欠けていること、その論点はいつも前景におかれ、二つの誤りがある。a) 補償が検討されていない、しかも資本主義自身の中で如何に多く訂正がなされることができるか、その諸手段を用意することができるか、について検討がなされていない。b) 社会主義のイデオロギーを以て資本主義の実体を比較している、・・・所有？ 正義？ それに一層多くの所得的平等性？ ・・・どこで官僚制が・・・どこで、拘束され且つ損なわれた (*fettered and impaired*) 資本主義を以てする比較は。・・・私は、私が所得的平等の中にはどんなヴィルチューも全くないということを検討する、という危険を冒している。・・・責められることは、だが、それほど大きくはない、非常に多くの帰結から。・・・資本主義の内部で訂正があり得ること——手段は用意されている。一方には理想を、他方の側には現実を。資本主義の客観的事実上の結末・・・そして続いてここで、だが可能性のみを、どのように且つ誰によって運転されるかに至る。・・・選抜(淘汰)・・・

40 丁度留意した困難と軌を一にする他の事柄がある。それは競争的産業と独占的産業の能率を比較する、という理論家達の努力の——未だ結論に至っていない——諸結果によってよく描き出される。流行のユーモアとスローガンには敬意を払うとして、それらの幾ばくかは独占という見出しの下に大規模産業を包括している。圧倒的に多くの場合、それは技術的に不正確なのだが、我々は簡潔性を求めるが故に同じことをなそうと思う。完全競争の能率をあらゆる点で単一の管理単位を構成するが如く組織された——単なるカルテルや業界組織ではない——一つの産業の能率と比

較しようと思う。今や試みているのは、ある競争的産業が如何なる他の変化をも受けることなしに——言ってみれば法制的措置によって——そうした独占産業に転換させられたとするならばどうなるかである。競争と独占についての時の榮譽を担った諸理論をよどみなく語り、その上で、その産業は後者のケース(独占化した場合)では通常前者のケース(以前の場合)にみられたであろうよりもより少ない産出量に転じ、しかもより高い価格を設けるであろうと結論する、といったことは実際に容易であると言えよう。遥かに更に十分に正確な結果が定式され得るのであるが、ここでは立ち入らない。しかし我々が近代産業の「独占」を語る時考えているところのものはその種の事柄では全くない。管理についてのこれらの大規模単位と典型的に呼ばれるに価するような無数の諸ケースの中には、競争的産業が用いる諸方法から離れているだけでなく、大規模単位にだけしか開かれていないような生産の組織と諸方法を含む。大規模単位の経営は、それに加えて、競争的経営が平均的にもつよりは力量があることが多いのである。

これらの事実はそれだけで、そうした独占的産出や独占的価格が競争的産出や競争的価格——競争的産業にとって利用可能な諸方法で以て実現される、または実現されるであろうそれ——よりも一層に大きく且つ一層に安いということ、そうであることの可能性乃至はその起こり易ささえもを確立するのに十分なものがある。更にそうした諸独占なるものは、需要を拡大することと他の商品群の領域への侵入の不可避性の下では、事情次第の不安定なもの(*precarious*)であり、しかも規則的にそうであり、それだから、産出も価格も——結局のところ——独占的パターンに一致することにはなり得ないのが通常なのである。それ故に独占者達の業績を競争的諸条件の下で期待され得るであろう業績を以て比較することは完全に挫折する。たとえ、独占と競争の間の選択が実際に可能であるというケースにあってもそうである。もっとも殆どのケースでは、技術上と組織上の諸条件の故に一方かまたは他方かという択一を課すことはほとんどない。そのように疑わしいが故に、というのが、比較なるものは正にその意味において、ということになる。・・・反社会的搾取・・・大企業に向けて運行している国・・・大規模事業体が支配的となって以来の諸財貨のなだれ込みについての観察(最上と平均!)・・・

我々の主題に対し、このことから導かれる教訓は明白である。しかし私は他の論点に注意を促す好機を生かしたい。読者が私に対し社会主義の経営的諸命題から期待されるころのものを「成就の第一のランク」に記す

ことは疑いない。そこで先ず発端のところ——あまり遠くでない到達点に向かってできえ——道程に設せられた数多くの落とし穴のあることに警戒しなければならない。

4 1 冷静に——素晴らしい語句・・・そこまで、これは比較能率について何も告げていない、ということ了我々はもつ。・・・社会主義とそれに代わりうるものとの比較評価は超合理的選好の問題であり、しかも科学的分析の裁定(jurisdiction)を超えたところにある。諸事実、諸傾向、それに諸展望といったものの比較の単純な並列(juxtaposition)の意味での比較すらもが、もし我々が文化的表明を比較することを意味させるのならば、たちどころに不可能となる。・・・優生学(Eugenik)・・・誰によって、どのように依存する、という故からしてもまた出来得ない。・・・段階・・・理想的と現実的・・・静態においてならば・・・

4 2 しばしば私的所有制(Privateigentum)は最上であるだけでなく、唯一の可能な方法でもある、とされる。・・・そういうレッテルが貼られたことを前提とする。・・・機構とそれを如何にうまく運転するかとの区別。・・・諸理想(念)——一個の階級的利益・・・最良の人々をそれが排除してしまう可能性がある。・・・私は再三にわたって社会主義の超合理的諸側面の恒久的重要性を強調してきた。このようにして何故に私は——付帯的な但し書きが付くことを禁じながら——今や一層に狭義に定義されるであろう比較経済能率の議論に自らを閉じこもらせようとするのか、の理由の説明に行きついた。・・・世には理想主義者達や偏執者達がいる。・・・彼等の理想・・・諸文明の比較をなそうとする。・・・エッセイⅡにおいて用いられた基準について・・・社会主義社会における生活の充足・・・社会主義のパン・・・住民の雇用者一人当たりの能率、全住民一人当たりの能率・・・

4 3 人々はそれだけで生産的能率のより低い水準にあっても、より良い暮らし向きを告げることはあり得よう。これは思うに全くの良き意識であ

る。「厚生」(“welfare”)に加担している何物かであることは疑いないような何事かについて私は語りつつあるのだが、厚生それ自体につき語りつつあるのではない。・・・私がそれをなしたとすると、社会主義のパン以上のことは告げるべき何事もない。・・・パンの端切れは困難に満ちている。・・・更に恐らく解き得られるであろう一つの問題がある。・・・そうした恒久的状態は他と同様に良い。・・・社会主義のパンは、人々がより幸福であるか、または人々がより満足であるかしているならば、楽しみである。・・・適正ならしめられた分配、一層に大な効用。・・・益々以て最適である。

4 4 積極的消極的いずれにせよ、一個の消費財としての閑暇における差、だが満足感または不快感の中で秤量していない。いくらかの人々は、食べているパンがそれぞれ社会主義か商業主義かのパンであり、プレイしているフットボールがそれぞれ社会主義か商業主義かのフットボールである、というそれだけの事実から導くかも知れない。いつにおいても消費財の二つの組は同質でない。・・・逸話——何が非常に重くさえしているのか、どのように生産物は諸財たらしめられるのか。・・・別な所得をも資本主義は生産する、そこではそれがより多いかより少ないかが追求される。・・・但し、大方に対しては一層多くをとるが、他の場合には一層少なくと閑暇を併せたものとなる。・・・

4 5 我々の意味における社会主義のもつ相対的経済能率の問題に立ち還ろう。成就可能(possible achievement)という平面で、我々は一層の強力なケースを作り上げることができる。我々がなさなければならないことの全ては、我々の歩みをもう一度跡づけ、その上で一つの社会主義経済の論理的確実性と作動可能性についての我々の行論をもう一度検討してみることである。要点は、生産の社会主義的計画の純粹経済問題は、商業的経営が今日解決することを要求されている問題と比較して、一層難しいのではなくして難しさは一層少ないのだ、という命題に争点を求めることである。

恐らく「より容易だ」という論がここに飛び込んでくる！・・・良好に

置かれておらず、用法は制限的である。・・・それでも単純に我々は「より容易だ」を検討する。・・・だがそれは何を言っているのか？・・・より速やかに、しかもより確実に一つのシステムにおいて、そうした最適状態の達成能力がある、とりわけ不確実性の問題の処理において、不完全競争に即して特に。・・・明らかにそれは移行現象である。・・・他の点での私の定義に対するコメント、恐らくその隣に来るべきもの！！・・・

同じように優越、競争的企業に対するビッグビジネスの場合と同じように・・・資本主義経済の下では存在しなかった均衡すらもがもたれ、しかも極めて速やかに達成される。三つの形を整えた資本主義を比較せよ。・・・だがそれが意味しているものは何か、更に不確実性とは何か、そしてそれは三つの比較対象の全てに対してそうであり、進歩との関係に入ることによっても弱められるものではない。・・・尚、社会心理によってもそうである。・・・不確実性と能率・・・だがこれが意味するものは何か？・・・

行論のため産業的分野で完全競争が支配していた時代にあったとし、更に商業的システムと社会主義システムの作動様式に——すでに注意しておいたような——類似性があると措定するならば、双方のシステムに同じ水準の能率とエネルギーが与えられるとして、社会主義経営はより確実且つ敏速に正しい諸数量と諸価値を実現するであろうこと、が尚認知されなければならない。・・・それは第一の節約と名付けられ得よう。・・・まして(a fortiori)完全競争型が不完全競争型に置き替えられた産業社会にあっては、全ての企業が自分自身のあてにならない市場をもち、その市場を防衛するのに戦略的な動きと他のそれに対する反作用的な動きを以てすることの必要性の下におかれる、と言ったことになったとしても結果は矢張り同じである。そこでは結局において理論的にも決定できないことが往々であるような諸価値と諸数量があることとなり、社会主義がそれまで完全に欠落していた決定性(determinateness)をもつということになる。たとえ資本主義が決定性をもつとしても、最大条件を充たす諸数量と諸価値は長い時間をかけ、且つ費用のかかるごたごた——社会主義の管理当局は完全に避け得たであろう——という諸手段によって達成されるだけである。それにしても決定性は結果の合理性を意味し、何等かの非決定性乃至は遅延は損失と正常以下の成果を意味する。・・・最大化を究め尽くすこととの関連では？　そしてまた変革も？・・・これらのことは無駄の回避として表現できる・・・私は平等の条件に替えて最大化の条件を言って

いるのでは・・・不確実は変化(変革)において・・・そしてそこにおいて、それが本質的なのである、私は覚書ではこの点にあまりに少ない重みしか与えていない。

46 それ故に社会主義者達は——彼等が通常それに立脚しているところの——諸事実についてのあらゆる疑わしい諸理論とあらゆる疑わしい諸主張をなしで済ますことができる。更に確信充分に次のように主張することができるのである。すなわち、社会主義経済は何時の日か(資本主義の)大規模事業経済に優越することになるが、それは丁度後者が多かれ少なかれ完全競争型であった経済——我々の多くが過ぎ去りし時代(実際にそうであったか、または想像上のものであったかは別として)と結びつけることに習慣付けられている経済——に優越しているのと同じであることを証明するであろうということ。しかし優越性に対するあらゆる諸主張の中の最強のもの、十分に決定的な主張に至りうるその主張は、未だ尚、来っていない。・・・我々はそれぞれよく知られた主張をより良いものの順に並べることができるのでは。・・・論理的に劣っている場合ですら、それ故にそれが勝っていることもあり得る。・・・自由主義がその本質を見抜いている、——但しブルジョワジーが支配している限りにおいてのみ——ということは決してない。・・・だがコブデン——資本主義、自由主義——エラー・・・

社会の経済的運命を資本主義が託しているところの私的諸利益が常に理想的に完全なやり方で機能していたとしてさえも、その体制は——人々にも経済学者にもそれが容易には理解され難いような事実のもつ社会的政治的な帰結によって——尚不利に条件付けられているであろう。資本主義過程の各要素の経済的性質は貨幣を作り出す機構の道具一式(paraphernalia)の中に包み込まれているので、・・・。そしてどんな影の形態が・・・利害が(社会的不安の中にあっても)・・・傷ついた資本主義・・・社会的機能は私的利益によって充たされる。・・・有閑階級はさほど重要ではないかも知れない。・・・大規模事業体の行動の残余の批難はさほど重要ではないかも知れない。・・・セクト的な利害対立・・・1) 一般的、2) 今日的、3) 支持的・・・

47 資本主義の下ではあらゆる費用が算入される、しかし他方では多くの費用が存在していない。例えば失業者に即した労働コスト、その中にある何事かが相当する。・・・要素がその新しい雇用の中に付加するであろうものがある。このことは結局、次のことを告げることになる。すなわち、当該社会の環境のもつ一般的諸方向に開かれた、あらゆる諸方向の下で、生産はそれが合理的になされ得る限りで——しかもそれ以上にではなく——遂行せられる、ということ。・・・この論証は多くの疑問を残したままにしており、しかも他の諸点を考慮に入れると、上記の批判のようにはならない。そうは言っても、いくつかのコメントを付すことは有用であろう。

我々の論証の最初のもものは経済生活の静態的過程(a stationary process)——そこでは全ての事柄が同じことを反復しており、その計画を覆すようなことは何も起こらない——に適用される。だが我々のテストが推定している限度では、社会主義のロジックは商業的経済のロジックと同等のものを実現するだけでなく、それ以上のものをもたらす。というのは、どのように経済的合理性が商業的社会の中で貫き通せるのか、を説明することが私の仕事であったとするならば、私は、諸価値と諸数量についての諸困難及び最適の諸成果(optimum of performances)——それは完全競争的パターンのケースにおいてさえ、とりわけ多くの不完全競争的乃至は非競争的パターンにおいては——に向かおうとする諸傾向の中にある諸障害について言及して然るべきであった。その一方で、こうした諸困難や諸障害のいくつかは社会主義の計画では欠けているのである。・・・説明、予見できないものを締め出してしまふ遅れのこと。・・・

例えば、次のような事例をあげよう。一企業の経営は商業的社会では諸々の期待の上に活動しているが、その期待のいくつかは高度に不確実であり、とりわけその戦略的な動き——それにより競争者達は自分の動きのそれぞれを考慮し合うという動き——についての期待の上での活動がある。明らかにこうした不確実性の中の少なくともいくつかは社会主義の下では、如何なるそうした戦略は全く存在しないであろうから、これを欠いているということになるろう。社会主義の産業的経営は経験上の討議の上の合意であるだろうし、それらの動きのそれぞれは——実行されたものも考えられたものも——他の全ての人々に知られているべきなのである。これは、ただし、事例としては大きい区分での一事例であるが、商業的と社会

主義的の社会がそれぞれ実現し得る可能的最適の諸属性が何であったとしても、社会主義的最適の方がより一層に一意に近く (uniquely) 規定されるだけでなく、実行上の可能的最適に対しても、商業的最適よりも、より一層に接近させられるところが起こり易いのである。・・・計画論でなさなければならないので、そのことと実行上の配意諸点は(3)で、時には膨らませて。・・・最大がより大であることはあり得よう。・・・規定することは非常に困難——共同研究者がいない、且つ動きと反対の動きが排除される。・・・そしてそれは十分に責任と努力の節約を意味している。・・・

48 かくして、能率(但し年々一人当たりのものではない)を以て定義された純粋に経済的なものの中にあってもそれ自身、私が掌握するのは諸事実だけである、一つのまたは他の方向に向かわせる諸要因といったもの、それらは、a) 形態上の属性と b) 「機能的」属性の二つのグループにおいて存在し、心理的と社会的の諸要件はおおざっぱにはあるが実行可能性において a) と b) に対応している。・・・そしてここでは差についての一組の性質が独占と自由競争との間の比較について描き出される。比較を成し遂げるには常にそうであるように。・・・正義と限界効用水準・・・ただし、それは実行可能性に即してなされるべきものであるのでは。・・・

我々は、社会主義経済の論理的整合性と合理的決定性についての我々の議論で行ったのと同様に、二段において論を進めるであろう。最初に、我々は新しい技術の導入と吸収といった産業的变化の諸現象には留意しないことにする。しかし、これを除きながらも、我々は今、その経済過程に内側と外側から作用するあらゆる種類の変化と妨害については容認する。そのようにして生産計画は——種々の不確実性の狭間にあって——永遠に変化していく状況に対する不断の適応がさせられなければならない。

論理的原則と実行可能性の双方の問題として、社会主義経済がこれらのその時々への適応を合理的なやり方でなすであろうだけでなく、それをなしとげるには商業的経済にとってよりも社会主義的経済にとって一層に容易であるだろうということも、またあるのである、と我々は検討してきた。その理由は、一方では社会主義がもつ生産計画の適応は——不確実性が考慮せられる場合はいつでも——一層に直接的で、そして確かなものとなるであろうことであり、他方では何等かの与えられた状況が——他にしてい

定ならば——不確実性を抱懐するところが社会主義社会では商業的経営におけるよりも一層少ないであろうことである。・・・

49 定義されたような生産能率の判断基準はそれが直接的にカバーする範囲を超えたところで適切であるように見受けられる。それにしても、もし我々がこの範囲に立脚するとなると、私が先に語った社会主義の青写真の中にある優越性を支持するような、その強力なケースは何であろうか？

何をどのように生産するかについての意志決定、それが資本主義社会では確定的でないか、または一意には確定的でないと言ってよいような諸ケースにおいてさえ、それが社会主義社会では確定的であるだろう、ということをお我々は検証してきた。更に進んで我々は次のことをも検証してきた。双方の青写真が経済問題の理論的には確定的な解決を示す場合にあっても、そうした解決は資本主義のマップにおいてみられるよりも社会主義のマップにおいて一層確実に、しかも迅速にみられるであろうと。このことは比較が完全競争的資本主義との間でなされる場合にも適当である。しかし比較が不完全競争的乃至は独占者の資本主義との間でなされる——そうでなければならないであろうが——場合には、更なる力点を置いて適当である。更にこのことは経済的エンジンの運行における経常的諸問題に対しても同様に適用されるが、その改良——経済「進歩」の管理(the management of economic “progress”)——に付帯した問題に対しては更なる力点をおいて適用される。

このことは一見して考えられるであろうことよりも遥かに多くの含蓄をもつ。そうした確定的な解決は決定機関の立場からして「合理的」乃至「最適的」なのである。そうした解決に導く道程を滑らかにし、しかも安全にするような何事が、人的エネルギーと物的諸資源を節約すること——所定の結果が達成されるのに必要なコストを切り下げること——と結合しており、更にはそのように節約させられたその部分が完全に無駄とはならず、ある意味で能率を高めることとも結合させられている。

社会主義的計画のもつこうした優越性は——競争的構図(competitive schema)との関連では——我々が合理性のより高い平面といったものに

帰せられる。例えば「豚サイクル」の名の下にすすむよく知られた浪費は、生産者の意思決定が直ちにではなく、一定の時間の経過の後においてのみ効果をもつためである。計画経済の下ではこのようなことは殆ど完全に回避し得るものである。この事例は諸現象の中の一つの重要な類を示している。このタイプにみられる反作用は——競争的合理性が求められている限り——全く合理的である点が問題なのである。それらは競争型青写真には内在しているものであり、それからの逸脱ではない。それらは社会主義の青写真には内在しておらず、社会主義社会ではあり得たとしても失策としてのみもたらされるだけのものである。不完全競争乃至は独占者のパターンとの関連では、資本主義の世界では諸々の不確実性の類または個別企業の市場と戦略に見合って提供されるであろうところのあらゆる人的エネルギーと物的諸資源の浪費を社会主義の計画は節約するであろう。双方独占の一般化されたケースのように理論的にも確実な規範を提示しないような資本主義のパターンはもとより経済的合理性の範囲から脱落する。不確実性は無駄の表現である。社会主義的配列は商業的配列と同等かそれ以上に合理的であるが、それは今迄合理性がなかったところに合理性を導入する最初のものなのである。社会主義経済は必要なデータの欠如の故に合理性の判断基準に答えることができないであろう、という結論——さきに注意したミーゼス教授の論考——に対して我々は今やアナログな行論を行使しているのである。これだけで他の一切のやり方を省略させるに足る。

公準、社会主義的経営は望まれた経済的目標を——それを結果としてもたらす位置にある誰によっても——より低いコストとより少ない混乱と損失で以て、更に技術上または組織上の進歩の過程をも保持することで達成することができるであろう、ということ。一見してこの命題の主張は実行上の問題の重要性という点で他のタイプの考慮を以て重々しく修正されなければならない、ということを我々は差当たって認識するべきであろう。しかし我々が青写真を語っているその限りでは、資本主義社会ならば景気循環をもたらすような諸特徴の——全てではないとしても——その多くが社会主義経営では取り除かれることができるであろうことが、資本家的態度と制度の枠組みの中では産業的進化の「計画化」に随伴する筈であるあらゆるそうした不利益——補償される以上のものであろう——を蒙ることを必要としないのだから、ということが明白である。社会主義的経営は、我々はそのようにみてよいのだが、長期的トレンドにほぼ近いコースにある船のように操舵することができるであろう。この点を更に精

査する必要は恐らくない。

私は上記が社会主義の青写真のもつ優越性についての信念を支持するのに言われてよいものを尽くしているとは考えない。二つの追加的項目を設きたい。

第一、商業的社会の構造は敵対関係を生み出すことが不可避的である。分別くさく、どのような形態の社会の中にも存在する個人間及びグループ間の——人間の通常の宿命であるような——敵対関係は別として、商業的社会においてのみ特徴的であるような敵対関係も存在する。そのいくつかは後で付説されようが、ここで取り上げられるのにふさわしいケースがある。そのタイプとは法曹的職業の諸活動に人材が提供されていることである。社会主義社会でも弁護士立ち合いの訴訟はあるだろうが、企業対企業で活動する弁護士の必要はないし、ましてや公的権威から事業利益を保護するための弁護士の必要は更に少ないであろう。我々がこのサービスを召喚するのに、悪意ある諸利益または公共の善の悪しき邪魔立てとしてなすか、悪しき邪魔立てに反対する生産の社会過程の有益で必要な防衛としてなすか、は本質的なことではない。いずれのケースも集産的社会主義の枠組みからはこの機能は存在しないであろう。このサービスの提供から弁護士の受ける国民所得の中の割合は無視してよい程だが、生産的能率の立場からは無視できない事実がある。成人人口百万人のうち500人が恐らく優秀な頭脳であろうが、その相当部分が——現在そうした諸活動及び同系の仕事に吸収されており——もっと生産的な諸目的のために自由におかれていることになり得よう。

第二、失業の諸原因の中には、資本主義の青写真に対応するには適当ではあり得ないものもいくつかあるだけでなく、資本主義のエンジンが失業の結果の面倒をみる諸手段を提供するという事実の光の下で判断されなければならないものもある、ということは既に検討されている。しかし社会主義の青写真は後者のいくつかからは免れていることも尚真実さを留めるものである。・・・失業とその処理に関して社会主義は——然るべき諸想定の下に——その青写真に書かれるべきことが何もないという理由からしても、資本主義の措置に優越していると期待されてよい。・・・とりわけ資本主義的世界では、技術上乃至は組織上の「進歩」に由来するか、または他の何等かの混乱に対するその経済システムの反作用の為され方に由来するものであるような、そうした諸変動に随伴するところの失業は

——これらの諸変動そのものが回避されるのと同じ程度に——大部分回避されるであろう。

しかし私は次のことを保持している。社会主義の経済過程の確定性と合理性から導かれた上記の行論は論理的図式乃至は青写真の範囲内では決定的なものであること、その他の全ては——その中のいくらかは実体上のまたは分析上のエラーというよりはより良いものに基づいてさえいるのだが——決定的なものではないということ、その理由は決定的であるには、1) それらが時代にまたがる偉大なる等高線の中では十分に重要ではないか、2) 一様にだけでなく作用する諸要因を強調しているか、があげられるということ。このことはとりわけ読者が誤りにひどく驚かされるような、そういう諸要因に適用される。この意見を支持する諸理由は前の章に提示した。そして繰り返される必要はない。——私は再度に渡ってコメントすることはないであろう。——しかし更なるコメントをいくつかの見出しの上に加えておくことは良いことであろう。

私は一方で社会主義的配列が——その合理性の程度に対応して、あるいは経済システムの諸要素の最適の諸価値への接近の程度に対応して——(潜在的に)つくられるであろう差のことを強調してきた傍ら、他方ではそうした合理性の進路に対応して、あるいは、別な言葉で言うと、それらの諸価値の最適性がそこからもたらされるような立脚点に対応して、つくられるであろう差のことを強調しはしなかった。それはそうあるべきであった。次のように言うのではない。産業は公的利益に替えて私利利潤のため運転せられる。利潤経済が——完全競争的であろうとなかろうと——どんな社会主義経済が為すだろうよりも、消費者のより効率的な奉仕者であるだろう、その利潤経済が進行する限りそうである、と。そうではなくして、差の問題であって、それは社会主義経済なるもの合理性においてより高度の水準——社会主義計画の優越性を構成する——に達することができ、だからこそそれがもつ然るべき力の殆どを他の論議に供することができる、という事態と同根である差なのである。これを逆から言うと、反社会主義者の諸行論は——それらが利潤経済の能率についての理論的諸考察に基づくものであると、あるいは所与の企業群が全てで消費者や労働者の視点から筋道を立てて正され得る全てのことを果たしているとの例証的示威に立つものであると——資本主義に都合の良いケースを基礎としようとする試みなのであるが、これこそ結着をみることなく、残されている理由だからである。

とりわけ、独占類似体の行動の滲透についての行論が部分的には合理性についての上記の行論の中に含蓄されており、それがそのように含蓄されていない限りそのことが弱点となる、と私は信じている。最大規模産業とは分離し得ない独占類似体の諸特徴の中心部分を私が社会主義の青写真に好都合なケースならしめようとしている、と一見してみられる可能性があることは確かである。私は社会主義が一個の奇跡——非競争的なものを完全競争の原理に従ったものとして機能するよう作動させるという奇跡——を果たすことがあり得よう、ここにおいて、と述べる資格があるとみられる。——ここに奇跡は我々が、a) 起こったもの、b) 不可能であることを知っているような大事件であると、私はみている。・・・このことによって社会主義者達が攻撃されるのは驚くにあたらない。しかし我々が検討したように、現代社会のそうした独占の性質と行動を考慮すれば、その中に我々の行論によりカバーされたものを越えたところは極めて僅かなのである。このことは生産の「独占的諸制限」と内在する過剰能力と並列して適用され、それが主要な点で「創造的進歩」を保証するための諸工夫の殆どそのものへと転じていく、ということが想起されるべきである。

我々がこのように経済学の用語で、あるいは浪費(無駄)の最小化という言い方で表現した合理性乃至は最適の諸価値の原理につき、読者が、我々が何故に他の諸々の無駄を追加しないのかに怪しむところが十分なものがあるだろう。再度に渡るようだが、そうした行論は——誤りでない場合でも——他の諸々の無駄たるやそれぞれ補償無しではあり得ず、その補償たるやこれを評価するのに如何なる確信をももてない、ということの故に結論には至り得ない性質のものであるというのがその理由である。しかしながらその中の一点は注目するため留保されている。多くの理論家にとって、資本主義の——特に競争的な青写真を引き出す場合——そういう限定の範囲の中では経営が理想的に能率的になされているという想定に立脚するのが通常である。特定の諸目的にとっては明白になされて当然のことである。しかし他の諸目的に対してはそうでない。どんな時にも専門的な意見が理想的標準とするものから逸脱すること、または偏りをもつこと、はある。そしてその逸脱なり偏りなりは青写真を丸ごとのものではなくして、青写真の中の部分乃至は一片としてみられるべきものの逸脱であり偏りである。二つの例が二つの最も重要なそれに該当するものを描き出さるう。

1) どこであったか、私はこの織布企業を考察した。その設備と製造法は私には——私にそのように言うことが許されればのことではあるが——飛び切り遅れた代物に見えた。生産の熱効率、馬力、光線すら物の配列が、原材料と機械の取り扱いが、原価計算が、全て悪いと言い得る限り悪かった。幾分かの激しい論法をもってすれば、それは一塊のガラクタと呼ばれてよかった。しかし私を驚かせたのは、それがその地域で最も成功している企業だと教えられたことである。その所有者型経営者が天才的な手腕を製品デザインや販路発見に発揮していた、というのがその理由であった。今やそうしたケースはワンマン企業の範囲の中での私的管理産業のある論理図式の中の一部なのである。そのような人物はいつでもオーガナイザー、または技術者、またはセールスマンとなり、しかもそのようにして自分が良くなし得ることに集中する傾向をもち、仕事の他の局面は多かれ少なかれ無視していく傾向を見せるのであろう、ということ。

2) 資本主義過程は本質的に変革の過程である。それがそうである程一層急速な変革をもたらす。人々はこのレースにおける成功に対しては極めて不均等に適応させられ、そして後れを取った大階層が常に存在する。この階層の中にある企業群はここに展望された意味では標準以下である必要はない。しかしそれらは衰微していく人々の行動がしばしばそうであるのと丁度そうであるのがしばしばである。これもまた了解し得ることであり、青写真の一部である。それぞれの、そしてあらゆる企業の中で自分が研究していることにつきどんな失敗をもなさないような、コンサルタント技師と能率エキスパートと、私は尚、会わなければならないのはこれ故である、ということとは全く離れても、どんな時点を採ろうと存在している企業群の相当部分は様々な方向から見て標準以下の能率にあるだろうと期待されて当然なのである。利用可能な最良のエキスパートにより磨き上げられ、しかもそれを全領域に強制することができるような標準をもつことができようどんな社会主義の権威筋の下でも、それは決して少なくないであろうと期待することは大いにあって当然である。但し社会主義の青写真の優越性を良しとする行論の主流派はそうしたところから論を導いてはいない。資本主義は非能率な経営や企業との関連において非能率なのではない、それに何等かの硬直的な標準の強制が——つまり、ノルマの設定が——多分に干渉とならざるを得ないとする含意をもっていて、それが混じり気なしの祝福とはならないということを立証しかねない、というのがその理由である。

このようにして、社会主義の優越性に都合であるような諸ケースによって、主として基礎付けられている我々の行論は、結局において守備を全うしているように思われる。しかし、たとえそれが、厳しく言えば、唯一の主張できるケースであったとしても、それで充分となすべきであろう。今や次のように述べるのが、我々が自らを納得させるために必要ではないだろう。我々の意味での社会主義社会のもつ能率は——そのポテンシャルティを言っているのだが——、資本主義下の大企業のもつ能率が19世紀の中葉辺りのイギリスの産業の類似的なパターンの資本主義(当然小規模)のもつ能率に対して優越しているのと同じ程度に、資本主義的大企業のもつ能率に対して優越していることはあり得よう。更に幾ばくかの未来が、社会主義的計画の劣等性を論じた行論をみるのに、我々がアダム・スミスの株式会社についての行論——それは同様に単純に誤っていなかった——をみるのと同様にみることになるであろう、ことも完全にあり得るのである。

(3) (2)の補足的パセイジ

摘要

カオスをその反対物に置換すること、資本主義的行動とは全く離れた何事かをなすこと、そうした社会主義的諸方法の中には進化的調整過程が存在する。改良の諸計画を整合するのに、またそれらを秩序だった継起として適合させるのに多分に効果的である。資本主義の150年において、いふならば食・衣・住の問題は、必要な諸財の供給キャパシティでみる限り、既に解決されている。しかしその成功裡の前進にも拘らず、無駄と妨害が含まれているところは多大である。そうした諸困難は摩擦的諸活動に帰されるべきもので、それ自体市場でよしとされ且つ市場メカニズムを通して調整されるべきものである。そこでそうした無駄と妨害を排除するためには、社会主義の官僚制的自動制御装置を備えた政府機構の諸決定が市場メカニズムに優越していることになる。投機乃至は他の諸失策の消去と資本価値の保全においても同様。他に分配と選抜の分離、硬直性と市場メカニズム、非決定性と不確実性など。・・・その他 (編者)

Ⅲ—(3)—1～29

(2)の補足的パセージ

1 正確に認識されうること一般と同じように、良き理論は、この他にと特殊にと、論点を強調することで害を及ぼしうる、ということ・・・不平等はあとで・・・自己責任と敏速な決定はあとで・・・

2 しかし利点の中には尚それでも憶測の部分もある。・・・

3 社会主義の他の諸形態は常に特定の概念を抱えている——それはまた準資本主義(quasi-cap.)的でもある！・・・競争的資本主義、その諸利益・・・自由と民主主義・・・理論、それは十分に消滅したか、または古い理論にはりついている。・・・無政府のギャンブルと無意味・・・
配分(分配)と選抜(淘汰)(Verteilung und Auslese)はない・・・
消費のための生産、まさに遠く離れている。・・・活動している指導者を欠く。・・・

4 個々人の利益の防衛に向けられる力の節約、・・・全く当然の成り行きとはいかない。・・・国家が巨大である場合にはセクト的利害がある——どこに劇場が建てられるか、どこに鉄道を走らせるかといったこと。更に政治と国家に対する防衛に向けられる力の節約・・・所得税、法律、それに国家それ自体がこの方向での無駄を意味している。・・・更に労働争議のコストといったものの節約・・・順応性——だがその前に同一の人々が他のように振る舞うようさせられることはないかどうか、更にそれは私的動機の重要性に対する問題に展開しないかどうか。・・・商業は利潤を永らえさせておこうとする、ヴェブレン(Veblen)・・・広告といったもの、極めて大袈裟であり、そして独特のものに映じる。・・・広告に対する美学的行論・・・

5 それに転換できないか、あるいはそれに一枚加われないか、そうした(順応性のない——编者)人々の大部分は絶望的に標準以下である。・・・比率は個々の国々で異なる。・・・心理療法に・・・この論点は私には決定的なものであって、社会主義者達の論理よりもずっと重要に見える、と直ちに述べて差し支えがない。・・・比較はそれでも「より容易」であるだろうか?・・・そしてまたもや不確定である。・・・その場合、独占との比較が、かくして能率の定義が・・・無数の結合した諸力をもってする現実のケースはどこで? 選抜(淘汰)はどこで?・・・

6 私は資本主義に対するある種の異義があるという困難に逢着する。それは子供じみたものであり、同様に——例えば消費者達のために生産するのでなく、利潤のために生産している、といったような——人々にはわかりきったものでもある異議である。もとより利潤が高められるならば、より多くが生産され得ることになる。その場合の技術陣——それは確かにそれ自身何かをもっている——といったこと。・・・この困難はそれを承認することによって、最も良く実在のものとなる——いつも初歩的な経済学を講じることはできない。・・・

7 (社会主義の利点として——编者) 最初に秩序だった連結が取り上げられる。その場合、資本主義もまた整合の装置をもっていること、そして更に社会主義は一層効果的だということ。・・・尚も常に高揚があり、沈滞は刈り取られている。・・・
もし我々が様々の可能性について語るのならば——そうする時、我々は偏執的な愛人や詩人のように「想像のあらゆる凝集」の状態にあることをいつも想起するのだが——、社会主義の優越はどんなこともが尚(?)であるが故に明らかである。・・・

8 集権的社会主義(centralist socialism)は産業上の、及び地域間の敵対

関係を締め出すべきである——しかしそれはうまくいって一つの理想に過ぎない。・・・それがより良く処理されたとする、そしてそこにはもはやすでに、事実に基づいた諸問題が存在しているのである。・・・すでにはやくも(2)において、平等である必要はなくして様々な形態を確かに多数派が賛成している、ということを告げた。更にその場合、私は生産手段は与えられていると述べた。続いて社会主義に対しては静態状態(stationären state)への接近が必要だと述べた。・・・私が大企業との比較をストップし、完全競争型の資本主義との比較をなしていることに注意せよ。・・・プリミティブな異論——利潤が除かれ一種の税なのだという——・・・戦争と有閑階級と無秩序も除かれはしない。・・・より良き合理主義者——社会的諸要因の包含・・・失業、無駄(浪費)・・・

マルクスはすでに「能力に応じてそれぞれから、欲求に応じてそれぞれに」(from each nach ability to each nach wants)となしている。・・・これらのことはそれぞれの社会主義的なものを撃つ！トロッキーといったものについて・・・

9 巨大な無駄・・・経営の全機関、そしてそれがビジネスであり、且つ今日の搾取形態であるところのもの、それにブルジョワジーが先ず創出したこと——ブルジョワジーの創設者に通行税を付したこと・・・ただ実地的問題に限れば、例えば価格——全く単純、高価格は生産を励ます方向を指示し、しかもそうすることで、生産が事物を利益あるものとするであろう。・・・安価なミルクは借地農(tenure)によって生産される。・・・

10 実質的狀態と、とりわけ失業はその役割を果たさない。・・・思っているよりは比較を・・・何との比較か、競争的かトラスト化されたものか、自由なものか傷ついたものか、理想的なものか政策的なものか。・・・ことさらに疑問はない。・・・順応(可鍛)性・・・興味を惹く、どのように私的家族が殺されるか。・・・唯一十分な社会的市民は標準以下的・・・植民地政府の態度・・・エデントン卿は先ず人々に慈悲を申し出るよう導いた。・・・待つことができない唯一の存在は、それを運転しようと欲している知識人達である。・・・

1 1 何故に平等主義的社會主義の下での充足最大化に関して、それが——ある種の正義、理想、の充足ということを除けば——所与の量が前提とされているのだから、何事をも意味していないのだ、と簡単に告げてしまわないのか。・・・だがそれでも尚、所与の量が、それが何であれ、より多くの効用を創出するということが残っているではないか。・・・

1 2 WBAがストライキを行った時、嬉しそうにくすくす笑う(知識人達が・・・編者)・・・しかも群衆は悪く行動し得ない。・・・解体を超えてその中に組織化が生み出される。・・・働くことや「義務」に対するラディカリストの墮落・・・働くことは必ずや始まる。・・・失業と変革・・・そのことについての事例・・・だがそのことは計画設定に属する・・・失業を説明するリストを待っているような組合の善(union's Gut)などはない。・・・社會主義に向かおうとする経済的ケースについて・・・平等性と長期的視野での適切な配慮・・・洗練についてのドップの苦情・・・諸君はムガールと労働組合事務局の相続人たり得ない。・・・

1 3 配分と選抜は最も重要な区別である、とどこかで述べた。・・・私が競争はそれほど重要ではない、と述べた時にすでに。・・・労働日の長さは最大律に即している(Länge des Arbeitstages nach einem maximum Gesetz)・・・資本主義的なやり方というべきであろう。・・・誰がそれほど知性的であり、そして限界効用の均等についての行論を適切な価値において見積もるのか、という言い回しを含んだノートはどこに。・・・最大状態の比較は別な事柄、それをここでは試みない——それ故に所得の限界効用の均等についてもここでは扱わない。・・・そしてそれは相対応した費用計算と一緒にしているのである(ランゲに還る)。・・・それにしても資本主義的な最大がより高い水準にあることには重要性がある。・・・更に社會主義的最大の資本主義的最大の比較可能性はここか後で・・・

14 合理的社会主義のためのデモンストレーションをすることを容易にする、という特別の関心から・・・あるいはそれが私には今や一個の比較のように見える論点に即しているので・・・労働は量的にみて——労働がもはや商品の労働含有量に即して交換されるものではないといった如くに——利用されることができよう。・・・

資本保全のための資本主義的政策について、国家は長期的視野をとることができるが、そうは言っても短期的誘惑があることが明らかである、という点でランゲの所論はピグーのそれと同じである。・・・

15 資本価値の保全についての留意・・・損失の回避と資産価値の保持——社会主義はそれをも効果的になし得るといふこと——はここにおいて必要である。・・・

16 私の無駄(浪費)論は第Ⅲ章において部分的にあるのではないのか?・・・硬直性、そこでは私は次のように述べた、硬直性は経済学者には手に負えないような事柄の一つである、と。・・・資本価値の保全と、ことによると貯蓄もが明らかに妨げられている。・・・進歩を阻害することによる無駄も。・・・私は適切に取り扱ってこなかった。・・・どこにも考察を集中していない。・・・我々は「二つのまたぎ(two sides)」を犯しているのでは?・・・

福祉のための能力を保存しておくこと。・・・「後で留意すべきである」。・・・推定は論証ではない——だが特に変わらないものに根差したものではありません。・・・

17 最大の性質!・・・
市場は理想的な民主主義的方法である。・・・貯蓄の本質は社会の中では明白なのは。・・・等しい所得の下での社会的経済的な不平等・・・報

酬30ドルのプロシヤの少尉は——自分の財産がないとしても——それほど経済的に悪くないことは明らかである。・・・非常に重要なケース・・・

18 ここにおいてのみ、不確定性に負うことで我々の社会主義社会の文化的パターンはあるのである。・・・しかしその限りでは我々は何の結論も述べていない。・・・その不確定性はまた何故かと言うと、どのように、そして誰によって、が重要性において多大なものがあるからである。・・・独占と競争を比較することも、これまたできないことなのである——しかし示されることのできる何事かがある、ここでは個人的資質のもつ能率を。・・・帰結は、良くいって類似のことが達成されることができるだけである。・・・機会を欠いた場合にも、尚、そのようには機能しはしないだろう！かどうかは問われる意味がある。・・・我々の時代の価格そのものが現れることはないだろう、ということを通きはしない。・・・

19 結構、しかし、それに関連して誤った行論がある！・・・無益、些細性・・・比較における最大性・・・だが社会主義に対してだけは最大—長期であることをすでに述べた。

20 比較、どこで行うか？

a) 国家や政治家は正確に短期的誘惑にだけには打ち克つことができない。 b) 注目すべき誤用！ 節約が蓄積を少なくし、そして視野の広さ(foresightedness)が欠乏に通じる、ということ。・・・もし、社会主義者が——社会主義の問題とは全く区別されるような——社会主義者達の問題がある、ということを知れば、我々をして憤激させているものは社会主義ではなくして社会主義者達だ！ということになる。

21 一見して責められる立場にある諸欠点を身につけ得ると丁度同じく、継承しているものとしての、そうした資本主義に対してのみ相対し

ている——どのようにそうした意識が生じるのであるか？——のではない、理性的な人々として(als vernünftige Leute)我々は。そうではなくして我々は、我々が医術と科学といったことについて見究める——資本主義経済とその社会及びその合理性の所産として見究める——としても、物語は印象的なものであることを見逃すことはできないのである。・・・抑制すること、衣食住の問題とそれに付帯するものはこの150年間に解決されている、となすことを。・・・それでも我々は無駄(浪費)——それは圧倒的に成功裡の進歩の付帯事——乃至は過大能力を語ることはなしうるのである。独占も尚・・・あるいは資本を減少させていく貯蓄も・・・それらの全ては一つの控え目なケースのみであり、資本主義的担い手の中で修正されうるものである。・・・失業もまた、とはいかない。その場合それに対しては、資本家が自動的になすところのものが付け加えられなければならない。そのどこに手段と意志が伴うのか。・・・

22 そこで独占との比較ということにもなれば——即座に告げられるのは、利用され尽くされている場合ですら何物をも示すことはないのでは、だが、利用され尽くされることができない、ということである。・・・即座に！・・・我々は、均衡へ向かっての前進は単に可能であるだけでなく、自由競争におけることと同じであるどころか、より確実なのであると検討してきた。それにしても、とりわけ資本主義の下では一意の解(eindeutiger Lösung)が完全に欠けていることがあり得るという事態は、それ自体異様そのものである。しかしそれは何を意味しているのか？・・・一意性は合理性を意味する、そしてその明瞭にして急速な達成は力の節約と損失の回避を意味する。不確実性、それはまた現実に資本主義的な無駄の理論である。我々は通常の意味における競争の無駄、(?)、重複といったこと、それに不完全競争における規制と広告といったこと、について語ることを必要としない。・・・そうはいつてもしかし、他の節除——有閑階級の節除や必要以上の高い支払いの節除といったもの——はそうではない。・・・疑問、だがそれに応じるものとして、威張って歩いているような弁護士及びそうした全ての人々の諸能力の無駄がある。・・・

23 不確実性がまたもや実際の節約の考察の中に入ってくる。・・・

所得税がないという一つの利点がまた・・・とりわけ傷ついた資本主義との比較・・・貯蓄依存が真実の光の下で一層よく現れる(ラーナーを比較せよ)・・・くすくす笑うな・・・家がない——もし彼等が重要である物を全て望むというのならば。・・・社会主義の中での叫びであるランゲの社会的なもの——彼等の不確実性といったものに由来する両親の全ての諸価値の解明・・・誰がそれを笑うのか、その水準に至っていないのは誰か・・・

24 ありうべき重要性は比較において求まる。(Mögliche superiority kommt bei Comp.)・・・だからここでこの材料は多すぎるということはない！・・・

長所もまた、例えば消費性向を回復することにおいても(スウィーヂィ)・・・長所——労働者協議会で、追加すべき費用はない、全ての費用を含んでいる。・・・関連——補助金・・・利潤を上げることとそこに投資することは許される。・・・

25 よく知られていない・・・形態でなく、不気味な家族的類似性も。・・・更に民主主義的でないだけでなく、(類似性は)更に少ない。・・・
a) 問題において、b) その時、それは過ぎ去っていった。・・・

26 1931年の国富調査によると、企業自己資本のほぼ50%が、200の企業により持たれていた。・・・それ以前には55%・・・但し鉄道も公的諸施設もその下にあった。

27 資本主義は何等かの段階で過ぎ去りしこと——まさに歴史的成長のさなかで夜を徹して輝いている醜い工場といったこと——の全てを背負わされる必要はない。その上に含ませられるべきだとしても、それはIIにおいて。・・・また重要なのは、資本主義には制御され得るものがあ

り、ブループリントは相対応した発展状態に対してのみ有効だ、という問題がある。・・・かくして私は、ブループリントの中では少なくとも真面目に、制約と落とし穴が、を述べてきた。・・・怠惰な金持ちが漸く能率のところに登場する(但し反対に、動機が観察される)。・・・高い増加と能率はその後に来る。・・・その場合、浪費家達は。・・・

28 我々は産業的变化の過程(“進歩”)を考察する。資本主義では、新しい諸商品、新しい諸技術、それに生産の組織構造の諸改良が個々の活動というやり方で侵入し、そして古い諸商品、古い諸技術、それに古い組織形態を競争という手段で征服する。これらの個々の活動はもとより相互に関連し合わないのではない。諸生産物やコスト諸要素の市場においては、それら諸活動は個々に自らを正当なものとしなければならない。更に、それらを整合へと導こうとする金融市場において自分達の信任状を提示しなければならない。・・・社会主義的方法は単純にカオスをその反対物によって置き換えることを意味するものではないし、あるいは資本主義でなされているものとは完全に異なった何事かを為すことを意味するものでもない。但しその方法は、改良の諸計画を整合させることにおいて、及びそれら全てを秩序だって連結するために適合していることにおいて、はるかに一層に効果的であり得る。*) これらのことと、投機や諸失業の少なくとも一組のものの消失は——好況と不況といった——そうした現象のほとんどを消去して、損失を避け資本価値を保全することに向けて遙かなる前進をもたらすであろう。

*) 秩序だって連結する。・・・たとえ資本主義もまた一個の整合装置をもっていたとしても・・・資本主義的現実のもつ産業的進化に替えて、秩序だった連結を生み出す、ということ。・・・

29 全てがそうだとはいかないにしても、道徳的責任の意識を全くには欠いていない人ならば、物事の実際にある状態と心に抱いたイメージとを比較するという作業をなす時、まさに懸念している何事かを以て検討を行う筈である。・・・その場合、それが理想と現実間の比較か、または現実とつくり物間の比較であるのかどうかである。・・・社会主義者達が手をこまねきながら樂園のヴィジョンを語るようなことを度外視しても、そう

である。・・・私がそうする場合、恐らくはともかくも他方の長所を先ずは取り上げるだろう。・・・その場合、競争型に対しビッグビジネス型が優越しているのと同様に(社会主義型が)優越していることはありうる、但し可能性としてのみ。・・・

何が行われ、何のために諸手段が整えられ、そして意志があるのか?・・・諸欠点はあるとしてもそれほど悪くなく、しかも相対化されるものである。・・・欠点のそれぞれは控え目なものであるところが大きく、一つの可能性であること以上のものではない——恐らくは、ビッグビジネスの(競争型に対する)優越性よりも(社会主義経営の)優越性が少ないということはない。・・・混乱(がみがみ言うこと、snarling)は十分に少ない。・・・成果と可能性の展望において、衝突する相違のそれぞれは明らかにお手上げになるケースでもない。・・・それを運転する者の不確実性や極端な低能率の可能性に即して、抗しがたいとするケースでもない。・・・しかし実行上の比較のため、それが意味しているものは何か?・・・可能性についてだけのことである——それはすでに多く述べられてきているが、私は手を引こうとは思わない。・・・

そうした比較は——科学的影響力の巨砲の洗礼を受けることなしに——いつでもなされ得るものであるのか、は十分に疑わしいことであろう。ある人は次のように反論するかも知れない。日進月歩に成長する我々の事実上の認識の現状の下では、次のように望むのは決して荒唐無稽のことではない。すなわち、近未来において、現存する産業的諸装置と新しい諸条件に適応させられたものとしてのその諸装置の双方を以て、何がなされることができるのか、及び社会主義の状態の下では何がなされることのできるのか、を我々が見事に描き出すであろうことを望めるか、と。農業部門の全て、輸送部門と公共部門のほとんどの部分、製造工業と商業部門の大部分は、今日でさえ十分に解明されて、真実とはあまり離れてはいないブループリントを描き出すことを可能ならしめている。研究はこのようにして実際に社会主義計画に向かって導くところの道をつくっているのである。・・・しかし、我々の眼前にある困難を伴った紛糾の中には、それが助けになるものは僅かであるとしかいいようがない。というのは、関連している設問は、与えられた一時点から見通されて、社会主義的経営が与えられた技術的諸可能性——与えられた生産的諸装置、与えられた原材料の諸ストック、それにそうしたもの——を以てしてなすことができることではないからである。このことは、我々にとって、関心を惹くところが消費財のストックを以てそれがなしうることは何かという設問よりも少くないところは僅かであるのみということであり、——だが何が・・・

(4) 社会主義システムにおける人間的要素

摘要

「魂は造型されなければならない」が、それは「ダマスカスでの或る日、人の魂は造り直され、牢獄から解放された人間性は突如として究極の愛すべき人に改造される」といった如くにはいかない。資本主義の進化は動機の基本中枢を干し上げ、心情を容赦なく社会主義に向かわせる。現代人は既に半ば社会主義者と言うべく、家族的動機から分離された個人的動機へと変換がなされている。しかもその変換期に社会主義に向かおうとする心理的造型、即ち、経済的諸類型と同じだけ多くの道徳的諸類型の前以ての実現をなしている。社会主義体制の下では、どんな私的報酬の刺戟からも離れて仕事に赴くことが要求されるような、順応性乃至は道徳的スタミナを保つよう条件付けがなされなければならない。労働者にはその各ポジションに対する資格付けがなされ、「義務の意識」をもって仕事に赴き、管理官僚制のラインスタッフ機構の中に配置される、ということになる。但しファーマーやペザントの分野では指示価格の下でそのままにしておかれよう。社会主義社会の下では生産の管理は「生きるか死ぬか」の問題であり、それ故に資本主義化の中の酷烈な選抜淘汰の所産であるかのような有能の士を如何に処遇するかが重要問題となる。更には別の局面として、「超正常能力者」問題一般が——そうした人士に機能の発揮をなさしめるために——ある。更に進んで、幾ばくかの特権を、貢献者に対する社会的距離の認知を示すものであるように、授与するという問題がある。貯蓄と投資の役割に関しては、投資を引き下げさせるような私的な節儉が長期展望にたった資本形成のための同志達の禁欲によって置き換えられよう。事業所における規律と服従は被雇用者に君臨する雇用者の権威に帰されるべきものであるが、傷ついた且つ拘束された資本主義の下では、そうした権威は、尊敬と畏怖を伴った権力の喪失により、且つ無責任な、また放縦な、また敵対的な態度の拡散により、破壊されている。社会主義のシステムでは私的所有をもってする権威は完全に消し去られるが、その一方で新しい道徳的忠誠を伴う新しい規律と服従がその社会主義的代替物となる。社会主義の経営は権威による規律による訓練の結果として大きく良化されたポジションにあることとなる。・・・その他 (編者)

Ⅲ—(4)— 1 ~ 3 7

社会主義システムにおける人間的諸要素

1 要するに、社会主義が実行可能性をもつという帰結は、更によりよく検討したとしても、何も言っていないことに等しい。よろしい、ではどのように効果的にそれは有りそうか？ そうした設問にはどのように答えられ得るのか？ それについて経験をもたないような何事かについて語ることは、方法論的に言って、どのように正当なものとなり得るのか？——天文学はそれをやっている、そして我々は経験をもっている—— 軍隊、大臣、科学。・・・人間は変わらないものとして存在する？ だが、それは前もって解決済みである。・・・効果的とは何を言っているのか。・・・欲望充足の中にあるレジャーにおける効果的とは・・・進歩の率や活動分野・・・どこに災禍が—— 特に移行期の経済に・・・しかし社会主義にとっては、それが悪く作動している場合にも、どんな危険もない。・・・資本主義はその給付が(?)するどんな利点ももっていない。・・・そしてそれでも過激派の言っていること、産業は名だたる反労働組合的存在である、と(dasz die Industrie notor. anti-union ist.)。・・・

巨大な長所、全て見通し得ること。・・・無駄(浪費) ——困難な問題、十分に眼がくらむ！ だが多くは除かれている。・・・地位の利益をめぐる闘争、課税といったこと・・・失業・・・サボタージュは労働者と正確に同じだけ企業者にもあるということ・・・戦争にはどのように、反対に官僚制は・・・私的所有についての行論、競争による排除(敗退)・・・そこで正味の残されているところを実際に告げることができない。明らかなのは次の諸点だけである。・・・

1) [成熟](Reife)、とどのように上位階層(die Oberenschichten)が——その持ち味を一層広く発展させるように—— 処遇されるかというその方法、に大きく依存する。・・・

2) 差(資本主義の時代におけるのとの・・・編者)が、それほど大でないこと・・・

3) それは民主主義へ向かった案内となる、規律については、これを社会主義者が削り取る。・・・のらくら者(der bum)——ストライキ参加者・・・それに選抜(淘汰)・・・そこではその場合「解放」について語ったり、人間による人間の搾取について語ったり、することは何の意味もない。・・・

個々の工場指導者が労働者の細君に告げるに至る、——パンについて、またはパーティ集会について語ろう、と。・・・民主主義に即してはその場合選抜がある。・・・どういうわけで、より良く、またはより悪しく働くのか・・・回答は能率を確保するためにできることは何か、である——選抜(淘汰)といったこと。・・・恐らく民主主義の問題は末尾に・・・前に替えて後において「より良く機能するであろう」と。

働かずにおこうとする意志について、故意的怠業の個人的利益について・・・犯罪者が利益をもつ正にそのこと・・・民主主義と個人的自由はそれぞれ異なる事柄である。・・・人間経済学についてのエッセイ?・・・

——Ein Essay über Menschenökonomie——

2 今や正に心理的諸困難が生じることになる。もつとも心理的造形(die psycholo. shaping)はII. において既に扱われているとしても・・・私が表明することに決してうんざりなどはしていない要点、その認知こそがマルクスをして自らを一階級に位置させるよう要求させたものの一つを構成するものであって、要点、この要点を強調する必要があるのは他の如何なるところでなく、ここにおいてである。異なった歴史的状況に対しては異なって答えられうるだけではなく、異なって答えられなければならない、というのが我々が設しようとしている要点である。問題は、時の経過の中でその性質を変えていく、ということである。原始的なものからは区別されるものとしての現代の社会主義を——偏に成功裡に——作動させるためには、一定の経済的パターンの前もっての実現が要求されるのと正に同様に、一定の社会心理的な——また文化的と道徳的な——パターンの前もっての実現が要求されるのである。そしてその双方は資本主義が創出し得る限りにおいて十分に成熟させられている時においてのみもたらされる。一般論としてあるいは歴史的事情と関係なしに社会主義を弁護したり、またはこれと闘ったりすることの意味が何故に乏しいのか、並びに社会主義計画の純粹理論からの、更には我々が前もって吟味してきているその技術的容易性にすらもの、推論に付着する実際的価値が何故に同じように乏しいのか、についての理由の一つはここにある。・・・この点でランゲは? 恐らく彼は現在に対応して論じることを「与えられたこと」としているであろう。その場合、「社会主義のケース」の中で成熟が中心的な問題として扱われているのかどうか。・・・

上記の命題はそれに直面している時には誰も否定しないであろう。しかし多くの人々が特定の論点を論じている時にはそれを忘れている。多くの人々が社会心理的な領域の重要性を、その領域に変化がもたらされる時期と同様に低評価している。・・・例えば封建制度は当時の公的管理の一方法である以外の何物でもなかった。もともとは封土の保持者(holder)であるが、その後もそうであり、領主の関心たるや臣下に即した財政上の関心であったことが本質的であったこと、それが唯一あり得たことであり、且つ当時論じられ得たことであると検証するのは容易なのである。(公的機能が私物化の対象で、私的利潤の源泉とする仕組みによって管理されたのであり、君臣関係の階層秩序の中で騎士や貴族が封土を受けたのはそれより利潤を上げるためであり、そして公的機能である封土管理の権限は上位の王侯になされた奉仕の報酬であった。・・・刊行本より編者)・・・これを以て、そこに近代的行政を要求することは——当時の社会心理的、文化的、倫理的パターンよりして——何の意味をももたなかったであろう。遂には誰もが思いもよらなかったであろうような時代がくる。その間にある怪しげな時代があり、これが問題を設する。これが双方の道を切り裂く。すなわち、私的所有は「必要」、だが永遠にではない。・・・そこでもっと後になると何事が招来するのか!・・・所有と所有の欠如が心理的にありうる。・・・病的である、病気・・・私は「魂は造型されなければならない(Souls must be fashioned!)と指摘した。今や我々はⅡ. において事実上、全体の中の一つの然るべき過程——それは原理上社会主義に資す——を検討してきている。・・・事象に替えて動機を語ることを信じるや、という問題はどこで・・・映像の反転・・・

(本稿でⅡとは第Ⅱ篇の第11章～第14章であろうと思われる・・・編者)

3 ここでは引き続いてエッセイⅡとの上記の結びつきを述べ、その上で動機、生活形態、仕事がしっかりと捻じ曲げられていることを述べる。——困難は過ぎ去った時代を現在と同じように評価するといった場合においてのみ極めて大であるようにみられる。誰にも嫌がられる個人主義を良しとする者にとっては、資産運用において典型的にみられる資本主義的動機がいずれのケースにあっても同様に働いており、それが社会主義により

見習われることは先ず無い。同時に変形されたホテルに象徴されるような生活形態は格別である(但しそれには尚少なからず抵抗がある)。資産は重要性が切り下げられる。そしてともかく残されるのは専門的な仕事——但し生産物と生産が意味するものについては彼は理解していないし、知らない、とりわけ大企業にあつては——と社会的重みだけである。・・・諸政党は一方が社会的に妥当な動機であるとし、他方が資本主義的な汚染と名付けているもの、を過大に評価する。・・・汚染する資本主義的メンタリティについて。・・・

順応性(可鍛性)が極めて困難であるとしても、今一つの慣習の形成と固定という中間的なケースがある。・・・資格と秩序・・・他の設問、どのように文化が、1) 成果と、2) 型に影響するのか。・・・比較・・・研究のおかれる場——元に戻って善と悪に対する領主の立場・・・親方風の態度。・・・そして資産についての行論、a) かつては十分な意味をもっていた——社会主義者の戦術、人が拒絶できないことへの冷笑。・・・いふなれば孤立主義者と冷笑。・・・、b) 今日においても尚何事かを意味する、だが異なつて、自己形成(Eigengestaltung)、決定に対する特定種の責任上の諸条件、自動性。・・・官僚制の問題・・・どこで?・・・それは配列に依存する・・・プロシヤを比較、一人の理性ある大臣が自ら国营企業を引き受ける。・・・そこで封建官庁を介しての描写、遙かなる牧歌の後の私有化。・・・成功と失敗の対照。・・・だが恐らくは比較のところで、あるいは差当たつては労働条件のところで。・・・

そこで恐らくは労働—生活諸条件を締めくくる。・・・二重の無駄骨(それらは多少は尚所有の利害をもち、そして(?))。

a) 資格の権威・・・古いタイプでは法律家、新しいタイプでは技術者、公務員・・・能力の権威は少なからず存在することが必要である。・・・私は資本主義の諸形態に最も近いよう固執しているのだろうか?・・・

b) そこで恐らくは資産の重要性は何かを。基本的なくびき(cardinal yokes)はもはや必要でない。・・・決定の重みと自由・・・ズボンに付した紋様?・・・議論は、資産がよく機能している場合はいつも、先ずは宗教、そして「権利」を・・・c) 社会主義は過激な態度を能率のため必要とされるか、または威厳を損じ、うんざりさせる程度以下の程度に引き下げてよい。・・・しかしそれは本質的なものではない。・・・そうでないと、考察している基本的諸パターンのもつ順応性の前に回帰するものがなく、それ以前に中間的な慣習の形成となる。それは、(α) その時代の中で巨

大なバリエーションの幅をもち、(β) 健全性のために固定された慣習が必要に応じたもので、それ以上に言うことはない。移行に際しては、食事、プライバシー、喫煙、銃、飲酒、性的習慣につき指示されようが、必要なのは制限なのだから、その全てが告げられることはなく、本質的な点はどのみち死すことになる家族の態度である。・・・d) 社会主義においてタイプが作用することこのようであるとして、どのように社会主義が成果とタイプに作用するのかは別問題である。・・・e) 有閑(レジャー)階級——それに資産階級——にはそれほど単純なものではないことを留意するだけ。・・・特権はただ勝ち取るのみ・・・

4 (プラクティカルには)実際に不可能なこと——課題が大きすぎ、しかも込み入りすぎている——と言われる。もし私がこうした結論を得たとするならば、それは社会主義が管理的(行政的)に(administratively)不可能であること、一個の不可能な管理(行政)であることを意味するということになる。問題の課題は二つの事柄に煮え詰まる。

a) あまりにも込み入っている、言ってみればそれは一つの立案知識階級を要求するのでは、(そしてその場合、それぞれの計画から社会主義は可能であるだけでなく、より良くもあるということが、後になってからのことではあるが与えられるのでは)。

b) 一個の道徳的水準(ein moralisches Niveau)が前提となる。それはそこにはないものである。(資本主義にあってはぐずぐずした変更ができる、社会主義でも尚或る官庁にみられるように常なる怠業が可能である、しかしそれは今日の資本主義におけるほどに易々とは行われぬ。)・・・再び成熟が。・・・

a)とb)に付して・・・これらの全てについて一つの誤りがある。それが全てに先立って払拭されなければならない。・・・直面させられている管理(行政)的な仕事は、もし一つの頭脳のみがおかれた一つの部局が、資本主義的組織で成し遂げられるあらゆる処理——意志決定——の全てを成し遂げるが如く実行されるならば、その困難たるや不可能と言える程大きい。もとより処理の問題が今も資本主義下にあったものと同じである——同じ条件であることは今や確かであると——仮定するとして。このことは誰もが承認できようが、それは了解し得るそのポジションが想定せられた如きものである場合においてのみのことである。しかしこれに類似の

問題を持ち込むことは明らかに許されそうにない。もしポジションが正しく設せられるならば、現存するような資本主義の中央機関——我々がイメージしてよいであろう諸企業、諸銀行、あるいは何等かの中央当局の経営者達とゼネラルスタッフの全体——が直面しているであろう困難に比して、(社会主義のポジショナーの)困難は一層大ではなく一層小だということが、すぐにも検出されるであろう。・・・

a)に付して・・・我々を実際的で具体的であらしめよう。我々は、我々の概念に即して、「内閣」だけを作動させるべく設している。もとよりこのことは重要なのだが、能率的な行政事務のため必要な一般的な社会的文化的条件を想定したい。その最初の仕事は選抜、または指名、または選挙である。しかしこの後者を除いて、差当たっては我々は行政の官僚制的方法を想定する。大臣は多数派性を確保しなければならないが、彼は(官僚を)任命できる。・・・行政サービスの精神その他はあとで、我々はイギリスを念頭におく。・・・

官僚制についての指摘は如何にも多い。「国家は何物をも創出しない」という、そこでの真正の行論は官僚制に対峙して私的所有や私的イニシャティブに味方するものである。・・・しかしそれは唯一のものではない。・・・疑問は、そうだと軍隊の指揮はどれ程に行うのかである。・・・持っているものは保持すべき・・・その事だけではない。・・・α) 技術、β) 資格試験の刺激・・・どのように最良の(能力をもった)人材がもち来たられるか、並びに全ての手持ちの能力が用いられるか。・・・一方において「部局」、他方において「街のカフェー」・・・「官僚制的社会主義」、選挙による方法——選挙式の判定あるいは将軍の選出、アテネにおける——それはシシリー遠征やアイゴスポタミイ(Aigospotamoi)にも拘わらず、それほど悪いものではなかった。マラトンとサラミス、更にペリクレス・・・プリンキポ伯(Earl of Prinkipo)についてのジョークはここで。・・・

5　そこで、個々の事業所における個々の職員の仕事が一層に容易であることが看取される。彼に対しては資本主義的企業者に対してよりも——監督者の秩序だった、または自動的な観察によって——一層多くの事柄が設せられる。その上彼は(自分の行動に対する)他者の反作用のこともそれ以上に多く知っている。この反作用は省庁(省庁の部課)を通してのみ存在する。消費者の反作用とどのように技術が仕上げられていくであろうかは—

—資本主義の下には存在しなかったこうした問題の処理は、殆どの場合、主要な問題ではないという長所は有りはするが——依然として諸問題として働き続けることはもとよりである。その傍ら他の反作用——多分に他の企業乃至は他の産業からの反作用——はないか、または対応しなくとも同じである程に対応が容易である。・・・より良き人材がそうなきしめるのか？・・・

省庁の部課に留まろう。それらは諸企業のデータ(諸報告)に基づいて、且つ生産のため構成されているそのシステムのもつ諸特徴に基づいて活動する。そこでその活動は指導(lead)であるか、または単に統制(control)と調整(coordinate)であるかである。この活動はルーティンに還元されることができる。総「仕事量」はデータの明確性と調整のための機構——各産業への関与——によって少なくなり、簡便化される。ここでの仕事は何であろうとも、一個の軍隊のように——現代の軍隊は鈍重ではない、ワーレンスタイン(あるいはナポレオン)の軍隊よりも軽快である。恐らくは仕事と給付の手段の間(zwischen task und Mittel der Leistung)の区別を設けることが重要であろう。そしてこうしたことは打ち合わせの会議に関連する。・・・そしてそのようによく出来上がっている計画——事実大いに自動的であり、大臣は一般的リーダーシップだけをもつ、ひらめきと。単に実務上の精神だけでこのようであり、その強さがこれであり、理論上のものではない。

貴君は冷笑するのか？ そうした何か「より良い」もののあらゆる示唆に。よろしい、それは後で述べるとしよう。だが、もし責任がとられるのならばそれは挫折することなく作動できることは明らかなのである。・・・喫茶店・・・この行論の完成にはその前もっての存在が実質上の条件となる。より規模の大なる乃至は最大規模の産業と関連していく。しかし、その一般的目論見に入るのは何時？ その場合ある種の部門——例えば農業——は別に扱われ、農業者達は排除せられると決定されると想定しよう。心情的なものだけであるにせよ、相当に大きい軽減となるため、それは集団的諸利益の創出である。農業者達は計算された提示価格に対応して生産する——それは現実の諸価格！——、提示価格は得られている「価格」から引き出される。もし価格固定にもっていく何かがあるのならば、相当の投資分をプラスする。このようにして所得が処理される。需要は他の産業と同様に見積もられる。・・・そして社会化される諸産業、鉄道、機械工業、肥料工業、それに(?)といったものは計算がすでに済まされてい

る。現存している機構よりも注意を多く払う必要はさほど大きくない。・・・それが民主主義的であるのかどうか、は民主主義の名の下に了解されているものに依存する。・・・あるいは衆愚政治・・・

結論として、私は、資本主義的な文化に理解をもっているとしても、社会主義の計画に非友好的ではない、ということをはっきりしている。それだから、もし私が——我々がそうであるように——ニューディールの社会主義者達に対立的であるならば、それは一個の矛盾ではないか？・・・そうではなく彼等はそれを駄目にしているし、ニューディールなるものは軽はずみなものである——前進の障害であり、社会主義を戦争への船出と共に至る所で駆動させることで破壊する、そうしたものであることは確かである。・・・それは反動であろうか——もとより利害が担われているが故に・・・いつの場合にも私は建設的であるべきであろう。・・・

6 このシステムを作動させるために要求される「その不可能ともみえるような道徳性の高さ」に関すること、貨幣と私的報酬の刺激なしになされる企業者努力に関する全てのこと、並びに如何なる強制からも解放せられて働き、しかも義務を果たしている——現在取引停止(traffic repeals)に服しているのと同じく自由意思で自ら納得し且つ好んで義務を果たしている、換言すれば自分の民主主義的な決定等による経営に対する貢献を果たしている——ような労働者達の理想主義に関する全てのこと。・・・もはや、がっかりさせられることは何もないと。・・・

この異議に対しては社会主義者達自身の責任が大きい——懸念はあるがショウ(Shaw)を参照されたい。・・・社会主義の時代に向けて、乃至はともかく移行期のボルシェヴィキ政策に向けて、彼等の殆どは皮肉っぽくではあるが、ロシアの田園詩を編じた。ウェブ(Webb)——あたかも資本主義の下にあったものとは別のものであるかの如くに！ 意図されているものを見るだけのことで、如何にあったかの事例とする。そこにはそのイデオロギーがあることはもとよりのことであろうし、そうすることで人々を訓練することになろうことが強く意識されている。・・・社会奉仕、今でも！・・・しかし我々は、道徳的スタミナ(moral stamina)をもつことを要求されることが資本主義下においてよりも多いのではなく少ないのだ、ということを見究めるため、決まり文句についての我々の考えを明

らかにしなければならぬだけのことである。・・・資本主義は多大の——更に多くの——責任を要求する、自立と自制の双方も多大である——「プロテスタントの倫理」を参照——、更に自分の行動の諸結果の受け入れがあり、更に将来のために働き、しかも「必須」のことでない場合にも約束を守るという徳義が要求される。・・・より少ない頭脳をと同じようにより少ない道徳だけしか、社会主義を運転するのに必要とされない。・・・

このことは次のように了解されるべきである。 α) もはや何の逃げ口上もない、この理由につき、 β) 反社会的活動へ向けての何の煽動もない、この理由につき、 γ) 仕事が全く無報酬にあてがわれる、この理由につき、悟らせられることが遥かに効果的であろうような完全に同じ動機と同じ義務を労働者はもつ、と。指導者は金銭面での幻想的成功の可能性をもたないし、私的帝国、王朝、閥閥的位置などにはあり得ない——確かにこれらはともかくも崩壊していき、経営者や専門職的グループに対する所得に替わる私的な立場からの一般的利得(α) 栄誉、 β) 文化的給付) はさほど大げさに定義する必要はない。・・・公務員の仕事は国家の機能に任じるものであり、公務員が多分、企業者よりも多くの影響力を多くの資源運用につき、もつであろう——それが熱狂をもたらす根拠である——。そしてもし公務員が動機をもつところがより少なく、しかも仕事をするとところがより少なくなるとすれば、何事が起きるであろうか？ 破産に至るようなことはない。一通の清算報告書が全ての罪をカバーする！ 運(fortune)は入ってこないだろうし、そうしたものとして示しだされる必要もないであろう。道徳的に標準以下の人物は変わらない(より僅かな休息)。

7 ここでは、すでに二つの事柄が混合されている。諸動機と外的諸条件のもたらした単純な諸変化とこれまで多分に習慣の中に置き去りにされていた性質の変化。・・・

資本主義における動機付けの基本中枢は、その進化により干し上げられていく傾向をもつ。個人(the individual)は「分離された(分遺された)」(“detached”)ものとなり、言ってみれば、家族設定の一要素として、及び世代の限りなき連鎖の一つの結び目として、及び彼に手渡され彼の子供達

に手渡されていく資産の受託者(trustee)として、そのようには自分自身を感じたり考えたりすることは最早ないといった存在となる。・・・生活に対するもてる全属性とその諸価値とそれに付帯する諸問題は——実際上のあらゆる個人的並びにビジネス上の諸々の事柄の中でそれ自身を言い張るような——最も意味深き変化を潜行させていく。そうした変化は——ビジネス上の態度について言えば——弁護士や医師によって例示されるような諸タイプのビヘイビアの中に観察され得よう。・・・これらは以前から既にそうだろう。・・・もっと遥かに多くの全てのタイプが自営経営者と企業執行部の中に観察されよう。更に新しいタイプが出現し、公務員と財務官(金融業者)によって代表されていよう。(以前にはその種のことは誰がなしていたか——18世紀の貴族。)・・・

α) これら全ての変化がどのように進んでいるのかは、基本的な諸パターンにおける変化を語るのに必要ではないであろう。しかしそうは言っても変化は更はずっと先まで進んでいるのである。・・・全ては社会主義を準備する方向に、その作動を益々以て可能とさせる方向にある。・・・更に個人的使用のための財の蓄積が必要とされる場所がより少なくなるということが重要である。・・・それに就業の機会を見出すための他の手段が、それに権力(勢力)——秩序が。・・・ズボンの上に紋様を付すことを認可する、更に肩書(titles)があるが、これはこれまでも用いられている。——何が寄与の理論(Theorie für contribution)となるのだろうか?・・・

β) 変化が人々をまたは過程を侵害するものでないならば、更に能率的とされるべきことがより少ないならば、変化の敏活性が重要である。更に前もつてもたれる発展の重要性がある。社会主義の成果はどんな状態に眼をあてるか(動機をどうもつか)に従って全く様々である。そこで恐らく先に述べられたことが? それはいつも弁護され得るものではない。・・・更にここでは資産の問題は省略する。・・・

これはもともと全てがエッセイⅡのための定式化である。・・・そして資本家ハウスのホテルはどこで?・・・Ⅱのための材料・・・スイッチを切り替えて良き光を。・・・

8 どの程度にまで順応(可鍛)性一般は必要なのか・・・状況適応的移行の必要性・・・社会主義が我々を鼓舞することは何もなく、また我々を恐れさせる何ものもない。・・・資本主義は動機を変更することにより魂

(souls)をゆっくりと、だが非情に(inexorably)社会主義に向けて形作る。がみがみと吠える。・・・部分的には、a) システムの作動によって、b) 課税などによって、そこから進化させられた意識構造が自ずからそれをもたらす。・・・資本主義的な賞金を主張することも、他のものを切り捨ててでも働くことを拒絶することも、このようなことではないのか?・・・緩慢な移行の必要性・・・このようにして、 α) 資本主義的發展は自身の内に I を形作り、それが創出した政策によって II を形作る——それはだが移行でもあり、しかも実際のところ部分的には他の条件付けによって。・・・ β) そこで適応するべきものは何か、適応させられなければならないのは誰か、そして何に対して適応するのか。・・・更にその上、適応するのは理想型か現実のそれか、を問わず資本主義に対してか、あるいはまた、ある意味深淵な価値(ein mehr inscrut. Wert)に対してか、の区別がある。・・・

　　國務次官の現代的タイプはどこで?・・・そしてそれは「若干の一僅かの」個人主義者達に対して当てはまるのではなくして、常に問題にしている人々に対して当てはまる?　ということ。重要ではないのではない!・・・プトレマイオスの宮廷、ギリシャのガレー船、それに現代的ホテルはどこで?・・・資本主義は正に下層と中流層の購買力を高める、ということ。

9　我々は先行の章(エッセイ)において、資本主義的進化が如何様に——ゆっくりと、だが非情に——社会主義のための事物と精神を形作るか、を検討してきた。我々は想起するのだが、資本主義がこのことをなすのは、直接的にはそれ自身の働きによるものと、間接的にはそれが創出した社会的並びに政治的雰囲気とそこからもたらされる諸政策の双方においてである。しかし、部分的にはあらゆる事象において、その変化がもたらされる諸方法は——それが順応(可鍛)性を含むであろうような何等かの造型であるというよりは——むしろ単なる条件付けに似ている。この変化は主として最も重要な諸動機のいくつか——賞金、刺激、生活の習慣、資本主義を特徴づける人生に対する諸態度——を移動させたり麻痺させたりするところからきているのである。とりわけ著しいのが家族——家政と家業——に錨を下ろしているものからのものである。

- 1) 関連し合っている！・・・資産の意義、資本主義の標識灯、労働の意欲、服従・・・
- 2) 欠乏はその全てを資本主義の内部で一掃されることができ、a) 資本主義の働きで、b) 資本主義の用意した手段によって。・・・
- 3) 移行のところに戻ろう。・・・提起された行論は不断に正しく可能性を設けている。・・・問題は尚どこまで他のやり方で定式化されるべきかである。・・・ここで現代人が・・・オフィスで綿密な仕事をなす執行部は、決定的に重要な個体として自らを充たしている、という点ですすでに半ば社会主義者(halber socialist)である。・・・身体と精神の順応(可鍛)性は基本的問題である——理論よりもずっと重要である。・・・労働者においては、働こうとする意欲と服従、仲間と衝突しないこと、が重要である。

10 社会主義が時折前提として保つものとして魂の改造ということに
関連して、我々はたちどころにその最も良く知られている議論の一つに決
着をつけることができる。ここで展望されている社会主義のシステムを機
能させるためには、一般的道徳性のある到達し得ざる水準が要求されるで
あろうこと、それを反社会主義者がもち出したとすれば、その平明な解答
はそれはそうでないということになる。・・・到達し得ざる水準とは、社
会的義務の通念やそうしたことの他には、他のどんな動機によるものでも
なく働こうとすること、そしてストライキ参加者と行動を共にしようと
はしないこと。・・・社会主義機構の運行がもつ技術的諸困難についての先
行の行論においてみられる完全な平行線の中で、我々は反社会主義者が仄
めかしている種類の諸考慮が、社会主義者の修辞の中のいくつかのどぎつ
い粗雑性に向けられたものとしては、妥当なものがあると認めてよい。し
かし我々は次のことを認めなければならない。指導者とそれに従う同志達
に要求されている——理想と同様エネルギーにおいても——道徳的スタ
ミナの最小限の保持必要量(the minimum fund of moral stamina)は商業
的社会的帰化公民(denizon)に要求されているそれよりもより大なのでは
なく、より小であるだろうことである。・・・「動機」はここでは恐らく行
動についても同様に、但しそれはロシアのような場合には別である。・・・

その根拠ははっきりと個人的要素や個人的資質によるようなことは、殆
どの場合、その露な機能行使において役割を演じることが益々以て僅かな
ものとなっていくということである。新聞の見出しからうかがわれるよう

な否定されている全てのこと。・・・福祉、安全、馬鹿げた事・・・比較の場ではどんな種類の人物であるのかに立ち還ることが重要である。・・・洗練されたものとは何か。・・・噛むべきものが何もない時に歯を失うこと・・・カクテル・・・諸根拠・・・a) 資本主義的生活は自己依存の性格、闘争心、先見性といった徳目を——個々の知識人と同程度にかそれよりもずっと多く——要求する。・・・b) 言葉に忠実であること、逆境に自若としていること、行動を共にしようとする事、等の徳目の全て・・・c) 寛容、義務、それに自己否定もまた、経済的配慮においてはこれを追求し、且つ目をそらす——そこにおいて社会主義となる。・・・d) 一層多くの事柄が同志には設せられ、そして指導者には機械的処理が、これらの資質の全てに対し展望されるものは何もない。・・・

機械が労働節約的であるように、機械化された社会がそこにある。・・・そして難問——この設問は、だが本来はもっと後に来るものではあるが——もし理性的に扱われるのならば処理されることが出来る。・・・彼が処理するのだろうか、それとも反対に100万人を墮落させるのに任せることが許されるのか、はどんなことが後に来るか——赤い同志達の要請と粗暴性——という設問に道を開いている。・・・ともかく彼は今まで甘やかされていた以上に彼を甘やかすことは困難であろう。・・・

それでは同じ精神を以てする他の態度と精神の変化の間にある区別はどこで。・・・精神の順応(可鍛性)・・・社会主義——それでも適応においてそれを語る。・・・

11 社会主義を作動させるのに必要となるであろう倫理水準が何であろうとも、新しい諸条件に対する適応の諸問題——人間行動の再条件付けにはりついた問題——に直面させられることは確かである。社会主義者の信念の半宗教的な性質に対するものを除けば、それは何事をも論証しない甘美な章句を以てしてはみてることはできない問題である。ダマスカスへ通じる道、その道は社会主義が我々の精神を——ひとたび資本主義の諸拘束と諸牢獄から解放するならば——奇跡的に再構成するであろうという想定なしに旅することは可能なのであるが、その道での前進をはかる試みの中で、我々は「生活の社会主義的形態」という言葉によって覆われている「諸可能性のもつ困惑するほどに広い範囲の問題」によって煩わされるということである。・・・適応は現実の内容が無視される程度に従って重

くなったり軽くなったりする。・・・社会主義は一個の文化を一意に規定するものではない、ということがいつも反復し強調されなければならない。・・・更にその他に、それぞれ異なった諸段階がある。単純には「今」のことか、それともそんなことは全く問わずでのことか？・・・あるいは適応の範囲につき直接的に、そして次の点を添えておくだけにするかである。すなわち、様々な諸環境の下での様々な反作用とそれらの諸パターン——習慣並びにそれ以上のもの——の変化下での順応性(可鍛性)、この両者の間の区別を設けることはできるということ、更にその諸パターンは——区別がそれぞれの立場から信奉者に対し自由になされてよいとしても——時間をかけ、しかも苦痛と困難を伴って変えられるのだ！ということ、を。

12 しかし、その背後にあって今一つの問題が視野の中に入ってくる。必要とされる道徳的スタミナの水準がどのようなものであったとしても、社会主義的生活の形態は適応の問題を惹起することで他のそれとは充分に異なるということである。この問題は社会主義の美学についての甘美な修辭(mellifluous phrases)によっては処理され得ない。つまり、「ダマスカスでの或る日に、人の魂は改造されるであろう」(one day of Damascus, remake the soul of man)といったやり方では——牢獄から解放された人間性は突如として究極の人であり愛すべき人に改造される(reformed humanity freed from prison suddenly ultimate and lovability)——。それはどんな正確度をもってしても答えることはできなく、後にもっと更に明らかになるであろうように、「生活の社会主義的形態」なるものは困惑させるほどに「広い範囲の変化の幅を覆う」という理由からも一層答えるににくいのである。それにも拘わらず、常識的な結論に達しようとすることに望みがないわけではないように見える。・・・重要な問題は、破局に至るような習慣の容赦のない変革ではなくして、ブルジョワ的業績——a) 事実上の業績、b) 事の性質によっては決して成就し得ないような業績——の評価にそれが依存するという事。・・・

13 この目的のため我々は設問を——幾分かは人為的であることを露呈しているが——二つに分ける。我々の好みと嫌悪、刺激と諸動機、価値

観の諸構図、あるいは諸君が望むならば我々の反作用についての諸パターン、等は今あるものが残されることはあり得よう。他方、行動(諸態度)の中には——心理的な学習を伴う、伴わないを問わず——、それらを様々に異なって再条件付けることによってもたらされるような尚も必要とされる変化もあり得るということである。すなわち後者は一個の新しい社会的環境であり、それは新しい刺激を提供するものであり、しかも古いタイプのそのいくつかは提供しないものである、の中に我々をおくことによってなされる。後者の方向での様々な試みだけが、我々が人間性質の順応性(可鍛性)と称してよいであろう問題を含む。この順応性(可鍛性)が提示している明白な諸困難の故に、我々は先ず、どこまで我々はそれなしに進みうるかを検討するであろう。だがそれはそのように習慣を形成するものであろうか? . . .

1 4 労働の意味(Sinn der Arbeit) . . . 経済的に成就(成功)(achievement)するということの意味 . . . そうしたものは「泥沼に足を突っ込む」 . . . ランゲの目標は満足——充足——の意味において位置付けられる「生活の単なる事実」(mere fact of living)であるようにこれを完璧に作り上げたものである . . . 私的資産につき——どれ程に論じられたことか、すなわち、意図的に(willig)願望価値(Wünschenswert)を . . . そしてここでは、a) 精神衛生の要素(Element der psych, Hygiene)として、b) 機関の中枢(center of moter)としてのその重要性の中において . . . 追憶を抹殺する(killing off haunting)ことによっても重要、多分に遊戯的な満足ではあるが . . .

1 5 適応させられなければならないのは誰か? そして何に? ここではまたもやファーマーとペザントの領域には——以前同様の意味で、言うなれば、彼等の私的生活の枠組みや所有物の経営についての諸々の多くのことがある故に——触れずにおくことで、行論を構築するという単純化を図る資格をもつ。このようにして生産大臣は共和国の社会主義原則を何等傷つけることなしに、小商売や職人層の世界の完全な破壊を差し控えることで、その行政的事務を促進することが可能であろう。小商売や職人層は社会化された諸産業の中の一部としてのオフィス以上のものでも

とよりないことになろうが、店の殆どにとっては、彼等の現在の状態からはさほどには変わらないような準自動的状态において、そうしたものとして存在し続けていくであろうことがあるだけであろう。・・・

熟練または非熟練の労働者達と書記達(事務員達)の大部分もまた、彼等の運命と彼等の仕事を大きく変えられることを見出す必要はない。なされるべき仕事は本質的には変わらないであろう。仕事に向かう態度は、後に検討されるであろうように、改善されると期待するのがもつともであろう。資本家の強制のないところでは大衆は働くことに赴かないであろう。このことを疑う人々は、今日どんな仕事においても、働くことの心理的前提として注入されてある「義務の意識」の量と高度に「民主主義的」な社会主義においてさえ完全に適用可能である「強制」の量、の双方を過小評価しているのである。「より健康的な外観」(“healthier outlook”)・・・必要に応じて生活を得ることの刺激なしに働こうとする意志——その場合困難として現れるものに対して責められるべきは社会主義自身である。・・・社会化委員会・・・比較への考慮・・・

16 更に規律と服従の必要な量を——社会主義社会の中で——確保することの可能性を疑う人々は、同様の意味で現存している規律の量を過大評価している筈である。それは生産過程の配列であり、伝達の装置であり、そういったものであるが、現代の労働者達を規律するものであって、彼等を怯えさせている彼の監督者を規律するものではない。そしてそうした規律の喪失が社会主義へ向けての移行の中からは出てくることはあり得るのである。・・・心理的に？ 意図的に？・・・兆し(rudiment)・・・それは拘束された資本主義を以てする比較である。事業への小運転者を邪魔するものではない。・・・我々はここで提起している諸原則を後に論じるであろう。差当たっては權威の欠如は物事の社会主義的構図の中のどんな部分にもないのだ、ということに注意しておくことで充分である。更に私は意識充分な社会主義者達がこの点に関しては、多分に言及を避けようとしていることを見逃すものではない。——彼等は実務的な質問に直面した時には、1919年にいくらかのヨーロッパの社会主義者のグループがそうであったように、いつもそうする。だが日曜学校的ムードの中ではそうではない。例えば私は次のような人達——2～3人のことだが——に会ったことがある。その人達は職工長及びそれ以上にランクされる全ての席に

選挙原理を適用しようと準備がすでになされてきているとみられる人々である。更に言うとも選挙は「もとより」指導乃至は監督にあたるべき問題の職工長やそうした人物に対応する労働者達によってなされるのではないこと、——そうではなく何等かの他の、とりわけ弁護士といったグループによって行われること——といった条件を、私がそれを示唆したのではなかったのに、随意に付しさえしたのである。・・・ボルシェヴィストはここでは考慮から外れている。・・・

労働者達が職場を離れる時、彼等は家庭に帰るであろうが、その家庭は——我々が取り掛かっている問題に関連する諸点において——彼等が現在帰っている家庭とはさほど変わらないであろう。更に自分の閑暇時間を多分に現在と同じやり方で充てるだろうし、充てることできる。このように社会主義が彼等に与えるであろうこれまでとは異なった唯一の点は「選択の自由のいくばくかの犠牲の上に得られた仕事の安保障」(job security at the some sacrifice of freedom of choice)ということになる。もとより共和国は特定の諸目的を達成しようとしてビヘイビアにおける更に進んだ変化を課すことはあろう。しかしその場合においても、これはそれら特定の諸目的の問題であり、社会主義ならばとしての問題ではない。

17 以上みたように、社会主義が何等かの大適応をビヘイビアにおいて要求する、といったことは結局のところ、どんなケースにあってもありはしないし、またその必要もないであろう、という結論に我々は追いやられる。・・・そこではすなわち、人々の大多数に対しては、それが順応性(可鍛性)——人間の性情の基本パターンにおける変化——を要求しないという幸運をそれは導いている。a) これらの人々自身に対して、b) 総体(彼等の仕事をつくる)に対して。・・・但し、このことは留保されているケースにあってはそうでない。私はそれぞれのそれが出来得ない人々のケースを召喚することで、読者の感性に衝撃を与えるであろう。・・・a)脅かされるか侮蔑されるかの感情、b)機能充足の下方への削減、c)彼等の習慣の屈折・・・三つのタイプのうち二つだけが・・・そして各々は医師や弁護士には適用されない——彼が習得したものを適用するよりも以上のことをなし得る。・・・問題の性質と重要性について・・・恐らくここで、そのようにして、それが意味することは何かを告げる、すなわち、差別を設ける・・・ブルジョワジーの生活形態・・・巨大な差別、但し過渡期(移

行)は持続する。・・・しかし職工長は彼の小さな裁量(way)の中に熟練した労働者を求めるだろう。・・・

生活形態(Lebensform)(ホテル)・・・しかし、社会主義に対する切り下げられた抵抗という見出しの下に、尚又来るところの全てがある。・・・そこで更に有閑階級についての一考察がくる。・・・彼等は何者か？ 例えば自分の財産を管理している人物。・・・それが科学的業績を担う。・・・更に資本主義的ブルジョワジーと同盟させられ得るのでは？ そうしたこと、すなわち職業上には——及び準職業上のことも含めて——大衆には何の危惧もないことを示している。従って自由に全てが存続させられる！・・・特定の職業には訓練がある——軍人、子供達や孫達のスポーツ(人々自身のではない)。・・・とりわけ土着の貴族達・・・果てしなき文化的諸可能性を掘り尽くすことについて！・・・誰も上昇しない、何の対立者ももたない、という暗黙裡の想定、そしてこの場合における人々の巨大なる量は何の付言も要せず高揚を可能とするのでは。・・・

このようにして上層問題(die Oberschicht Frage)が残る。このグループはどのように重要か。弁護士タイプの中には役に立たない社会的グループがある(生産の社会的過程を保護する——あるいは反社会的諸利益を悪しく防衛する——それは完全に同じである)。医師や技術者は三つの事柄をもつ、a) 働き(work)と身分(Stellung)は多分に同じである、b) 低価値を甘やかすことの嫌悪、だがそれは社会主義を甘やかすものである、c) 充分な能率を以てする量産競争下における標準の生産。・・・その報酬は、当然のことながら5万ドルや10万ドルは充分により高いであろう、しかしその人物に正味に支払われる諸サービスに対する控除分はもはや手当されることはないであろうし、老齢に対して手当を必要とされる控除は少なからしめられることはあり得る。

18 それ以上に今一つの局面がある。何故に「超正常的な人物」(supernomals)が機能発揮の条件として優先的な取り扱いを主張することになり易いのか。この理由の中には単にそうした人物の事情だけでなく、余人を以て替え難し、がある。殆どのケースにおいて超正常的な業績(supernormal performance)は集中と緊張の結果であり、その結果は長期

的には優れた生活諸条件の下においてのみ耐えられ得るものである。こうした範囲でそのような諸条件の必要性についての主張はその人物の仕事に対して適度な状態を保つために許されるべき状態の確保である。経済的合理性の問題として、社会主義社会はこのことを——価値のある機構を価値乏しき機構よりも深く留意する傾向にある筈であるのと同様なだけ——深く考慮しようとする動機をもつ。競馬馬や懸賞牛は全ての牛馬にその額を与えることは全く不可能で非合理である程の大金受領の特権をもつ、それと同様の意味での経済的特権を、それが意味するのはもとよりのことである。これらの特権の必要な範囲について言及される必要はない。それはかなり広い幅の中で一層可変的である。我々にとっての問題であることの全ては、社会主義の経済的エンジンの機能発揮はこのクラスの困難で痛められる必要はない、ということである。たとえそのために必要とされることがあり得るその最も充分な可能的重みを我々が彼等に帰属させたとしてもそうである。しかし我々が扱っているのは社会主義社会がそうするだろうことはあり得ることであって、社会主義社会がそうするだろうということとは全く別の問題だという点が——ここでも再度に渡って——強調されなければならない。・・・

非常によく似た結果が「親方の眼」についての修辭と結び付けられて然るべき第二グループの諸要因の議論からも出てくるであろうと看取することは容易である。能率的な生産と自己責任での決定の自由との関係は——オールドリベラリズムがそうだと信じてきたほどには——明白とは程遠いものがある。先ずは、私的産業の人物と社会主義共和国が雇用することになり易い指令機関の人物、両者の比較資質の問題である。少なくとも私的企業が最上の頭脳を惹きつけているような国々にとっては社会主義経営はこの理由のただそれだけで絶望的に劣ることになり得る、という諸ケースが容易に描かれ得る。社会主義にとって必要なことは管理諸階層——私は彼等を極めて厳しい選抜(淘汰)の過程の産物であると信じている——の意欲的な協力を確保することだ、と私が強く主張してきたのは正にこの理由による。だが尚、社会主義の青写真に内在するポテンシャルティについての我々の議論から知れるように、全体から見て問題は人物の質の問題ではないのである。・・・この点にまで考慮が至るとき、経済生活の官僚制化(the bureaucratization of economic life)の問題がその適正な光の下に現れてくる。私は告白しなければならない。私は社会主義的経営を単に一個の巨大にして全てを包攝する装置である——それ以外の何物でもない——と想念する(visualize)ことができる。私が知覚し得たこれに替わ

他の構造は全て失敗乃至は挫折に終わるものであった。しかし私だけではない。巨大企業のもつ官僚制的諸要素を観察し、そのようであることが不可避であることを認知し、しかも官僚制の作動の下で人々が、とりわけ阻害要因だと考えているような諸特徴の殆どを回避してきたことをもって、その成功の相当部分であるとみている、そうした人ならば誰でも官僚制化を恐れはしないのは確かである。

19 今日、官僚制化に反対する立場からの論と1850年の所有一経営者(owner-manager)のもつ個人責任制のヴィルチュエを絶賛する論の両者は、近代的軍隊の民主主義的な管理を遺憾であるとなし、軍隊がそれぞれの族長によって命令されるような小グループに分断され尽くされるべきであると主張することを弁護する、といった論と比肩されるほどの論なのである。自分の金で自分の過失に対する支払いをしなければならない、という意味での責任体制は——願望的思考がそれをもつほどには敏速且つ完全にはいかないであろうが——ともかくも運行しつつあるのであり、そして大規模会社に実在している責任体制が社会主義の構造の中で再生せられるであろうことは疑いない。

物事の不可避性の認知はそのことが引き起こす問題をもとより露にしない。官僚制の兵営の中での個々の頭脳の機構発揮について引き起こされる難点とはそれでは何であろうか。金銭的な自己利益ではない、少なくとも第一義的にはそうではない。そうした苦情があるのならば、それは私が先に暗に示したような諸方法で以て救済され得よう。遥かに重要なのは他の要素である。政府官庁は——我々がそれを否定し得べくもなく知っているように——最も活動的な精神のいくつかに及ぼす沈滞させる効果がある。その場所の気風(genius loci)は様々な着想を不快に思い、それらを組織的に退けようとする。たとえ不快に思ったり退けたりしなくとも、それらの新着想はそれをもてる人を批判にさらすような多くの手を通して通過していき、更にその途上で死んでしまうか、あるいは歪められた形態で港にたどり着くことになり易いのである。委員会が支配権をもっているところでは、多数の立派な人物が仕事の中の何等かのはっきりした部分に彼自身を特化することを止める。そうでなければ——成功裡に事業運営に任じている委員会のケースにおいて確かにそうなのであるが——その委員会は一個の強力な人物の覆いマント(隠れ蓑)以外の何物でもなくなっ

まうのである。イニシャティブへ向けての自分の潜在能力が挫かれるため、個々の同志達の精神はお手上げとなり、更には消極的批判主義(negative criticism)及び仲間達の反感の態度に向けて自らを退化させるのである。もしも仕事を他ならぬ自分の仕事として特定されていたならば、自分達の意見のための最後の砦として闘おうとするであろう人々に対して、どうでもよい問題とさせる傾向のある協同型の意志決定には、痛快感と喜びの欠如がそこにあるのである。このことはあらゆる人生行路においてそうである。そしてまたこのことは、法廷、大学、研究機関等が何故にその役割を果たすところが——そこに就任することを命ぜられた人材から見て役割を果たすと期待されたほどには——ないのか、という理由の一つでもある。・・・

20 しかし、そうしたことの全ては一にかかって取り組まれている事柄が死活の問題ではないが故にそうなのである。重要であると感じられている事柄は通常——多くの例外はあるが——一人の人物に手渡される。少なくとも軍隊は委員会によっては指揮されないのが原則である。社会主義社会にあっては生産の経営管理が死活の問題であるだろう。資本主義国家の官僚制は非能率であることが許されるが、社会主義の官僚制はそれが許されない。しかしながら私はこんな慰めを以て満足するには程遠いところにいる。私はこの理由の故に経済進歩のペースが沈静化する以前における社会主義の成功を信じないのである。私は先に社会主義経営がもつ特定の諸利点を進歩の土台部分の合理化と計画化にあるだろうとみてきた。しかしもしこれが官僚制的諸方法で行われることになれば、そうした利点は高価な買い物となる恐れが充分にあらう。あまり前のことではないが、私はある政府機関で発行された一つの素晴らしいレポートを熟読した。その有能にして良心的な著者達が立証せんと試みていることは、資本主義的経営の前途に新しい可能性などは今やないこと、及び実際に産業的分野における偉大なる事柄は全てなされてしまっていること、である。それこそ我々が有為な政府官僚達にそこに達することを期待してきた結論そのものである。彼等もまた「資本主義的企業は、もし産業的進歩が継続されるべきならば、尚必要であることの論証」というタイトルの下で自分達の報告書を刊行したらよかったのでは。

この主題におけるほど偏見や修辞によって汚染された主題は少ない。論

争に向き合っている両陣営——オールドリベラリズムと国権万能主義——は相手が合理的には防衛できないような位置及びグループの利益を見えなくする効果が考慮される場合にのみ解かることができるような位置、そうした位置に自らをもってくるよう策略を練ってきている。オールドリベラリズムにとっては国家はその性質上非能率で腐敗しており、殆ど馬鹿げたジョークの尽きざる源泉の一つでさえある。しかし申し立てることのできる歴史上のケースと彼等の行論が現在からの展望にさえももつ真理の要素はそれぞれなのである。オールドリベラルが時折そこに行くその馬鹿げた長さの認知が、両者に正当な重みを与えることから我々を妨げるべきではない。18世紀のイギリスとフランスの官僚制は19世紀の両国の平均的な経済学者によって付せられたコメントにふさわしいものであった。目下よく知られたスローガン「国家は何物をも創出しない」は経済分野では単純に誤りだとは言えない。諸政府が「創出した」経済的装置の場合ですら個別企業の跡を追ってなされたものがほとんどであり、しかも資本主義的進化の環境の下でなされた——しかも仕事のより良質の部分は政府のための補完的個別企業によってなされた——のがほとんどであった(鉄道と鉄鋼・機関車・安全装置のケース)。しかしながらこの行論は結論がでない。官僚達は企業の操縦を意図していなかった、だから全く当然にその仕事には悪くしか適合できなかつたような諸方法と諸態度が発展させられたが故に、である。もし生産体の経営が彼等の上に委ねられたとしても、彼等は他の諸方法と諸態度を発展させなかつただろうとは導かれない。国権万能主義、プロシヤのユンケルまたは現代アメリカの急進派(彼等の修辞諸句が、国家の権威が問題になるところでは如何に似ていることか)にとっては、国家は黄金の雲の上にある王座についており、その雲から賢明と仕事の雨を資本主義というこの乾いた大地の上に恵み深く降らせるものである。この態度はもとより不条理という点ではオールドリベラリズムがそうであるところに比していささかも劣るものではない。しかしながら、この方が未来に対して頼もしい。もし急進派が、他の人々が自分達のために為すのと同様に、国家のため立ち上がって行進しつつあるようだと、社会的規律は社会主義の中で——彼の語りかけから期待されるであろうよりも——生き延びることのより良きチャンスを得ることになるだろう。

2 1 社会主義的配列の犠牲者達としてみられることが不自然でないよ

うなグループに属する問題が残されている。「上層」乃至「指導的」階層の問題である。資本主義対社会主義に対応する一つのケースは——ブルジョア階級のメリット・デメリットとは全く離れて——この階層のもつ質と現実にあげられた業績に基づいたケースである。逆から言うと、この階層を社会主義計画の仕事に適応させ、しかも取り付ける、ことの失敗が計画そのものの失敗として語られてもよいのではないか、ということである。その質が何故に問題なのかというと、それが正確に社会的選抜(淘汰)の諸方法——どんな種類の社会主義もこれを取り除くことと結びついている——の産物であることが明白だからである。その業績が何故に問題かかというと、それが諸賞金と諸罰、諸報酬、それに諸責任の高度に有効な図式——それは資本主義に特殊な特徴である——とはっきり関係付けられているからである。社会主義的修辞が提供する筈の、よく知られたこの問題に対する典型的な回答は、これらの要素の重要性の否定である。・・・非常に多くの社会主義者達が信じるよう訓練されてきた神聖化された修辞は・・・その階層は過食の猛獣以外の何物でもない者達から成り立っており、その位置にあるのはただチャンスと酷薄さだけで表出されたのであり、彼等の「役割」たるや働き且つ消費する大衆から汗苦の生産物をまきあげることである。——更には自身のゲームに身の程知らずによる失敗をしかし、近代的なタッチで付加すると、収奪物の大部分を貯蓄してしまう習性によって不況を生み出す。・・・こうした行論は、多くの政治家達がそれを語ることに利益になると気付いているほどに、喜びを引き出している。更にこの階層の中には自分はいないという事実の、最も愉快的説明をそこから求めるような多くの知識人の劣等感に対し、それは芳香を放つ。自分達の仕事に対する自己賛美がその含蓄にあるということである。・・・不幸にしてそれは妥当でない。

上層階層の人材の卓越した質は、その要素を補充していく過程の性質と効率から立証される。その立証は実際のところ統計理論上の意味での中位(mode)に関連しているだけのことであり、そしてかなりの率の例外と両立し得るものである。それは更に個人というよりは家族に関連しており、その個人は——自分でその質を得たとしても——競争レースに様々なハンディキャップを負うて発進しているということである。ここではその概略は簡潔に次の如く示し得る。第一に、諸個人は人間分子(human molecules)として各クラスの階層的位の範囲内で上向と下向の運動をなすのであるが、この事実は素質または能力または「人間的な力」における生得の差が、その第一義的な動因とする仮説によって、最もよく説明さ

れるということ、第二に、これらの同じ諸差が同様に社会諸階層の境界線を横断する運動の原因となるということ、それを我々は示しているのである。しかし上層階層に位す人々が決定的に重要な国民資産であるのは、単に彼等がそうであることのお蔭(徳性)によってだけでなく、彼等がそのように行動することのお蔭(徳性)によってもそうである。資本主義の経済的開花(the economic civilization of capitalism)——すなわち、成功の記録(a record of achievement)。ひとたびそれが成し遂げられた時点で、あるいはその世紀にまたがる長き経過の中の特定時点からの展望において、これを批判すること及びこの上に行くことは容易であろうが、それが現実に成し遂げられるのは——その経過のための歴史的諸条件が与えられてあったとしても——どんな他の人材の配置の下では至難のことでしかなかったろう。更に多くの追加的事柄が多分に彼等の仕事であるか、さもなければ彼等によって創出された諸々の好機を利用した結果であるかであった。

このことは、彼等が資本主義過程の中のその仕事を統括するために企てたのだという意味に読み替えるならば、もとより自明のことである。しかし私はそれ以上のことを意味付けるものである。もし5万のよく選ばれたファミリーがこの国で1890年に廃絶させられていたならば、彼等のおかれていた位置は他のどんな5万のファミリーによっても——正にそれだけの充分性をもって——充たされることはあり得なかったであろうし、経済発展は数十年に渡って阻害されることになったであろう、ということ。これは言うなれば、実際の発展が単に彼等によって制御乃至は管理されていただけでなく、大部分が彼等によって創出されたのだ、ということである。このことは選抜(淘汰)について前記行論を第Ⅱ章(第Ⅱ編であろう、編者)がその仕事の性質とそれにより取り込まれる流儀について既に我々に馴染み深からしめてきているところの行論(創造的破壊についての行論? 編者)を併せるところから導かれる。・・・このタイプの考慮は社会主義の中の特定の諸パターン、諸価値、諸章句とは決定的に対立するものではあるけれども、これから導かれる論が示すように社会主義反対論ではない。社会主義社会は——経済的及びその他の点で——資本主義の下にあるものとして丁度今、我々が一瞥したような諸事実によって条件付けられている諸価値を用いることを慎む必要などはないのである。選抜(淘汰)は疑いなくその大きな問題の一つを構成するであろう。しかし時間と精力の最小の損失で以て俊敏の才のある人々を結合し、そして適所に挿入するという点で、資本主義社会がもつ「自然的な」社会的淘汰よりももっと効果的で

さえある諸方法がその問題解決に利用可能なのである。その方法の諸限界に関しては意見の分かれる余地はもとより十分に広い。しかしながら、社会主義は合理的に選抜(淘汰)の手段をもっていない、と述べることは商業的社会では選抜(淘汰)の機構がない——あっても非合理的なものだ——と述べることと同様に不当であろう。

22 資本主義の諸条件の下で彼等にその役割を果たさせてきた諸賞金や諸罰という構図が取り除かれた後も、その超正常的人材ストックが尚、機能を果たし得るやという疑問に答えることは遥かに難しい。我々は先ず資本形成の機能を片付けておきたい。私的な節儉(**private thrift**)——節約と蓄積——が事実問題としてその目的に資すると説示することにより、または同志達による自発的節儉が正にぴったりとその目的に資すであろうという態度をとることにより、——説示についてはいくらかの今日の諸理論のように、そして態度については社会主義社会でも可能なのだと示してみせることで——、我々はこれを処理するものでない。単純に一つの実事指摘することではなそうと思う。ロシアでの経験は多くの点で結論の出ている。「禁欲」の犠牲はロシアでは社会の全階層に負荷された。それはどんな資本主義のシステムも強行し得なかったことである——この方向における資本主義的諸可能性は二通りの意味において社会主義政府によって追い越された。巨大な余剰が貯蓄するため奪われたという意味で、及びその殆どの部分が遠い将来においてのみ十分な果実に成熟し得るような諸目的に配分せられたという意味で。そうした英雄的な諸努力が一般的な行動として期待され得ないことは真実であろう。更に政府活動との関連における我々の経験は「国家はより長期的な視野を採り得る」(**the State can take the longer view.**)というスローガンに多くの支持を与え得ないことも真実である。事実問題としては政治家達は——相変わらずに——考え得る限りでの最短の視野を採っており、近代的世界では社会の長期的利益を配慮しているのは産業的家族(**the industrial family**)だけだ、と論じられて充分なのであるかも知れない。しかしその世界は資本主義と民主主義の世界なのである。・・・

2 3 超正常的人材ストックに機能発揮を果たさせることについては、行動の刺激の中心を取り巻いている動機付けという要因についての諸設問を我々は既に設定してきた。残されているものを処理するため、我々は親方の眼と金の卵を産む鷺鳥に対して今一つの評価を下さなければならない。それは——私はそうするが——三つの事柄を企図することである。すなわち、成果(performance)と経済的報酬の間にある関係、生産の能率と自己責任による決定の自由の間にある関係、及び生産の能率と指導的人物に授けられる権威の間にある関係。これらの関係のどれもが、時折言われている程には馬鹿げたものではない。

2 4 心に抱かれた——なすことが可能であるかないかを問わず——このタイプの諸動機が純粹に利他的な、またはもっと一般的に理想主義的な諸動機によって置き換えられよう、という希望に返答の主なものが懸っているようなことでは安全とは言えないであろう。私は完全な利害を離れた意味での義務がどんな社会的世界にあっても——我々自身も含めて——重要な要因であることを否定できようとは思わない。しかし我々は先ず利他的な諸動機の発露と善意の間に(between the operation of altruistic motives and good will)内在している連結関係を見捨てるだけの余裕をもち得ない。ある人物が物事の妥当性についての自分の理念に従って行動するとして、尚自分の周辺より侮辱されるか、または不適切にしか評価されていないと感じた時、その人は敵意をもった反抗的態度をとるか、または自己防衛に走ろうとする傾向をとるであろう。そうした理念は疑いなく修正されてよいものであるが、その人物が修正できる範囲についてまで思索するだけの気配りをなす必要はないだろう。次いで私は、私の記憶にある限り、かつてこれまで職業上の日々の生活の中で、または習慣的な非職業的生活の中でも、自分の利益とは完全に独立して、利他心や義務の意識が働いているような、それほど断固たる志高き人物にただの一例と言えども遭ったことがない、と述べる義務があると感じている。医師、弁護士、牧師、教師、政治家、公務員、あるいは労働運動家、他、あなたが望むならば何でもよろしいが、いずれにしてもそういう人物はいずれにもいなかった。博愛団体の事務局にさえ、「連盟」とか討論団体の議長にすらいなかった。全てのそして最良のケースですら、個人的利益の要素ははっきりしたテストの方法により明らかに認め得るものである、殆どのケースでそれは——観察された人達がいつもそうであったわけではなかったが——

痛ましい程に明白であった。

我々が利益を離れた人物として関説しているのは——彼に了解されているのは公共の善に一意に専心する奉仕者としてであるが、彼の個人的利益を我々が攻撃的と感じる程には押し出しはしない、しかも他人の利益は認めるとなすような人物である。この事実はこれまた修正され得るものであるだろうし、そしてある範囲で我々は実際にその個人を経済的諸心労から免じることと資本家的利得の魅力から遠ざけることがそれを修正するであろうことを期待し得るのである。しかしそれにも拘わらず、それ(利益と結合する性情・・・編者)は資本主義の災禍について——精神の汚染が彼等の「自然な」性情を捻じ曲げているのだと——語ることで単純に取り払われることはできないものである。というのはこの事実の根底にある諸態度たるや資本主義のシステムなどというものよりもっと遙かに深く根をもった存在だからである。このようにして得点はアンチ社会主義者の側にある、と私はみる。しかし、このアンチ社会主義者のいくらかの社会主義者の諸態度や諸行論に反対して得た得点は、社会主義そのものに対して得た得点ではない。社会主義システムが機能させられるべきであるとすれば、個人的自己中心癖、とりわけ超正常者の個人的自己中心癖は考慮された上、合理的に処理されなければならない。

個人的自己中心癖の問題を合理的に処理するということは他の事柄との間であって、これを調節することを意味する。しかしこの調節(**conciliation**)はコミュニティの他の部分に対しては、ごく僅かの出費で、しかも定義されたような社会主義の諸原則を揺るがすことなしに——いくつかの特定の社会主義には原則を揺るがすことなしに、とはいかないであろうが——完全に可能なのである。我々をしてこれに直行せしめよ。・・・

25 「報酬」——それが強調されるのが常であり、その否定がエンジンの作動の麻痺に連なるのが常であるところのもの——とは何か。最低限のものとして成功裡の成果の認知(**recognition of successful performance**)があり、より頻繁には一層に本質的な社会的威信の類(**social prestige of a more substantial kind**)がある。かく想定することの根拠はこのタイプの見返りに成果を条件付けようとする心の装置がどんな社会的グループの

内部にあっても生活のロジックから起こってくるということである。

資本主義社会にあっては、この認知乃至は威信は次の理由から強力な経済的含蓄を担う。すなわち、資本主義社会のスタンダードに従って、金銭的な利得が成功裡の成果の典型的な指標であるが故に、そして個人的環境から——とりわけあらゆる経済財の内の最も敏感なものである社会的距離(social distance)から——もたらされる筈の社会的威信の身の廻り品(the paraphernalia of social prestige)であるが故に。この威信乃至は私的富の際立った価値は極めて一般的に認知されており、認知され続けられてきているのである。ジョン・スチュアート・ミルは洞察力と看破力の魔人という程の人ではなかったが、この認知を見抜いていた。超正常的な成果に対する諸刺激の中で、これこそ個人的利得に設せられた制限の理念を担い得ないような態度に対する——永遠に特異を加えたもの(forever plus ultra)を希求することに対する——配慮となっているものの一つなのである。・・・そして今や第Ⅱエッセイで提供されている諸考慮が教えてきているもの、資本主義的進化そのものが、とりわけそれが個人を超えて家族をも包攝するものである限り、その諸動機を弱くする、ということである。もし社会的距離が専用のホテルや専用のクラブや船等でグループ別に達成することができることにもなれば、その時、城や威厳のある都市の館やヨット等はその相対的利益を失うことになる(クラブ原理)。もし城、都市の大邸宅、ヨットが累増的に多くの出費となり、維持していくことが困難となり、実際に人迷惑な展開が演じられるということにもなると、何故か、人々は徐々にそうした物事を求めるのを止めていくことになろう。課税、社会的批難、それにファミリーの弛緩が産業的王朝の基礎を確立することを不可能乃至は望ましくないものとさせることにもなれば、他の駆動力も活動することを止める。もし富が賞讃でなく冷笑されることにもなれば、それと関連して(pro tanto)その所有者によってさえネガティブに評価される。このようにして資本家のエンジンそのものの作動とそれが生み出す心理の作動のお蔭(徳性)で、資本主義の精神意識は今や崩壊の歩みの中にさえあるのであり、もしその梨の実が十分に熟するまで時間をかけるのが許されるのであれば、崩壊は更に一層大きな率を以て進むであろう。社会主義はそれ故に上層階層における生活の価値の再評価を要求するのであるが、その要求される再評価たるや、かつての小経済帝国の基礎を子孫に譲渡する可能性こそがあらゆる資本家のもつ諸動機の中の最も正常なものであり、しかも資本主義的行進の下にある最も普通の兵士達の背の後にある指揮棒であった時代にあったところと比較すれば、その大きさにおい

て比肩するべくもない程に小であるだろう。

それ以上に、もし社会主義社会が威厳の動機を満足させることを合理的と考えるべきだということになれば、社会主義社会は、そうするためには古い王朝時代にそうであった程に、有利な位置にある。もし超正常的な成果がその成就者に対し——そして他の者にではない——ズボン上に安物の標識を付けることを許すというような特権で以て報われるということになれば、これはぴったりとここでいうケースとなる。これをみるに、人の非合理的な性情に訴えるとか、または非経済的な報酬であると呼ぶなれば、それは全く悪い、というべきであろう。というのは、もしその標識があらゆる同志達に対し、それを着用している人々に対して特別の配慮を以て誘導するのに十分なものがあれば、その着用者に対する効用は高度に合理的な利益であるだろう。それはアメリカの名誉在郷軍人達が——彼等がフランスの税官吏と出会う以前から——金細工をボタンの穴に取り付ける習慣のあったことから裏付けられる如くである。更に今日の金持ちは、もてる金の大部分を我々の描写が象徴しようとしているものを正確に確保しようとして支出しているのである。

26 最上の、入手し得る質の中でのあらゆる「結構づくめの生活」を個人的に享受したい、とする欲望はそれでも残される。いくらかの倫理的理想的認識結果に相応じんがために、この種の充足を否定することはもとより少しも非合理ではないであろう。しかし、我々の少なくとも——多分生得の——常識とロシアでの経験を指針とするならば、経済的合理性は、このケースにもまた、一連の調節の諸政策(a policies of conciliation)を指示していると推定される。成果についてのリーダーシップ乃至は超正常の様々な水準において、このことを適切に考量しているであろうもっともらしい規模での産業予算を描くことはできなくはない、と私は考える。結論は並外れた他のものではないと言えよう——ある特定タイプの社会主義者達(あるいはどちらかと言えばプチブルジョワジー)のパリサイ人には衝撃的なものであろうが——。様々の調整的工夫は資本主義的世界で出現しロシアで発展させられたものとして既に手元にあるのだ、ということがかのパリサイ主義の視野の中に加えられるのが良いだろう。それは象徴的にだが現在の購買力で見積もって10万ドルに達する程度の可処分所得の規模で充分以上のものがあり、国民所得の数パーセント以上を吸収する必

要はないものである。その工夫は本質的に——特定の諸義務(諸税)の適当な免除に対応する出費であると規定されたものに対する——惜しみのない供与を以てする諸現物給与(payment in kind)の結合物である。殆どの国において高級位の公務員は疑いなく普通のありきたりの程度において支払われている——それはしばしば非合理である程そうである——そしてその巨大な執務室は殆どの場合、行儀よく少額の貨幣的俸給を保っている。しかし多くの場合、この処理はいくつかのケースにおいて、名誉だけではなく官公舎、公費支出の秘書達、「公式」接待の容認、船艇や他のヨットの使用、国際委員会での、また軍司令官としての仕事の特別の提供、等々によって補償されているのである。少なくとも一か月に400ルーブルで暮らすと思われている程には生活が厳しくないのが通常である。好む好まないは別として、このことは重要である。

27 現代の所得税と相続税が「怠惰な金持ち」(idle rich)問題を量的に無意味なところまで引き下げる、ということを我々は敢えて申し立てることはできない。その理由はこの課税が次の意識の表現そのものであるからである。すなわち、閑暇階級に対しては——完全な消滅への先行ランナーとしての役割を除けば——どんな経済的または文化的な機能をもこの意識は否定するものであり、来りつつある社会主義は既にこの分野では単に自明であるとしてきている、と。我々は設問を立てるにあたって本質的に元のままの手付かずの資本主義(intact capitalism)であったならばという仮説的なケースに相対しなければならぬのである。この手付かずの資本主義は、我々が知っているように、極めて重要な非資本家的要素である最上層の階層——それは「楽しむところの世界」(le monde qui s'amuse)において異彩を放つものであった——を潜伏させていた。国民所得に占める彼等の所得のシェアは——遅くとも19世紀中葉までの全てのヨーロッパ世界では少なくとも——かなりの高さになっていたに違いない。このシェアが今ではどれ程のものとなっているだろうか、課税の欠如の下で、しかも諸政策がこの階層に有利であるか、少なくとも敵対的ではないと仮定しても、告げることが困難である。イギリスはそれを推定する試みが、やって可能かも知れない唯一の国である。しかし合衆国ではそもそもこの問題は存在しない。

しかし社会の中の純粹に資本主義的な部分にあつては——全体として

資本主義の青写真に一致するような社会にあっては——閑暇階級による彼等自身の使用に供される消費財に対する支出の額は、絶対的にも相対的にも、一部の観察者が考えているところよりも遥かに少ない。そうした観察者は特定の極めて異様な部分にその支出額が多分に集中しているということを見逃しており、しかも習慣的に休日や勤務時間後のあらゆるビジネスマンや専門的人物を怠惰な金持ちの中に含めている。それ以上に、そうした社会での怠惰な金持ちは主として超正常的な成功を得たビジネスマンや専門的人物への寄食者達や子供達からなっているものであるから、行論は、ブルジョワ的動機で推進されている一個の経済的世界の中でのそのエンジンの能率に伝導する成果とこうした寄食者達や子供達の怠惰な満足との間にある交差関係を考察するものでなければならないであろう。・・・更にまた、もし我々が実際に個々の環境についての詳細な研究にまで立ち入っていくことにもなれば、そうした諸現象は例えて言えば極めて膨大な科学的及び文学的な生産がイギリスでは経済的には怠惰な層から流出してきたといったところまで考慮されなければならない——その人物の際立った質が自立ということと多大の関係をもつ政治上の奉仕については考慮から外すとしても・・・更に過激派的性向を多分にもつ読者をいらいらさせるであろう他の多くの項目がある。しかしイギリスの過激派ですら、自己の資産をもった紳士という造型的威信なしには、彼があるところのものではなかったであろう。・・・一セットの充分に着古された、しかも平凡だが不幸にして真実である配慮にこれ以上のどんなスペースをも潰そうとは思わない。再び社会主義がこの標題の上に収納し得よう正味の諸経済の正にその性質がその正確な推定に対して克服し難い障害となる。しかしこうした考慮はそれ(正味の経済)を個人サービスに対する契約上の支払よりは他の源泉から得られた所得の総額に近いようなどこかに置くのは不合理であることを示している。・・・合衆国の場合、私はそれを国民所得の1パーセント以下におくべきだろう。

1929年は上記の主張を実態化する目的からすれば例外的に不都合な年であったが、5万ドル以上の所得をもつ者で自からの消費のためなされた総支出額は国民所得の3.5パーセントを超えることはあり得ず、逆にこれを下回ることは大いにあり得るということであった。モールトン、レーベン、ウェルブルトン「アメリカの消費収容力」からの数値に基づけば、貯蓄と課税と慈善の額は全支出の15パーセント程と想定される。1929年水準での課税は手付かずの資本主義と両立し得ると考えられるので、それらの控除が先行の考慮によって論点をそらせるものではない。

今やこの3.5パーセントは全ての高級ビジネスマンと専門的な人々の所得を含むものであり、そこでテキストにある結論を引き出すことは根拠なしとはしない。・・・何か複雑したものが・・・私は正味(net)を考えている・・・

a) 能率が損なわれるのでは、それはあり得る。しかしこの支出が(労働者に支払われる)費用に属する場合には、それは資本主義にのみ固有のことであるということも。資本主義的諸前提の中では無価値だということは尚、証明されていない。b) 正味——そうでないと社会主義に他の支出を発生させる。・・・他の側面、支払い——それは必要であるものよりも高く、高い部分は共同合同会社の労働者にはなしで済まし得るかも。謝礼(fee)的なものを留保している性質のもの、それは経営者、テニユア、教授に対しても、しかし「扶助」(Pflege)よりも高いものが必要であるかどうかは疑問である。・・・

もし我々が——これから後はそうしようと思っているのだが——怠惰な金持ちと経済的成果の間にある交差関係を提供している家族的動機が、十分にまたは殆ど十分に消滅させられるであろうその段階で、社会主義が受け入れられると想定するならば、このケースは幾分か改良をみることになる。しかしながら怠惰な金持ちの所得の抑止から得られるであろう額が多額でなかったとしても、今やその段階に関して類似の想定を我々がなしているなれば、とりわけ、あらゆる高額所得者からの——課税によって既に先鞭をつけられているような——更に大きなものが一般的控除から期待されることができるのである。その理由は現在の——将来にあっては尚一層そうであろうが——高額所得の提供する諸サービスを一層に少ない出費で以て確保し得るであろうことに疑問の余地がないからである。能率を下げることなしに、怠惰とアクティブの金持ちに即した全正味の節約の額はその場合、全国所得の2~3パーセントに及ぶ程に十分な額となるかも知れない。・・・殆どの社会主義者達とブルジョワ過激派達はそれらが極端に控え目な数値であることに驚かされるであろう。そうなったのは能率を下げないという但し書きの故であり、更にそれとの関連で社会主義者達には高額所得——5万ドル以上の粗所得で貯蓄、租税、慈善を含む——についての規定が不当に寛大なものと映じるからである。二つのコメントが追加されるべきである。必ずとは言えないが、ビジネスマンの所得の中には資産由来の所得と「働き出された」と称される所得の間を分離させている特殊なケースがある。一例がこれを示すだろう。ある人物が一片の土地を開墾するならば、彼がその後において受け取るであろう報酬は「人

によってつくられた装置についての報酬」準地代である。しかしもし改良が恒久的なものであれば、その報酬は地代プロパーから区別し得ないものとなり、それ故に不労所得の理念の正に化身のようなものを構成するであろう。その一方で実体的には、もし我々が賃金を人力の行使に対する報酬として定義するのなら、賃金の一形態である。更に一般的には、努力はそれが賃金の装いを纏っていてもよいが、必ずしもその必要がない将来の報酬で経験されることもあるということ。次いで我々が能率を産出の長期的発展として測定を語る場合、報酬の削減によって産出が増加することもあり得るということが忘れられてはならない。一例はアメリカの諸大学が教授達のこれまでもっと高く支払われていた俸給を引き下げたとすると、ある者は一層に多くの教科書を書くよう誘引されるであろうし、ある者は一層多くの学外授業につくよう誘引されるであろう。もしそうした測りえない社会的恵みが俸給のレベルにより放逐されるとなると、悲劇的な損失はそのレベルでなされる独創的研究の一層の増大や教育の一層の良質化によっては補償されるとは限らないことになる。

28 経済的エンジンの効率と被雇用者達の上に君臨する権威——私的所有と「自由」契約制度を手段として商業的社会が雇用者達に授けているところの権威——の間に内在するよう保たれている関係につき何が告げられるべきか？・・・再度言うようだが、これは一個の特権の問題だと——すなわちこれは「持てる者」に「持たざる者」を搾取することを得せんが為に授けられ、そして社会化を以て<所有権が灰塵になるであろうと同じだけ速やかに>消え去ることが予定されている特権——だと単純に置かれる問題ではないのである。直接に関係する私的利益の背後には明らかに社会的利益がある。ある与えられた状況の下で、社会的利益が私的利益によって実際に資されている程度に関して、及び社会的利益を雇用者の自己利益に信託する方法が敗残者(underdog)に負荷する「機能無き激しさ」(functionless hardship)の程度に関して、意見は大きく拡散したものとなるであろう。しかし歴史的には如何なる見解の差もあり得なかった。そうした社会的利益が存在するという点に関しても。あるいはそれ以上にその方法の一般的有効性——とりわけ手付かずの資本主義(intact capitalism)の画期を通してその方法があり得る唯一の方法であることは明らかである——に関して。我々の設問は二つに分けられる。その社会的利益は社会主義的環境の下でも主張されてよろしいか？ もしそうな

らば社会主義の計画はそれが何であろうと権威の要求される量(the required amount of authority)を供給することができるのか?・・・権威は多くの事柄を意味する。それ故に我々はその言葉を二つの他の言葉に置き換えよう。それは我々の議論に関係している特別の意味に対して補完的である。すなわち規律と服従(discipline and subordination)。(服従——下級叙任・・・編者)

29 我々の社会主義の定義において、権威の単一性——恐らくは先ず中央計画(Zentralplan)——が強調されてきたことに注目されたい。これは権威の構成について何事かを意味付けしようと思図されたものではない。職責と権力(duties and powers)は広く様々である。それは選挙されたものであっても、なくてもよい、委員会または個人を通しての機能は内閣に一層似たものであり得ようし、法廷に一層似たものであり得ようし、議会に一層似たものでもあり得よう。一個の行政部であり、それと区別される監査機構であり、一種の決算機関(a sort of cours des comptes)である、とさえ言うてよいだろう。そうしたことは概念にとって無関係なことである。しかしそれにも拘わらず、統制の機関(control body)が一つ以上に多くある時には、それらは取りまとめられて——専断的であるか、または形式を整えられた諸ルールに従って協力してまとめられた——一つの意志決定を構成しなければならない。何がどのように生産されるのか、多くの目的に用役を提供できるような生産諸資源がどのように各部門に配分されるのか、及びもたらされた諸生産物をどのように処分するのか、こうしたことを全体としての社会の為にはからせるところの権威の単一性である。このことはその仕事の幾ばくかの領域を下部に位す担当者乃至は機関に与えること、下位グループの自治の方法に任せることを排除するものではない。但しギルド社会主義やサンジカリズム(guild socialism or syndicalism)等は排除される——彼等が提起しているのは全く違う問題である。いくつかの機構により仕上げられた一個の包括的な社会計画、従って一個の中央——少なくとも整合している諸機関——があること、これが私が今述べている社会主義にとって本質的な点である。

30 (集権的中央計画の強調の傍ら)、他方において、私は自然的諸資源

と工場等諸設備の公的所有制を強調してこなかった。この論点は非常に重要という訳ではないであろうが、明確化のためから看過されるべき問題ではない。第一に、所有という言葉からしてが、またはその更なる技術的な代用語のいずれもが、非社会主義社会からの外来語である。・・・それは資本主義に由来するとなすのも怪しいとみられるようなメカニズムからもち出された。しかしそのようなことは何であつても構わない。・・・一個完全な光明の下で社会は社会主義に向けて働く、とは言え、諸目的の外部で、ランゲに反して、とりわけ経済の確たる諸ルールは確かに一般的論理的に・・・論理に対する経済のマトリックス。・・・何が区別か、選抜(淘汰)、成果の配分、諸目的、方法における区別。・・・私的所有制は無責任性を咎めだて、そしてわめきたてる人を遠ざける。私的所有制は人がその過失に対しては支払わなければならないことを意味している(Privateigentum blemish irresponsibility und hält den Schreuer fern. Privateigentum means dasz man has to pay for one's mistake.)・・・(公的所有制とは上記のような私的所有制——それは資本主義の職責と権力を支えるものであつた——に差し替えられるべき、あるいはそれ以上の重みをもった職責と権力の体系を公的所有制下の社会主義は担うことになる。・・・編者)・・・

31 もとよりこれら全ての諸ケース、とりわけ労働者のケースにおいて、取引力のバランスが——いつもまたは必然的に——彼に都合よく存在すると信じる程人を誤らせるものはない。このようにして労働者の搾取(開発)の評価に至る。とりわけ資本主義的進化の初期の段階での搾取は——後の時代の感覚からはショッキングなものであるが、尚、次の事実を考慮しなければならない。それは急激な進歩のための闘争の一つの随伴物(an incident of a struggle for quick progress)——資本家の手による一種のゴスプラン——であつて、産業的装置のより一層の拡大のためのものであり、結局のところ引き継がれることになる大衆の生活水準における上昇のための諸条件の提供でもあつた、ということである。このようにして充たされた社会的機能は、それが如何に粗野で不似合いなものであつたとしても、社会主義社会でも充たされなければならないものである。しかし我々はそのことにつき自から心労する必要はない。というのはその機能は自動的に充たされるであろうからである——非人的諸資源のケースにあつては単純に青写真に従つたそれらの配分によって、また私が社会主義計画の「論

理的可能性」を論じた時、概略を描いておいたような機構を通して、そして人的諸資源に関してはそうした配分に加えて、様々な諸誘引をもたらす政策を認可するような社会の文化的諸意識(**the cultural idea of society**)によって。社会が与えられた同志(**a given comrade**)から何を得ることができるとかという設問は社会主義的配置においても——経済的合理性がそこに行渡っているものならば——その意味するところのものを失ってはいただろうからである。広義に了解されたものとしての搾取(開発)がある種の社会的機能——ある種の社会に対する基礎的サービス——に相当するものを含んでいることと社会主義が人間存在を搾取し続けるであろうということとの間にある背理(**paradoxa**)は極めて僅かの省察を加えるだけで消え去るであろう。加えてどんな慎み深い人物でも、他のどんなことよりも深く欲するところのものは、正確に彼の能力を限度いっぱいまで開発(搾取)することなのである(**what any decent man wants more than anything else is precisely to be exploited to be the full of his capacity**)。

3 2 規律とは——個人自身というよりは他にいくつかの社会的機関の活動によって——個人の行動が造型されることを示す。それ故に自己規律(**self-discipline**)と呼ばれてよいものは、訓練すなわち規律への過去の従属(**training, that is, past subjection**)からもたらされた一つの習慣(**a habit**)である、というその範囲においてのみ入り込んでくるものである。しかし集団規律乃至は一社会的グループの自己規律と呼ばれてよいものは、いつも我々の一般的定義に含まれる。もしあるグループ——例えばある工場で労働者を構成しているグループ——がそのグループの意見と態度によって各個人であるメンバーにグループの標準に一致するよう圧力を行使するようなことがあれば、我々は尚個人自身というよりは一個の「社会的機関」(**a social agent**)をもっている、ということなのである。もとよりそれはある個人——たとえ選ばれた人物であったとしても——によって強いられた規律とは区別されるのが便利であろう。区別されるのはそのグループの全体というよりは他の団体乃至は他のグループによってなされる——これは我々が権威主義(盲従)的規律(**authoritarian discipline**)に即して意味付けようとしているものである。服従(下級叙任)(**subordination**)——それは規律の産物である——は決定に関する服従(命令に従うこと)と標準に関する服従(監督や批判の効果的な受け入れ)に分割し尽くされる。

自己規律はどんな自然的及び社会的環境の下でも生き残りの必須の条件であるので、更に集団規律はどんな社会にあっても——とりわけ社会主義社会にあっては——依拠すべきメジャーな要素であることが明瞭であるので、問題はただ権威主義的規律——権威による規律に関連してのみ発生する。それを馬鹿馬鹿しく理想化することにより、それを以てキリスト教天国の代替物ならしめることを試みることにより、社会主義に対応するケースを台無しにするようなことに固執する精神の枠組みに我々は再度出会うのである。そのキリスト教天国たるや、何故かというといくらかの他の天国は席を連ねた従者達の制度をもつからであるが、キリスト教天国は現実に「天使達の可能な限りでの搾取のしるし」に対応するよう求められなければならない、とさえするのである。しかし大衆について不条理な構図は——それはその場合、喜びに満ちた競争心(joyful emulation)の中でやり抜くべく提起された諸決定に<愉快的ゲームの休息の時>知的な討議というやり方で到達していくものなのであるが——以下の諸事実由来する特定の諸事実と諸推論に我々をして眼をそらせるものであるべきではない。第1、我々は権威による規律が急速に消滅しつつある資本主義的パターンと社会主義的代替機構を比較しつつあるのだということ。第2、大衆の自己規律と集団規律が課す役割において社会主義のコミュニティは現代資本主義の諸条件の下で果たされるよりもずっと大なものがあるだろうと期待される理由が実際にあること。第3、自己規律と集団規律が不適當だと分かったとしても、惹き起される困難を粉碎するのに、社会主義的経営は資本主義的経営が現在の諸条件の下であり得たかも知れないどんな位置よりも遥かに良い位置にあらうこと。この3点を確立するにはごく僅かな省察だけで充分であらうが、それらはより納得し得る形態で社会主義に有利な諸期待に支持を与える、という諸事実なのである。

33 資本主義のシステムを機能させるための権威による規律はしばしば過度に軽視されてきた。時には、特にベンサム主義的信条をもつ経済学者のケースであるが、それは完全に看過された。それは商業的社会的至高の素晴らしさの啓蒙的要約ではなかった。そこに発生している諸利益の合理的評価でもなかった。更には単純に——それがあつたというだけで重要なのだが——工場において彼に彼の義務を果たさせるといふ良きワークマンシップ(技量)の喜びと誇りといったものでもなかった。そうではなくして諸決定に関し、または諸標準に関し、それに従って動こうとする、ま

たは自からを服従させようとするところの、そうしたことへの「性向的」な容易性(**the instinctive readiness**)があったのである。それらは彼が彼のブルジョワ的親方の封建的先輩達の拳骨(**the fist**)の下で体得してきた規律から引き継がれたものである。この親方に対し、彼は——全ての正常なケースとして——封建領主に対し疑問なく抱いていた尊敬の一部を——決して全部ではない——移し込んだのである。更にこのことは、もし彼が特定の諸目的のため契約に入ろうとしている一人の社会的平等者としての彼自身(**himself as a social equal entering into a contract**)を感じていたとなると、事態はそれがあったであろうよりも多くのことをより容易とさせるのである。

この利益を産業ブルジョワジーは部分的には罰として失うことになる。政治的分野での平等性を受け入れることによって、そして労働者達に、諸君は正しく他のどんな市民とも同じく価値ある市民なのだと言ることによって、——更に知識人達にそう語るのを許したことによって。この市民的平等性はまた更に進んで野蛮な規律保持の諸方法を排除するものであった。しかし、しばらくの間は、その「権威」とそれを護衛する諸手段は十分に保存された。その双方を不可避的に破壊していくことになる徐々ではあるが不断の変化を隠し、且つ殆どの人達が典型的に資本主義的方法として考慮するだろうところのものを構築したのである。そのやり方の効率は大約同じ手法の中にあり、その手法は罰としての解雇の行使の可能性——自由契約の理念とは程遠いが当事者はそのケースのこの要素に合意していた——に帰せられる。更に解雇を即座に行使しようとする——それは強制に匹敵する——動機の強度にも帰せられる。その濫用について我々に衝撃的であるのは真実のところ、その中にある一要素である。というのは、人間関係——国際関係であろうと、諸階級や諸グループ間の諸関係であろうと、あるいは個人間のそれであろうと——における権力の概念と結合したどんなことであっても、濫用の可能性は効果的な行使の一部、または一片なのであり、濫用は権力から分離され得ないものとして、「それが決して濫用され得ないという保証によって歯止めがかけられた権力は結局において権力ではない」(**power that is so hedged in by guarantees that it can never be abused, is not power at all.**)ということであるからである。

3 4 今やこれら全てが過ぎ行きつつある——その多くは既に過ぎ去っ

てしまった。以下はこれを集約し、その行論の一部を今一度招喚するものである。

何より第一に労働者達をして彼の雇い主を「見上げ」させ、更にその権威を当然のこととして受け入れさせるような、その威厳が過去のものとなってしまう。その威厳(**prestige**)に添えられてあったコミュニティの道徳的支持が——その反対のものに転換されてはいないところでさえ——引き揚げられてしまっている。その反対のものの徴候は労働争議に対する諸政府の態度である。すなわち変化は雇い主の権威の無条件的支持から、中立を経て、規律違反を容認し、しかも鼓舞しさえするような態度にまで進む。直接の攻撃目標になっている事業者利益の背後にはもはや社会的利益はない、とする理論にそれは基づいているのである。過ぎ去った、または殆ど過ぎ去ったものの第二幕は、規律の裁可(**the sanction of discipline**)である。すなわち、それは資本主義的方法——解雇の脅迫——を特色づけるものであった。今やこの用具の操作はその行使を試みる手を切断するだろうといった程にできないように形造られてしまっているのである。

過ぎ去ったものとして「闘おうとする意志」が最後にあげられる。支持されていないと自己を感じるにより、また自からの道に誠実さを失っている自己をみるにより、彼はお手上げの状態になろうとする。このことは、とりわけ、自分自身が被雇用者の心理をもちつつある大企業執行部のタイプにおいて真実である。彼は自分の俸給と契約をもっているのである。株主に対しては彼は何の配慮もしていないと言っても言い過ぎでない程に僅かな配慮しかしていない。彼は知っているのである、自分が防衛しつつある社会的利益のその効果に対するどんなクレームもが——陽気に騒ぐことを除けば——憤激を起こしさえしない、ということ。彼は知っているのである、自分が素早く折れるならば、肩を叩かれて真に進歩的で開明的な人物だと賞讃されるであろうことを。そもそも、彼が正にお見事とされるところまで行き得るとして、何故に彼は闘うべきなのだろうか？ この点については、経営側にあるものとしての、そうした闘争精神がこの国(合衆国)では先立つ何年かの中に——そこでは個人的乃至は家族的利益が尚強くあるか、または少なくとも完全には麻痺していないような諸企業(自動車及び鉄鋼産業をみよ)の中から——現れてきた、ということが深甚の意味をもつ。一般的に言って通常既得利益(權益)と呼ばれているものは弱音を吐くことである。それあるところでは社会不安の中の權益が前面に出る。(what is usually called the vested interests shows the white feather. In places of them the vested interests in social unrest

comes to the fore.) このことの論理的帰結が——完全に拘束された資本主義に限られたケースにおいてではあるが——資本主義は帰するところ結局には機能することを止める、ということにならざるを得ないのである。その場合には、もとより、社会主義の優越が自明の理となってくるであろう。しかしこのメッセージが発せられる以前においてさえ、少なくとも可能性の領域では、構造の社会主義形態の採用から期され得るものが社会的規律の回復であることは充分にあり得よう。

35 労働者達の自己規律と集団規律が社会主義のコミュニティにあつては、それらが現在演じているよりも一層に大な役割を演じるであろう、と期待させる諸根拠とは一体何であろうか？ 社会主義の秩序が道徳的忠誠(the moral allegiance)——それは資本主義に対しては益々以て完全に拒否される——を課すであろうというのがその一方である。他方は社会主義社会では経済過程の性質が誰にも——資本主義でそれがかつてあり得たであろうよりも——理解され得るところが甚だ大だということである。これらのファクターは相互にぼかし合っているが、分離してそれらを見れば一層際立つことになろう。

道徳的忠誠が自己規律と集団規律の双方の増進であろうこと、このことを入念に立証するどんな必要も殆どない。労働者の自分がその中で働いているシステムに対する道徳的忠誠は——自分の義務を果たそうとする態度において——自分が信認していないシステムの下でもちうるものよりも一層健康な態度を与える傾向にあることは明白である。確信をもって期待されてよい社会化の今一つの帰結はもっと重要である。資本主義のシステムに対する労働者の不信認は大部分——彼がそれらに晒されている——諸々の影響力の産物である。不信認であるべきだと説かれているが故に不信認なのである。彼のロイヤリティと彼の良き成果の中の自然な喜びは組織的に論破されていくのである。彼の生活や仕事への全体展望は階級闘争コンプレックスによってスポイルされることとなる。社会主義の下ではこのコンプレックスはある程度自動的に消え去るであろうし、他の既得権益と並んで社会的不安の中のそれも消え去るであろう。

物事は社会主義的秩序の下では、経済的諸現象がそれらの様相を間違ふことない明瞭性を以て示されるが、その傍ら資本主義的秩序の下ではこうした様相が私的利潤の利益というマスクによって覆われている、という事実によって一層に円滑に進行することになろう。社会主義者達が保つ恐怖

と愚行は実際に彼等のマスク——そのマスク自体の重要性を我々は否定し得ないのであるが——の背後で犯されているとしても、我々は少ないと考える。このようにして、社会主義社会では次のことが疑われる可能性は先ずあり得ないであろう。国民が国際貿易から得るものは輸入物であって、輸出物は輸入物を入手するために耐え忍ばなければならない犠牲だということ。その一方で商業的社会では、この常識的見解が街頭にある人々からは完全に隠蔽されているのが通常で、それ故にかの人々は自分にとって不利益な諸政策を喜んで支持しているのである。・・・更に、この他社会主義的経営が不器用に行うものが何であろうとも、生産をさせないように誘引しようとするような明示的目的で誰かに何等かの報償金を支払うことは確実にないであろう。貯蓄についてはナンセンスだと言い逃れをすることができる者は誰もいないであろう。当面の問題から離れても、経済政策はそれ故に合理化され、無駄の最悪の源泉となっているいくつかは単純に——諸手段や諸過程の経済的含蓄が各同志達に明白であるというだけの理由から——避けられるであろう。しかしその他の事柄の中には、各同志達が仕事の上で反抗的なこと——とりわけストライキ——のもつ真の意味を明らかにするであろうということがある。彼が、ストライキなるものは「今や」国民の厚生に反社会的な攻撃を加える以外の何物でもないだろう、という結論に達したとしても、彼はその点、資本主義時代のストライキを事後的に責めはしないこととは関係がない。もし彼が相変わらずストライキをなすなれば、彼は悪しき意識を以てそうしているとして、公の不承認に遭遇することになろう。とりわけ軽はずみなストライキの参加者やリーダー達に拍手を送ろうとエキサイトして、それを考えるような男女のどんな低級なブルジョワジーも最早存在しないであろう。何となれば誰もが社会本位に考えるに至っており、だからもとよりのこと諸君は単純に国の運営をビッグビジネスに許すことはできないのだし、また諸君は正しく人並みの権利を与えられていない、ということを経済ブルジョワ諸君は知っている。これはいずれにせよ巨大な冗談である。

36 我々は第3の論点——もし自己規律と集団規律が不適切であったとしても、社会主義的経営は状況を完全に処理していき得るであろうとなすもの——を確立する方向に我々は前進させられる。推論的にそうであろう。というのは、自己規律と集団規律は権威による規律によって訓練された結果である——少なくとも部分的には——となす限りにおいて、たった

今示した行論から集団規律は結局なしで済まし得る、と結論するのは安全ではないからである。それよりも、外部からの煽動(instigation)が——いずれの大衆型の規律破りであっても——演じる役割を考慮するならば、我々は尚、次のことを無視し得ない。すなわち、紛糾をあふりたてることは、社会主義社会にあっても、尚キャリアであることを意味するか、またはキャリアへの近道であることを意味するという、及びそれはその機構の中にいる——自分達の地位につき、または物事一般につき不満をもっている——諸個人の自然な反作用として期待されるところが尚あり得るということ。セクト的——地理的と産業的——の利益の衝突が何ら働いてはいないなどと規定されることはできない。それどころか、そうした利益の衝突は現存のそれと同程度に由々しき問題であり得よう。・・・もし我々が比較を政治的諸手段についての考慮なしに資本主義的セクショナリズムの探求を受け入れるようなメンタリティでなすならば、それは更に悪いことになるであろう。ブームにおける煙の如く。・・・非セクト的な利益すらもが尚、意見を分かつかも知れない——例えば眼前の充足という利益は将来の世代の厚生のうちにある利益と十分に衝突しうるのである。更にこれこそ大企業の政策であると知覚されるものに向けての労働者乃至は大衆一般の現在の態度と甚だ似たような——社会主義経済を——経営するグループに向けての態度がその中に含まれていないだろうとは確信し得ない。私の説明に対して私が要求するただ一つのメリットは、私の説明が純化せられた倫理的栄光の海の中でそれらの諸問題に答えるのに替えて、それらの諸事実と諸可能性のことを考慮に入れていることである。最後に軽視できないこととして、私が社会主義の文化的非決定性と呼んでいるものの我々の問題への負荷が忘れられてはならない。生産における私的経営対社会的経営という一つのイシューを除けば、国民生活のあらゆる大きな諸イシューは依然、我々次第なのである。実際に人々が、全ての事柄をほとんどがヒューマン・ハートの問題だとして、闘うことを止めるだろう、とは信じるべき根拠がない。我々のこれまでの行論は、重要な諸局面で、人々を搾取する意向がより少なくなるであろう、ということより以上の何事をも確立してはいないのである。

しかし要点は、双方に相変わらずだと期待されてもよいものに対する展望が少ないであろう、ということである。資本家の利益を取り上げるというゲームや経済生活の歯車に歯止めを差し込むというゲームに最早喜びを得ることのなくなった公衆は、準犯罪的行為として認知されるようなことを許すことはありそうにない。最早現存の秩序に原則として敵対的でな

くなり、且つその多くは満足させられているようなグループとしての知識人達は、攻撃の諸目的に応じるものがそこにはあるとして、そうした「諸原因」を尚も用いようとする仲間の中のそうした人達を——黙って、あるいは活発に——助けることは最早ないであろう。社会主義システムは恐らくは知識人の数を一層少なく生み出すか、または少なくとも彼等の集団的利益を分断し尽くそうとするか、が期待されてもよいであろう。現在は否定されている多くの支持が、それ故に社会的規律に立脚した政府の方向へとシフトすることがなされよう。

37 社会主義的経営は、言ってみれば、ストライキを処理するのに現代の政府が軍隊内での反乱を処理するため許容されているのと同じようになし得ることになるだろう。ところでこれは要するに権威による規律に由来する——今のところは理論的に利用可能なだけで実際に行使され得ないような——諸道具の全てを行使し得る位置にあるということであろう。解雇による脅迫の席には自分達の義務を果たさない諸個人に対しては糧道を絶つという脅迫がおかれるだろう。後者の方が前者よりも遥かに効果的だろう。というのは、その措置が他の雇用の機会の存在によって弱められるからだけでなく、その措置を合理的とみてよいどんな程度においても適用され得るからである——その一方、現代の資本主義の下では、世論が一方の側の他方の側への労働契約に訓育的な権力を否認しているので、その措置たるや解雇か、しからずば何もしないか、にならざるを得ないのである。更にそれ以上に資本主義的経営では——その道徳的権威の欠如の故に——結局は行使できないような、さほどドラスティックではない多くの方法がある。軍隊的規律とのアナロジーがその含蓄しているところのものをよく描き出すであろう。社会主義的な経営では単なる訓戒が今日では決してもち得ないような効果をもつであろう。

しかしながら、それが全てではない。社会主義的経営は権威による規律という諸道具をもち、しかもそれを行使し得る権力をもつだけでなく、それを行使するのに十分な動機をもつ。現代の資本主義の下では、経済過程に対する政府の態度は——合わさってデッドロックを生むような——二つの要(かなめ)(factors)に帰す。すなわち、一方ではブルジョワ資本主義の建前理念に従って、生産のエンジンの成功裡の操作は——規範的または原則上の問題として——政府の責任とは未だ言えないということ、他方

では将来の社会的世界についての建前理念に従って、そのエンジンを導くとともに制御するものが政府であるということ。結果として諸政府は——疑問の余地なく行政的にと認知され得るその諸活動の範囲内で——正確に政治的並列(the political apposition)が典型的であるような「業務」に向かおうとする態度をとる。言うなれば、国家非常事態の下では、及び国民的重大事業の下では、疑いなく、批判すること(criticising)、検査すること(checking)、攻撃すること(attack)を助けることを原則とする。・・・今や社会主義の下ではそうでない。生産大臣はそのエンジンの機能行使に責任をもち、しかも自分のこととしてそれを見守るであろう。責任は政治的なものだけであるだろうし、且つ良き諸策略(good tactics)が多く失策を多分にカバーするであろうことは確かである。そしてそれにも拘わらず「反対することの利益」は消滅しよう。成功裡の操作を期そうとする強力な動機がそれにとって替わることになるだろう。経済的必然は最早笑い事ではなくなるであろう。操作を麻痺させるような諸々の試みは、通常、経営者グループの針金を縦横に張ることで縛り付けることに等しいことになろう。これに反発し、しかも必要ならば断固反対することも当然期待されよう。自分達の義務を果たす以上のことは、通常、何も尋ねたりはしないノーマルな人々は保護されるであろう。その仕事に反対の立場に自分達をおことうと試みるような知識人は危険なゲームを演じることになろう。

(5) (4)の補足的パセージ

摘要

1950年辺りの傷ついた且つ拘束された資本主義の下では、諸産業の社会主義的経営に向けての経済上並びに意識上の成熟はできているのかも知れない。農業的分野といった分野を除けば。魂はそのように造型されているとして、倫理的水準での適応並びに新しい価値付けと動機付けの図式も出来上がっている必要がある。それにも拘わらず社会主義者達はそのことを曖昧にしており、その先行者が破滅するのを望むほどには社会主義を望んでいないかの如くである。社会主義に反対する根拠は実際にそれを運転する社会主義者達に対する不信にあるのであり、社会主義者達の危険は理想を語っている彼等の輝ける眼にあるのではなくして、熟慮と経験の不充分性にあるのである。しかしそうは言っても社会主義的経営では公的分野に所属する産業活動の全体があまりにも大であり、あまりにも込み入り過ぎている。ここにおいて必要なのは効率的機構と人的能力それに権威による規律である。官僚制は明確に定められた仕事を如何なる恣意的決定をも排して、標準またはノルマまたは規則や法規に従ってなし遂げる。官僚達はどんな特別の報酬もなしに彼等の義務として、シジフォスの苦難の中に仕事をよく果たすべく、全時間をこれに没頭することになる。社会主義の下では、厳格に区分された部署でのキャリアとして具体化された人的諸能力を確保することが一層に重要であって、超正常能力者達を機構の中に導入するための独特に効率的なスキームを持たなければならない。規律の点から指示される唯一の権威は社会主義に対して健全な態度を確保するための権力を意味し、それは人材を指導し監査し訓練する機能を意味するものであって、他の非合理的盲従として濫用されることになるような権力を意味しない。規律には3種があり、自己規律は人それぞれに訓練された習慣を、集団規律は調整のとれた諸活動を生み出すため誘導された仕付けを、権威による規律は尊敬乃至は畏怖を伴う義務の意識に根ざす自発性の態度を意味するが、自己規律と集団規律は権威による規律の下に促進されるものであり、社会主義はそうした過程に好都合なポジションにある。・・・その他 (編者)

Ⅲ—(5)—1～66

(4)の補足的パセージ

1 社会主義は1850年には——双方の根拠からして——何等の意味をも持ちえないものであったと言えよう、そしてその意味を持ちえない状態は我々の言っていることが真実であるに至るまで、且つ諸機会がフィクションでない社会主義に好都合なものに益々以て至るまで、持続するであろう。(ここで言っていることは移行問題とは衝突しない、私はその場合、益々容易になるだろうと言っている。)・・・明確な状態を以て比較されなければならないのではあるから、私は拘束された資本主義(**fettered Kapitalismus**)だけを取り上げる、その時機としては1950年(条件付けの終結)を採る——それは設定が下された場合の、及び諸力が実際に十分に眼に浮かぶよう整えられた場合の、諸環境を提示する——西ヨーロッパで、アメリカで、あるいはもっと一般化して。・・・そうは言っても全く一般的に——移行のことは度外視するとして——(社会主義の実行は)農業部門を除けば(困難は)さほど大ではないとさえ告げることができる。・・・巨大な節約、それは可能性としては、それだけでふさわしいものでありえよう、部分的には、それは既に今であるかも知れない、但し道徳的忠誠(**moral allegiance**)の欠如が方向において根底から認定されるや、すぐさまということにはならない。現存する標準に対する不支持(**kein support**)と解体(**disintegration**)、唯一の手段はそういうことである。・・・

Ⅱにおいてしておいた指摘、そこでは魂の社会化(**Sozialisierung der Seelen**)についてが!・・・方向(**Dir—Direktion**)に責任がある・・・社会的破局に対する責任・・・ズボンに付した紋様・・・

2 社会主義Ⅲ・・・単純に、大企業資本主義は正に現存しているようなものではなくして、現在の諸傾向が、尚よく働き尽くされた時に期待されるであろうものとしてみられなければならない。そこにおいて私は拘束資本主義の種子受領者となるべきなのである。社会主義Ⅱにおける「拘束」の中へ、それは導入された——しかしそうするとして、拘束資本主義の中にも当然成長があるのではないか?の問題がある。あるいは二段階で、自らの心理学を伴った——拘束なしの——資本主義と拘束された資本主義が・・・資本主義の優越は所有の利益と責任制度(**Eigentums interesse und**

Verantwortung)の上に基礎付けられることができる。・・・報酬と責任についてのその比類なく効果的なシェーマ、それは真実であり、しかもその同じ時代の中で！傷つけられるのである。IVにおいては選抜(淘汰)がくる。・・・三つの要点、頭脳(Gehirne)の質と練達の諸条件(Bedingungen der Fertigkeit)と動機付け(Motivation)——有能なアメリカ人はビジネスに赴く。・・・「盲目と空虚」(カントの純粹理性批判の中の命題、「概念無き経験は盲目であり、経験なき概念は空虚である」の含意、編者)——創出(造型)(Gestaltung)が移行活動の中で正されることが全く容易だということになれば、自由についての要求がもたれることはあり得ることであろう。・・・

“Begriffe ohne Erfahrungen sind blind, Erfahrungen ohne Begriffe sind leer.”

3 善良な少年を見よ、神を讃えている！・・・金の卵を産む鷲鳥、それは理想対現実に対応して重要である。・・・

資本主義を見よ。そこには先見と自制と理想的合理性を伴った真正のものが、それが新しきものを自己の責任において創出する——気前の良さを除いて合理性からの何の逸脱もない——。更に資本主義を見よ。そこにはこれも同様に「労働者達と消費者達を抑圧する過程の途上に立ちはだかっている汚いトリックで社会がゆすり取られている」(die Gesellschaft blackmailed durch dirty tricks standing in a way of Prozess oppressing workmen and consumers)、という準犯罪的なものがある。双方が資本主義であり得るものであり、且つあるべきものなのである。而して社会主義においても同様で、すなわち斯く斯く。・・・

4 何に苛立っているのか？・・・理想型の資本主義か、事実上のそれか。・・・労働者と農業者の再条件付けは何の必要もない。ただ力強い態度をとることが許されるだけである。・・・恐らくは、他の目的を得ようとする場合、その時チャンスをとらえること、だが必然でない。・・・健全な態度、後で検討しよう。・・・働く場での服従(subordination)——今日それらがあるもの——恐怖のコンペアーシステム・・・そして仕事といったものの膨大な量は、また今日におけると同じだけあり、小事業者に

しても同じである。それは移行には重要である。・・・どのように私はそれを取り上げるべきだろうか、追求され尽くすことができないような、更には完全に競合するものでもないような、論争をなさなければならないものかどうか。・・・小さな少数派、その重要性については高度の配慮がもたれなければならない。・・・平等主義(equalitarianism)——投資に対しては不平等な配分である。・・・適切にここでか、または中世とのアナロジーを伴って。・・・

家、プライバシー・・・管理と責任の心理学・・・生産、選抜(淘汰)・・・資産、労働者達・書記達・指導者達の適応能力・・・歴史家は、自分が描かれていることをより良く批判することを知っていると考え、エコノミスト乃至はジャーナリストは事業とは何かを知っていると考え。・・・社会主義の内部にも生活形態をめぐる闘争(Kampf um Lebensform)はある。・・・バリエーションの途方もない幅がある、それは大部分、教育、訓練、慣習に根差すものである。条件付けられた識別(discrimination)の欲求。・・・しかし、しばしば変化は必然でない、言い逃れは容易にできる。・・・しかし、a) 能率を傷つける、b) 能率を下げるができる。・・・狩猟・・・食物の幅・・・喫煙・・・社会的交流、多くのことの底辺には更に多くのその外面的形態が尚も・・・性的要素の重要性——用具に対して合理的であることが重要。・・・文学の依頼・・・

5 一方において、資本主義の作動を許容しているどんな国にあっても、社会主義をスムーズに作動させるため要求される心理的適応が——幾ばくかの批判者が信じている程には——大なるものであるようなことはないであろうこと。他方において、歴史的で人物的な観察は、適応が能率を損なうことなしに可能だとするものか、或いは多大の困難乃至は激しさをさえ伴うものか、と見解の差の幅についての範囲の大きいこと、を我々は検討している。これは「生き残り得るや」と衝突するものではない。・・・

6 デザイン・・・能率のために重要である。

a) 社会主義の種類——全く様々であり得る、全てが「社会主義」であるとしても、b) どのように運転されているか、c) 誰によって運転されているのか。・・・諸機能に対する適応、a) 非経済的諸条件、b) 順応

(可鍛)性・・・利潤動機・・・所有制度、官僚制——そして次官級官僚達の役割(Funktionieren der Unterserektär)・・・その現代的タイプ・・・社会関係の中での彼の俸給、更に小言を言う。・・・

ワトソン、彼をして経済的両親からゲーテ(Goethe)を生ましめよ、20～30年は待て——何故に社会主義はその先行が破滅するように歓迎されないのであるか？・・・

他の文化を様々に条件付ける。・・・家庭といったもの・・・スクリーンの諸家族。・・・比較、競争と独占の間におけるのと同様に可能性はそれだけ乏しい。・・・諸条件が全く異なる、しかも文化実体や精神意識と人物のタイプに意味充分なものが欠けている。・・・

魂は機能させられなければならない。社会主義者はしかしそれをぼんやりとしたものの中におき、そして社会主義は二重の断層を常にもち、しかもそれが彼が冷笑しているものの上にある、ということを理解させるようならしめる。・・・何のために更に多くの道徳的スタミナを身につけるのか。・・・

7 特殊な場合——当然のことながら立体的なものとなり得る、あるいはそれは他の二つの契機に即して極めて似た結果に帰するのか、ということである。・・・

自己責任による決定の価値(二つの事柄、動機の鋭さと自由)は極めて現実的である。しかし全くのところ決定の相対的な質に依存する。・・・それは尚また、大規模事業体においてもそうである。・・・重要なのは課題が狭いこと・・・機能における開拓・・・そしてそれは二つの契機に対応した一つであり、他の一つ、すなわち監視である。・・・それを私は既に持ち続けてきた。・・・行論はこの人物に対してのみ当てはまるものであり、且つ、行政決定のルールを裁定することが常であるような人物に対してはそうでない。・・・それ程大きな展開はない、というところが重要である。・・・国家は創造するところがない。・・・事物の本質はより明瞭である——ストライキを行う人達にも・・・健康な態度、忠誠と許容(excuses wegen)・・・インテリ共はもはや車の中で叫ぶことはせず、喜んでい。もはや誰もが告げない、労働者達に対して働くことは正しくなく、それは屈辱的な服従であるとは。・・・それは命令することも規律化することも思い切ってなし得ないような拘束された資本主義に即して、とりわけ決定的である。——そう、偏に、それは極めて民主的である。・・・

8 社会主義に反対するケースは何等かの理論家の原理に根差すものではなく、それを運転しなければならない人々についての不信に根差すものであり、それに実行上の諸配慮に根差すものである。・・・社会主義にとっての危険は社会主義の理念といったものを語る社会主義者達である。・・・そして誰が運転するかの問題である。・・・不幸なことに——エコノミストである為には熟練と経験が必要だが、輝ける眼は必ずしも要しないということ——これを言うのを嫌われることを私は知っている。・・・更に政治家が有用な担保がある(die useful pawns sind)と認識することは危険である。

9 実行上の問題・・・尚、依拠している諸前提の下で続ける・・・見通しの悪さ・・・全体の仕事(die Leistung des Ganzen)が果てしなく込み入っており、難しく、超人的能力(superhuman Fähigkeit)が必要なこと、並びに有機体機構の中へ入らせることであり、並びにその中にある意欲ある労働者達に知性と道徳をある不可能なとも言える高さ(eine unmögliche Höhe der Intelligenz und moral)を要求する(知性の方は要求が少ない、それは事柄が指導者と被指導者の関係からより明瞭であるからであり、しかも商売敵やライバルとの間でチェスを演じることがないからである)・・・しかしストライキ実行者との間は・・・

α) このことはそうでない。・・・問題は全く単純である。例えば農業部門は鉄道、電力、機械、肥料等の産業と研究所を伴っている、そして帰するところ、ここにも他と同様の利害の闘争(der Kampf der Interessen)がある。我々が実行上の問題を語るのなら、それは正しく今(ja jetzt)である。農業はどこにおいても他の人々のコストによって生きている。・・・抵抗は？ だが例えば、それは家庭を破壊された！ところの資本主義である。しかしそれは時の成熟の下に全て可能であるだけである。・・・そしてここにおいても順応性(可鍛性)が？ (長期間に渡って?)・・・大きな要点はスコラ学的である、そのように例えば合理的シェーマ一般は「大きな異論」を添えられている。

β) だがその場合も尚ここで？ (あるいは「より良い」ところで?)・・・順応性(可鍛性)の問題——同じ人々が他の環境下で他のように機能するこ

とがあり得るか否か、を前もって問う。・・・彼のズボンに刻印された紋様を着用することの妥当性。・・・ゲーテが道徳的なだけではない、といったことは極めて価値多きものである。・・・

10 道徳性(Moralität)・・・道徳教育・・・事物の全体の半分の形成・・・過去についての博識・・・だが燃え上がった行動があるのでは？・・・必要である以上に長時間働かせるだけ・・・不正に手が加えられ、しかもとりわけ過激であることが確かな労働運動の文書の中で。・・・根がない(根拠がない)、無責任である・・・失業・・・失業はまた訓練のためのものである。a) 失業となり得る諸潮流に続いて、b) 目的とするもの、報酬以上に働かせる。・・・彼が欲したいと誘引され得る全てのことの教育・・・

11 労働の報酬はそれを充分に行うことの内にある喜びである。そしてその捩じれ(the distortion)は新しい道徳的世界なのではなくして、新しくして古くからの世界にとって正にそれだけ有害なものである。すなわち、個人的な「利益」(“Interesse”)の足場を生み出すということ。・・・

「官僚」、私はいつも驚いている、何故にその人々は彼等のシジフォスの苦難(ihrer Sisyhus toil)をかくもよく働くのかと、と。・・・

砂と金についての、そして鷺鳥と金の卵についての当惑・・・社会主義が行政を引き受ける・・・a) 冷笑、b) 承認——但し自己了解的に・・・他のトリック・・・強制のための全てのことを、そして19世紀のための全てのことを管理する。・・・失業と過大能力・・・より乏しい・・・臨時的と正常的・・・

全てが信じられない程に狭くなることも累進的に・・・2は100年遅れて、3は何か？・・・

大衆の規律化について、と他の働こうとする態度について、はどこで。インテリ共に由来する行論の幅について・・・彼等が煽動するところは社会主義の下でより少なくなるかどうか——はどこで。

12 親方の眼・・・金の鷺鳥・・・冷笑に替えて・・・

シェイクスピアの騎士達のように、正確には紳士が為すことではないことを互いに怒鳴り合う。(紳士と淑女は今となっては化粧台に向かったのみそうである。普遍化(Verallgemeinerung)による廃止。)・・・ズボンに付した紋様・・・尚、他の行論のためにする他の正義がある。・・・諸々の可能性だけが論じられよう。・・・実務家の論点・・・

社会主義・・・情緒的・民主主義者(sentimental-Demokrat)・・・同じ人々、諸習慣、他の文化・・・マックス・アドラー(Max Adler)——有権者に語るだけでなく、演出効果もまた。・・・労働者達による経営者の選出?・・・民主主義は先ずは一掃されなければならない!・・・上記に述べられたのは社会主義が自覚的にも一層もっと平和的であり得る、戦時様の意識(warlike mentality)に向かうような非合理的なものでなく作動することができる。

13 逆らって設せられることができることの全ては動機(motive)なる標題の下にもたらされる。ここでは、先ずその多くが——利潤動機と報酬動機の多くが——廃止されること、次いでそうなるのは完全成熟の場合に対応した場合のみであるということ、更に所得によるものではないような直接的諸利益(direkte Vorteile)により、並びにズボンに付した紋様のような実際上の利益によって置換されたものであることである。・・・構造的抑制・・・

機構が経済のお蔭(徳性)で人々(人民)を良くすることは必然的なものではないであろう。同様に利潤動機と所有制度が必須のものではなく、しかも既に重要性を実際に減じている、ことがある。ここでは、それについて尚、何事かが入ってくるということにつき指摘する。・・・ここでは更にその場合本来的にあるところのものは何か(was eigentlich besthet)、及びそれはまた選抜(淘汰)でもある(遺産 Erbschaft)、ということをして・・・

選抜(淘汰)と人々(人民)(だがその場合ここではこの全問題が、更に第2エッセイとの衝突が、更に社会化委員会については後述されることをここで)・・・動機を置き換えることの可能性・・・自由に対する文化的視点・・・それにしてもエネルギーの節約・弁護士についてはどこで・・・所得税・・・拘束された資本主義と傷ついた資本主義に対して格別に意味付けられるものは何か、恐らくは取り扱いが区別されよう。・・・

1 4 社会主義の感傷的人道主義(die sentimentale humanitarismus des Sozialismus)、社会主義は自己欺瞞させられる必要はないと。・・・優しさ(softness)を多とすることはない。・・・行政的管理の失敗、例えば戦時調達といったこと——その本質は誰が失敗を犯したかを特定できないところにある。・・・

1 5 適応(Adaptation)・・・ファーマー達と労働者達についてと併行している行論と倫理的水準についての行論の部分との境界線を緩めてはならない。・・・価値削奪と動機付けの図式の変更と他の諸条件の下でそれをつくる階層または人々の創出。・・・

馬鹿げた社会主義については後にする。・・・選抜(淘汰)——適性の保全(conservation of fit)、すなわち能力を求めて組み合わせ、そして最適の場合に適応させる。・・・更に重い他の諸問題がある、動機の図式といったもの。・・・ここでは、

1) プルードンの要約をエッセイⅢのところ(Proudhons le summe du Essay III)、・・・既に変えられている私的な王朝を目指したような諸目的は最早可能でない。

2) 傷つけられた他の正義・・・成功、仕事能力の認知(recognition of Arbeitsmöglichkeit)・・・ズボンに付した紋様・・・同志の召使い(commrade valet)・・・平均以上の価値豊かな労働力の保護・・・だが官僚制とそれによる経済・・・そして責任と監督・・・諸委員会・・・だが特殊な場合のみ、その場合大きな利益・・・そこにある偏差(諸グループに対する様々な居所)(deviations(localities für groups))・・・

1 6 彼等は自覚しているのかどうか？——彼等にとって不正直や個人的な諸利益が全く誠実に投げ棄てられるか、を・・・この虚偽の見せかけ・・・社会主義者達は道徳的困難を明らかにしない。しかもどれ程彼等の行論が他の側を攻撃することであるか。また「他の側」などはない、とはしない。・・・如何に不誠実に彼等が映じることか・・・更に彼等は道徳的批難の炎の中で訴える傍ら、きちっと見ている(anschauen)かどうか極めて疑わしい、ということ。・・・いつも独占を持とうと求めている

る。・・・だがそれは反社会主義者が正に誠実だということではない。・・・
何故に規律？・・・賛同に対する価値の喪失と自由な賛同も今やない——
禁止をみよ・・・飢餓暴動は特別の現象である・・・あらゆるグループを
締め上げる政策・・・

17 社会主義の下では全ての事柄がどのようにより軽く、なのか——私
的生活もまた、どのように事物が整えられることができ得るのだろうか。
私は「集団住宅」を考える、そこでは人々は相対しながら(*gegenseitig*)奉
仕を給付し合い、且つ落ち着きをももつように！(*man auch Ruhe haben*)
といった如く、全てが配列されることができ得るのでは。・・・とりわけ今
日の私的住宅の下では、紛糾の源泉であるものが然るべくあり、しかもそ
れに慣習から——誰もが信じていないような「理想的諸根拠」(*idealen*
Gründen)から——固く縛られている。・・・道徳的・文化的諸理念と生活
諸形態を衝突させる場である状態における私的生活は半ばスポイルされ
ている——a) 日々の不愉快(*Unannehmlichkeiten*)により、b) 防ぎ得
ない諸活動(所得税、他の課税等)により。・・・

しかしながら、他の点では社会主義と非社会主義は最早真正の対立(*die*
wahren Gegensätze)ではない。対立は消費者の社会(それに18世紀の諸
理念)と常にはっきりと自己宣言をなしている新社会との間にある対立で
ある。・・・私はラーナーとの間におけるよりはハイエクとの間において
少なからざる距離をもっている。

ルーズベルトの四つの自由は獄中において可能である。・・・奴隷達の自
由理念・・・

18 どこで人々は満足しているのか？ パウロのノックを比較せ
よ・・・卿の日が開かれた——彼等は眠っている。・・・私的な富、それ
に王朝、それに一族などはない。・・・機能と刺激のためのもの・・・文
化的諸条件、中世における現代的な管理・・・社会主義はそれが絶えず防衛
され比較されるような一般的概念ではないことの理由がそれである。・・・
そうすることは意味がない。・・・それからの推論にも意味がない。・・・
冷笑による行論・・・またもや二点が、企業者の刺激と労働者の順応
(*Stimulus des Unternehmer, Einfügen der Arbeiter*)・・・なされるべき

義務・・・

19 ある完全な光の下に、社会は社会主義に向かって作動している。だが諸目的の外にある。・・・反対にランゲは、これとは離れて、経済のある一定の諸法則は、実際、全く論理であるとする。・・・経済は論理のマトリックス(matrix der Logik)である。・・・何が区別されるのか、選抜(淘汰)(Auslese)、収益の配分(Verteilung der Ertrage)、目的(Ziel)、方法における区別。・・・

20 それ以上に今一つの局面がある。多くの諸理由の中で、我々は次のことを期待しなければならない。すなわち、超正常者達(the “supernomals”)は役割を果たすこと条件付けとして選好的な取扱い(preferential treatment)を要求するであろう。単に彼等の事情であるだけではないのであって、余人をもって替え難い、という一事があるのである。そうした取扱いを挟むことで、彼等は自分達の仕事に対し適性を保つことを許容されているのだ、と要求することになるだろう。殆どの場合において、超正常的に価値多き業績は要求されるものが、単に「天分(“the gift”)」だけでなく、集中できること、その超越した生活諸条件の中で納得してその仕事を成功裡に進めることができるほどに、精力を使い切らせることによっても成し遂げられる。

21 ここではまた力量の問題(die Frage der competence)をもできる限り扱う。・・・
なんと有用な馬鹿なのであろうか、彼等は！・・・私はひょっとすると不平等について関説するべきであったのでは？ ブルジョワジーと下層階級の間の不平等、及びブルジョワジー内部での不平等・・・

22 どれ程に能力が必要か！ 社会主義はその量を軽くする、産業人は

雄弁家では決してない、ということが重要である。・・・1) 経済的に選択する、2) 適応——本来移行に属する、なるほど、だが規律といったものの問題は？・・・そして理想主義・・・3) 能率のための諸条件、それは心理学的側面に属する。・・・

23 もし社会主義者が標準以下の者——酔っ払い運転手——と闘うのならば、彼等が短距離を走るかのようにそうすることを控えるだろう、ということを読み出しはしない。・・・賢明性の問題は破壊されるべきではない、そして誠実性の問題は・・・

24 眼前に抱えている課題の定式化・・・先ずは一個の特殊な問題であることを指摘する。・・・

その仕事に根を下ろしている階層を・・・選抜と成果の間の区別・・・だがそれほどには大きくはないという異論に晒されている——指導者達がモンモレンシィ達(Montmorency・・・レジームに対する忠臣)であったとすると。・・・「二つの階層」・・・最良の頭脳がより高い効用をもたらすとはできないのだ、となす行論。・・・

25 破局は明らかである——現在の二者択一が継承されていく限りは——しかしそれが必須のものという程のものではない。・・・選出があつて規律がなければ、崩壊(Zusammenbruch)。・・・我々の構図は、それ故に一つの特異な社会主義のそれにとどまるのではなくして、民主主義との関連においても甚だ疑問なところがあるということ。・・・「ありうる」(can be)は——常に単にできるである。・・・未だ移行になっていない。・・・
a) 良き意志を保持している、b) 諸習慣(habits)、圧力を意味している。・・・社会主義者達と政治家達にとっては全くの喜び・・・命令を与えることをパスする者は誰もいない。・・・労働者の全体が審問下で働く。・・・競走馬(race horse)や懸賞牛(prize bull)のように、より合理的である。・・・社会的資産・・・上層階層は社会主義の下では一層効果的である・・・価値あるストックの問題・・・諸習慣と合理的変化・・・更に

そこでは喫煙といったことについても・・・変化の内、ある種のものが消し去られたことは既に述べた。・・・しかし何がなされたであろうかは既に述べてある。

26 選抜(淘汰)——資格の諸要件(Qualifikationslisten)・・・

地方的及び集团的利益は排除されない！・・・それについてはⅢ－1で示されよう・・・更にそれに加えて比較におけるそれに回帰し(検討されよう)。・・・これらの地理的といったものの諸困難は、多くの制度的なものが資本主義だけに内在するものではない、ということを示している。・・・もっともそれは至るところで所得の均等をはかることで排除され得よう。更にまた個別産業の自主性が正確に合理的になされる、という「大胆な仮定」を受け入れるのならば。・・・また個別産業の経営者達が既に決まっているのならば。・・・そしてそこでは一個の「トラスト」の内にある諸々の事柄の如くであることを超えたものとなる。・・・しかしそれでも利潤は単純にそうであり、経営者達は指導者をリタイアするべき馬鹿者であると示すことになる。・・・ロスバッハ(Rossbach)・・・少なすぎる規律という意味で(?)ではなく、18世紀を比較している・・・あるいはそれは民主主義では？・・・動機に即してもフランス共和国は将軍達を射止め、スターリンは経営者達を射止めた。・・・

スタハーノフ(Stahanov)は志気の改良——労働者と鼓舞(moral Reformation——Arbeiter und Begeisterung)があり得るということを示した。・・・

27 所得の不平等・・・不平等性についてはどこかで扱うにしても、ここではないのが妥当にみえる。——より高い所得とは各種の料金報酬をもち続けることである、というのが私の考えである。その上に当然のことながら老人や子供に対する手当てがあり、更にそのようにして資本主義的百万長者は5万ドルの実効購買力を手元においており、しかもその多くは隠されている。・・・それは幅広く様々であるだろう、とりわけ隠された差が大きい。・・・しかし社会主義者達は(これに)大いに不同意である。グスタフ・ステファン(Gustav Stefan)は、とりわけ購買力については1万ドル以上で充分であるとなした。社会主義者はこの点については何かはつき

りしないものがある。はっきり言えば各人が自分の所得については特殊であるとなしている。そこここで更に表明されている「経験」の中には現物給付を以てするトリック(trick mit Naturalia)がある。というのは現代の国家はそのトリックを社会主義の指導者について教えている。この他にも私的支出ではないかとされるものがある。代表！それが人民委員ならば、彼はそれで充分なのである。

28 等しく根拠を語らなければならないであろうと同じ程に、注意を払うことは非合理であろう。・・・だが社会主義を構成する原則を揺るがすといったことなしにこのことが完全に可能だ、ということがその要点である。・・・

全くの工夫によって覆う。・・・クラブ原理(club principle)、最早家々が荘重に確保されている必要はない。それはそうは言っても既に修正である。・・・権威の欠如を以てする支配は関心を緩める。・・・勲章(Auszeichnung)の経済的価値を非合理的なものとみることは、そうしないと、極めて高コストとなるだろうことを我々は習慣付けられている。・・・

29 社会主義を分類しようとする一つの試み、何故なら挫折が社会主義者達を発生させる(Zusammenbrüche Sozialisten entstehen!)のだから。・・・それは諸根拠に即した分類となるのでは。・・・諸段階に即した、諸理念に即した、それを始めた人々に即した分類も。・・・

処方箋は、というなれば孤立主義者達は冷笑する。・・・老婦人の平和主義——その社会主義的立場は何であったのか。・・・

規律は自己の欠点に対する支払いの作用に属する(Die Disziplin Wirkung des Bezahlens für eigene Fehler gehört.)、しかし資産の諸メリットについての議論に対しては——ここでもまた——明らかに重要な事柄についての冷笑がある。・・・社会主義ではより少ない節約がより大な能率となるのでは。・・・それは正しい。・・・しかしより少ない損失は。・・・

比較のためには恐らくは不平等性もまた属しよう。・・・いずれの場合も、資本主義の下では貯蓄が資本形成を阻害するという理論、並びに自由な職業選択ができ得る限りの浪費を意味するという理論がある。・・・今日の資本主義の下では正にそうである。・・・

スウェーデンとその社会主義とその非移転性・・・求められている支出問題・・・

30 指導する者と指導される者の間にある不平等は同じものである、そして大衆はこの関連では社会主義に対し前もってそれがそもそも何事であるだろうか？をわきまえていない。社会的重要性をもち、資格のある——それにふさわしいような——仕事(qualifizierte Arbeit)をなす——それは僅かな者達でしかあり得ないであろう。・・・更にそれを今日では、貧困である場合、誰にももち得ない、と述べることは欺きである——欺きは政策にもあり、ビジネスにおいてすらある。・・・そうは言っても、社会主義的選抜(淘汰)が更に、より速やかに、しかも純粋に人物的に、作用することは確かである——しかしそれは本質的には如何なる区別をつくるものでもなく、しかも如何なる正味の利点となるものではない。・・・更に民主主義的指導は「制御」される——だがそれもまた重要でない。・・・ズボンに付した紋様・・・

31 製造品を開発するという一つの機能・・・資本主義では隠されて行われるものである！そして瞞着(disapproved)・・・罰・・・監督者の選出といったことについて、移行のところか、エッセイVで・・・

32 比較に際して、方程式を解くことはより容易なことだ、と既に述べた。・・・三段階、競争に即した静態的過程、分配における静態的過程、変革？・・・形式的な理論から何がもたらされるのか。・・・

ここでもまた現存の装置を管理すること。・・・

競争的社会主義の精神(spirit of competitive socialism)についての指摘・・・移行についての指摘・・・

委員会業務及び議会諮問会議(科学と政策についての指摘) 対 官僚業務(内閣組織と所属部課の指揮者)についての比較。・・・問題としては、部分的にチームワークとしての個々の仕事の調整の問題があるだけであり、そしてその場合、金銭的(pecuniary)オリエンテーション 対 非金銭的オ

リエンテーションの問題と責任の問題がある。この問題は今も存在し、部分的には個人的な金銭的動機の問題だけであるが、課題の知られざる領域でもある。・・・大規模事業体・・・個人的要素は排除されない。・・・民主主義が真面目に取り組み、全てに口出しをするととなると、再び他の問題が生じてくる！・・・成功と失敗のパフォーマンス・・・その場合、民主主義に即した選抜(淘汰)(Auslese bei Demokratie)が？・・・消費者の利益はどのように配慮されるのか？・・・

3 3 社会の社会主義的な構造の中で、このことは——良かれ悪しかれ——存在するだろうと信じるべき根拠は何もない、ということに注意しておこう。——一介の医師であり技術者として、成功によって自分の野心の盃を満たそうと思っている医師や技術者は、その際立ったタイプの人物であり、そしてその際立った利益の型をもつものである、と言えるであろう。・・・祖国の制度を作動し、または改革することを意味するそうした医師や技術者は、尚、今一つのタイプであり、そして利益の今一つの型をもつのではないか。・・・第二に、政治的構造の研究者達は、いつも、大にして複雑した社会にあっては民主主義の行政的効率 (the administrative efficiency) を取り扱って疑問を感じてきた。とりわけ、それは論じられたところ・・・

3 4 どのように委員会は作動するのか——全ての委員が論議にくちばしを入れ、だから専門家は何もなすことができない、ということが重要である。しかし尚、次のことも。彼は自分が意図したことをなし、他人の雄弁をば語るに任せること。・・・(同志諸君、失礼)・・・事情を設定するため、1時間の時をかけることを、正に私自身に許そうと思う。・・・

このことは人間の社会的性質の順応性(可鍛性)についての多くの論ぜられてきた疑問を処理しているようにみえる。だがストップ。それはそうではない。実際に人間の性情(human nature)なるものは資本主義によって既に造型されてしまっている、ということ——信頼に値するものとして——我々の結論は想定している、のは明白である。官僚制的な仕事は——誰に対しても、いつでも、どこにおいても——可能なのではない。それは適応を要求する。ここに適応とは、人々の内、十分な数が生活や仕事に対す

る態度において、官僚制的な仕事が意味しているところのものを理解して、しかも好む、ということである。・・・(アメリカでは困難)・・・そこでもし問題となる頭脳達が全て「社会主義と闘う」ことを情熱的に決意されていた——50年前にそうであったように——となると、更にもしブルジョワジーの(経済的「独立」の上に基礎をおいた私的領域である)家族動機(the family motivation)が生来のままであったとすると、事物は恐らく作動しないであろう——それこそ何故にボルシェヴィズムが彼等を粛清し去ったかの理由である。こうした疑問が全て同じようにおこる。

現実には二つの質問がある。ビヘイビアは——変更されつつある価値に対する好みがなくとも——様々に条件付けが行われていくことによって変えられることができる。・・・同じような人物であっても、家族や財産上の諸利益をもたない人は異なって行動するであろう。更に諸見解やそれと結合した諸価値観は、それ自体が如何様のものであっても変えられ得る。(司法制度、愛国主義、名士達(?)(great curves)——私は彼が売春婦のところで殴られたことを不名誉であるとは考えるが、罪に落そうとは欲しなかった)。尚、他の事例がある。[国民感情はそれを容易ならしめる(national sentiment macht das leichter.)——重要な契機!——]。・・・

作動可能性だけのことならば、それ以上の変化は必要としない! 更に彼等の価値への好みは(そしてこの理由に由来する諸価値と諸標準の構図も)変化しうるのである。・・・

注釈 1) 社会主義者も反社会主義者も、ここでは同じやり方で彼等の先入観の棍棒をもって闘うのであって、論議は意味をもたない、とは言えない。2) その時代が必要とした全ては多分に流儀に依存するということ。3)このようにして、問題は更に一層の変化をなすだけのことであること。・・・

そこから学ぶべきである! 建設的となることができるのではないか! 長引けば長引くほど改善される! 恐らく結論も。・・・
不平等についてはどこで。・・・そしてここでは官僚制と私的イニシャティブと所有制度についてのみ。・・・分野、被覆、教説の喪失・・・社会主義は多くの道徳的価値を破壊する。・・・そこで次のような帰結へ、1)より良いかどうか、2)どこまで民主主義的に。・・・

35 神々と天使達・・・

しかし、可能性が利用され尽くされるという保証は全くなされないのでは

る、しかもその上、他の偏りをももっている。・・・資本主義の優越が基礎付けられるところのもの、動機と領域の鋭さ、理想を達成するためのより大なる軽快性、それに運転する人々のより良き質——それらは選抜(淘汰)があることから直接的にもたらされる(auf Schärfe der Motive und Sphäre und auf grössere Leichtigkeit, das Ideal zu erreichen und auf bessere Qualität der Leute who run—kann direkt gezeugt werden durch selection)。・・・正に選抜(淘汰)・・・困難ならしめられるのは民主主義的修辭だけである。・・・怠惰な金持ちもまた労働者である！！・・・私の喫煙と共にあるそれは何なのか？・・・食事の変更は致命的である——ここでも歴史的舞台が全く無視されてはならない。・・・尚また導入を伴って・・・導入の困難は後でもくる。・・・

36 誰もが如何にして自分が成功するかについての機会を打診する——あらゆる経済的契約を取り結んでいる愛すべき詩人の道化のように。・・・そして我々は全てそうである。・・・決してこのことを認知しない。・・・そして彼のちっぽけなゲームを演じる。・・・単純に頭脳の問題ではない。・・・この考えを採らしめよ。・・・

上層諸階層は他の階層とも同様にこの点を諒としなければならない。・・・しかし可能性は与えられている(貯蓄の機能といったものを引き受けることによって)・・・

巧い表現の中に大きな事柄を・・・資本主義社会においてのみそうだという異論にちなんで(例えば生活に対しては面倒がみられているので、更に諸根拠が見究められた場合、それを安閑としてみておれない、ということには彼は決して至らないので、という)

37 今やここにおいて、何がより容易になるのか。・・・a) 経済政策、それに節約といったことに向けての全体に対する態度、b) 忠誠心、並びにそれが規律を良化させ、仕事に対する健康的な態度をもたらす。・・・上位階層・・・価値・・・

節約の機能は良き意志があるか否かによっている——ここではボルシェヴィズムが意識される。・・・三つの場合に光を・・・「・・・であることができる」——いつも「できる」となるだけ・・・その場合は拘束された

資本家のケースである。・・・二つの点で逃げ去っている。・・・
指導者は社会主義では一層に自由である。だが官僚制は・・・適応的バ
ランス感覚・・・ナイーブな信念・・・何が国家であるかは留保するとして・・・

38 我々の委員会・・・事態ははっきりしている、貯蓄について、それ
が刺激の必要という点で災厄であり悪であると聞かせることは無意味で
はないだろう、ということ。・・・工場指導者の選出といったことについ
ては、ここでか、またはIVで・・・

39 具体的方法であるかどうか、それを見よ。・・・貯蓄を見よ。・・・
資本の保全は社会主義の下でも必要である。

40 貯蓄は多分3で？・・・あるいはもっと以前に——一つの制限的効
果として？・・・リカードの利潤？・・・

41 私は改善のための諸手段と基金の必要性を呼び起こす方法につい
て、既に何事かを述べてきたのだが。・・・

42 社会主義Ⅲ. 規律(Disziplin)・・・
規律は資本主義では必要である。社会主義ではどこまで必要か——部分的
には集団活動に回帰する。標準以下の者達(subnormal)の故のみではなく、
単純に協調された行動をもたらすためにである。誰もが思い通りに生産で
きるわけではなく、しかも単純に得心され得るものでもない。・・・
自己規律(Selbstdisziplin)は教え込まれる。・・・しかし何故に「規律」を
必要とするところが(社会主義の下では・・・編者)より少ないのかには根
拠がある。・・・

過去のものとなったもの(but gone)、単なる臣従(mere allegiance)、敵意ある状態、怠業すること(erlaubt)とスローダウン、誰もがとがめだてしないし、依拠する利益は依拠できないものだとしさえする、働くことに反対するという人を設しさえする、ということ。・・・自己利益(eigene Interesse)のようなものは、何も残されてはいない。とりわけ拘束された資本主義にあっては。・・・行使する権力は濫用する権力である。・・・そして社会主義は規律を回復することができ、しかも腐敗した人物(tainted man)である資本家、搾取者、よりもより良い位置に就くことができる。

4 3 最後に、経済的エンジンの効率的な運転と、商業的社会が事業体の経営者達に与えている被雇用者に君臨する権威、との間に存続し続けるべく保たれている関係がある。我々が考察に赴こうとしている権威の唯一種は、対応する用語、服従または規律、によって効率的に示される。・・・方法を特色づけるもの、直接的に私的利益に応じたものだという事・・・鋭い差がある。・・・

自己規律——意見による誘引規律(inducement discipline)との区別が必要、だが極めて様々である。要するに搾取するための権力ではないのか？ 回答、働かざる者は食わせない(wer nicht arbeitet, wirt nicht essen)——だがそれ程に単純でない——現実に働こうとしない者は、帰ってくるな。・・・個々の計画が極めて様々に異なった規律を必要とすることは明らかである。・・・

4 4 だがそれは労働者に即しただけのことではない。今一つの論点がある。総じて進歩に対するもので、しかも決定的なものとなることが大いにあり得る。社会主義では客観的に明白である。・・・

ここには尚、権威といった何ものかがある。・・・それは重大且つ決定的な利点を意味する。a) 政策、b) 行動についての判断、c) 労働者と知識人に対する良き規律、等に対して。・・・今や言うべきことは多くはない。・・・仕事に赴くことをぶち壊さない。・・・より健康的な態度・・・ストライキには支持がない。・・・

明らかに非常に大きな利益がある。・・・その場合、社会主義的公共機構(Gemeinwesen)は他にして同じならばそうした知識はもっていよう。しか

し極めて多くの権威がその人物に形づくられることになる、企業者による父系の組織。・・・

権威と規律・・・それは拘束された資本主義において致命的である、ストライキなどはその道徳的不信認であり、働くことから防止することへの忠誠である。・・・恐らく規律を回復することが唯一の手段となろう、革命の一形態でもある。・・・

民主主義と知識人の支配について、だが5. とは衝突しない。・・・上層
1) IIとの比較、2) 諸能率と諸課税、3) 機械化・・・「可能性」のみ・・・特殊なケース・・・

45 集団規律・・・要するに、本来、資本主義的図式の外側にある。・・・有効性は誘引に依存する。・・・資本主義のブループリントの中にはないというところに興味がある。・・・

決定に関する従属——命令に服従——、仕事の標準——監督と批判——に関する従属・・・自己規律であるところのものは部分的には訓練の結果であるところに困難がある。・・・それは能率に即している。・・・契約は服従を意味する。・・・

契約一般も特殊な誘引も出来高払いの作業には充分ではない。・・・強く無視する・・・優越性の認知・・・働こうとする意志がないのならば、食うために闘う何物もない。・・・諸々のチャンスだけがある、そしてそれ程には知られていない。・・・阻害的意味でのその家族的類似性に対しては。・・・そして民主主義的？・・・諸々の偏り？・・・

搾取についてのノート・・・規律の回復はより大きな利益・・・社会主義下のストライキ参加者は眼に見えて社会を攻撃している。軍隊のサボタージュや敵前逃亡のように。・・・ストライキの寓話？・・・理由——明瞭性、忠誠心、働くことへの健康な態度。・・・我々がそれを好むか好まないかは、それに埋め込まれている程度による。・・・

46 こういったものがない場合には、他の規律や手段の必要がある。規律に反対するものとして a) ルッソーの強調 b) 煽動者の利益がある。・・・

社会はより少ない道徳と知性を要求する。・・・スタミナ・・・順応性(可

鍛性)に至る前に他の環境の下での他の態度が来る。・・・

47 規律と濫用・・・親方の眼・・・二つの事柄、搾取と規律・・・極限にまで働く。・・・

諸態度、階級的利害以外の他の何物でもあり得ない・・・どんな目配せもない。・・・栄光を創出するものでなく、階級闘争をダウンさせる。・・・だが規律の必要、監督の必要も・・・

48 自己規律・・・そして我々は自己規律を区分する(その場合率直性が、そこで)・・・従順を強いる・・・そのように異なって必要という事実・・・搾取と規律・・・

49 規律のビジネス——教育・・・二つの区分、資本主義にあってはガイダンスと規律が必要であり、且つ配列が有効である。・・・社会主義にあっては必要ではないという答弁は、ここで?・・・応答・・・トレーニング・・・しかし対立が・・・だが過ぎ去ったもの・・・より大なる利益・・・

50 不適切なトレーニング——ここで扱うのがより良い。・・・違反には豚飼(Schweinehirt)・・・実践的批判・・・人物、タイプ、所属、制度・・・様式といったものに対して含蓄された批判、だがテキストによって拮がっていく。

51 労働者の直接的利益が問責されている。規律の経済学、忠誠の了解、限界状態では優越は自明のこととなること・・・そして知識人達には・・・動機——権力・・・搾取——規律・・・働くことの喜び、働くことへの健康的な態度、諸君はそれを望むのか・・・

ストライキを闘わないことの善・・・それが体制というものか・・・社会主義のもつ最大のサービスは規律の回復である——だがそうであり得るのか。・・・よろしい・・・それが自己規律と集団規律である。・・・忠誠(知識)は自己規律に導く、そしてその場合——今日では行われ得ないような——善であるところのものが尚重要である場においてエネルギーを支持する。(allegiance (knowledge) lead to self discipline und self discipline dann supports Energie wo noch wichtig was good, heute nicht machen kann.)・・・

そしてその改善が弁護される場合、我々がインテリ婦人にそれをなすということを導きはしない。・・・

5 2 社会主義が自己規律に対置して更に多くの規律を必要とする、という結論に私は至るべきではないであろう——明らかにそれは洞察の結果と衝突する。・・・行論が社会主義に対するものである限り、何の規律も必要とされないとなすところだが、結果的に(*ipso facto*)、規律が必要となった場合も、それらはより軽からしめられたものとなるだろう。・・・規律の全体はより多くが必要とされる、しかし要求される「規律」はより少ない、あるいは規律されるべき要素が消失する。・・・規律のための必要性は集団活動と経済の多角化した利害の主張と他のもの(地方的なものと節約)から導かれる。・・・向上しつつある社会主義(*up-lifting socialism*)・・・

5 3 過度にならないように・・・搾取について語る事・・・怠業(*Sabotage*)について相互に責め立てること・・・生産過程を傷つけるものであるような価格操作・・・

職長に権威がないことと規律についての善意の報告(*die wohlmeinden Berichte*)についても・・・それに対する責任・・・

直接的に傷つけられる殆どのが大企業であるならば、傷つけることは殆ど全て是認される。・・・資産家の利益・・・公的権威による支持はない。・・・

労働者を預言者にまで仕立てあげる。・・・義務についての冷笑・・・税金泥棒であることに悦に入っている。・・・更に良き仕事の中にあるどんなプライドも取らない。・・・

社会的義務を強調する。・・・

5 4 規律は遠く過ぎ去った。・・・義務は冷笑の対象である、しかも全ては怠業者を支持する党を受け入れている、しかも大企業の不規則な買い付けを喜んでいる。

5 5 ストライキの良き支持、働くことの喜びをスポイルする。・・・私的利益の背後には社会的利益があるということ。

5 6 規律がストライキを回復させる。・・・更に優しさによる組織解体が恐らく——帰するところ自分が意図していることを知るものは誰もいない。・・・
仕事に対する態度・・・平等主義者によってスポイルされている。・・・
慣例(practice)は仕事を悲しみとしてみるよう教えている。・・・

5 7 商業的社会が産業の経営に依ってきた権威は、彼の事業にある人材を指導すること、監督すること、訓練することの機能を意味する。・・・ここで規律の機能とその行使力は非合理的な盲従という他の決定において濫用される力を含む。・・・規律の経済・・・それは尚もっと難しい。・・・それでは他の決定とは、動機と権力。・・・そこで歴史的例証を、そしてそのようにして・・・
それが資本主義のケースと比較されること・・・現代の、特に拘束された資本主義におけるところまでいく。・・・専制君主は去った、雇われた職長(foreman)は、この間、彼が譲歩するならば果てしなく紛争が続く、ということをおぼえている。・・・会社役員、肩たたき、社会不安の中に賦与された利益。・・・社会主義だけが回復できる社会的規律・・・そしてそれは潜在的にもてる長所(Vorteil der Potenz)を引き出すが、その最大のものは、中でも、a) 理解(Verständnis)、b) 人々(知識人達と労働指

導者達)の利益である。・・・如何にしてももたらされないもの・・・ストライキ・・・階級闘争・・・

58 社会主義。各人誰もが、誰かにそうするよう励まされたり、進行指示灯に従わせられたり、することなしに、自由な意図と意志に由来して、自分の課題を充たしていること、そのように行動するのを見守ることを理想とする。・・・だが、それがそうでないという論証。・・・ソシュール(Saussure)によればモデル人間に寸法を合わせるが必要な要請だという。だがそれは標準以下の者の問題であるだけではない——働いている時の問題である。・・・再度、規律は資本主義において必要——信じられるべき根拠であるもの、それは社会主義においても。・・・規律とは何か?・・・命令に従うこと、更に自己刺激として仕事をなすこと? または自己履行(Eigenleistung)?・・・そしてブルジョワジー、彼等は自分自身を信じない(II)、更にウォールストリートの編集者達、彼等は社会主義者である。・・・

何よりも先ず、規律は資本主義では必須である。・・・支配者の文化。・・・だが経済生活の中で規律の必要性は極めて大である。我々はでき得る限りその誘引を見究める。・・・(?)・・・どんな配分にあっても地域的及び集団的な「圧力」はあるだろうし、消費者にも同じものがある。双方はさておき、ここでは必要性に還元すると、残されるのは多分に自己規律である。しかしそれは教育の結果であり、教説することの帰結である。

59 資本主義にあっては、全てに対する懲罰がある。・・・行動を見守り、理由をつける。・・・

正常な人物にして、自分が公正な要請を充たすことを行うための準備がない時、尚、準犯罪的だというような行論はない。・・・よく操縦されているグループはよく自らを規律するが、そうは言ってもリーダーシップと教育の所産である。・・・

秩序そのものは善意の下でも必要である、一個のクラブにおけると同じ。・・・指導型の社会(guiding society)・・・拍車をかける・・・単なる諸命令か、または監督と規律を伴っているか・・・

権威と搾取・・・どんな社会にあってもそのための用意がある。・・・権

威は搾取に資する権力であり、規律に資する権力である。・・・動機と権力・・・私的利益と権力そのもの・・・

負け犬に対する同情・・・人間の尊厳(Menschenwürde)と自由意志についての章句・・・社会主義に対するベルグマンの行論・・・そこではとりわけ現代資本主義と拘束された資本主義に反対している。・・・単純にその場限りの反作用ではないようなどんな作用もが規律を修復する。・・・

60 搾取を駆り立てる・・・知識人達と社会主義は本来どこで・・・

61 民主主義的計画策定——私はその態度を強調するべきではない。・・・社会を搾取することを民主主義的に決定することができるのだ、ということ私はそれは怪しいと思っていないのだが。

62 機構が作動において適正ならしめられていると想定せよ。それでもその良好さは、不満足な労働者の非難からその機構を免れさせることができるような、更にはその機構に手柄——適正性を最上にまでさせる、そのようにして成果を歴史的にユニークであるとさせるほどに一過性にのみ利用可能とさせるような例外的諸状況をも手中に得さしめる、そのような手柄——の全てをも与えさせる諸環境に依存するのが尚いつものことなのである。・・・事態を解明するものは、良き機構ではなくして、その下に機構が作動する臨時的な諸事情だ、ということはあるのである。・・・「自由貿易に帰させる」。・・・自由、共和国、新開国・・・これらは尚、数量的指標をもって行われるべきことが甚だ多い。・・・しかしこれらの諸条件は常に尚与えられたものである！・・・

一般的忠誠という意味では——病的な諸々の場合を除けば——あるのは民主主義だけである。・・・自由の設定と動機付け・・・

私は、13. /VI (6月13日・・・編者)はでき得る限り社会主義に集中し、第I章から始めようと決心している、ここではこの分野に、1. /VII迄作業する。但し私が他のどこかでその意味をもった時には更に論を發展させることがあり得ないとは言えない。・・・そして気分は、私はそれ

を更に発展させることもできないし、意図もないかの如くである。

6 3 そこで歴史的検閲(Berichtigung)・・・事例といったものに即した権威・・・それはそれを与えられないような人々の理念には作用しないであろうが、機構の経済的合理性や諸機能には影響を及ぼし得る。・・・動機と便宜・・・教師は両親を見出した時働くのを止める(Teacher ceases to work wenn find parent.)。・・・権力の濫用・・・巨大な損失・・・あらゆる「不正」が阻止されることができれば、その機構は切り取られる(Wenn jedes “Unrecht” verhindert werden kann, ist die Maschine clipped)。・・・心理的罰、他の罰、解雇の脅迫・・・
仕事を良く行うことの内にあるプライドと喜び——私流のプライド。・・・
心理的健康の挫折、それは働く人にとって恐ろしいことである。標準を冷笑することは恐怖の紛争の一徴候である。・・・生活の標準とは何であるか。・・・

6 4 どのように賞罰があるのか——そして解雇の武器は十分に効果が
大である。・・・ギャング的方法も消え去っていない。・・・その正に同じ
諸要素があり、しかも公的公開性が充分でない限りにおいて、彼等のつくり出したものは今一つの規律という諸用具を行使することをより容易ならしめる。・・・良き態度の変化・・・更に可能性だけを語っている知識人達に対しても——諸々の逸脱——ローカルな諸利益・・・地理的なトラブルには、決定的な利点がある。・・・全ての統治は相互に無責任なおしやべりを競い合うことである——不人気——民主主義的な狭さ(demokratischer Enge)。・・・本質は、ランゲのそれに対する行論。・・・

6 5 社会主義にあっても尚、逸脱への責任が——官僚制。・・・地域間と産業間のライバル性——あるいはその間での合意・・・顔面に陶醉が。・・・地域性——それに対するものは他の集権主義を伴った一つの集権主義があるだけである。・・・寓話・・・

66 「官吏階級」・・・国家は創造しない。・・・不確実性・・・どこにも無駄という意味での釣り合うものがない。・・・赤軍の同志達——煽動車の国家・・・資本の破壊についての言及がない。・・・セクト間の利益対立。・・・

(6) 移行過程——社会化——

摘要

移行の問題は先行の資本主義の発展の段階に相対的である。そうした段階は成功裡の作動がこれに依存する経済的・行政管理的・心理的諸条件の複合体として与えられるものであり、上記の相対性に対応して成熟と未成熟に区分される。成熟の場合、経済は利子率がゼロに向かっている程に資本をもって飽和されており、いくらかの少数大企業により、統御されている程に集中化されており、官僚制的自動化の問題と云ってよい程に進行が機械的であり、その上に社会化の雰囲気は「時は未だ来ていない」と告げることが道徳的不誠実と同義語とみられる程にもなっている。そうであっても資本主義が自分で社会化に赴くことはないのであり、特別の政治的行動がなされてそうなる筈のものである。知覚し得るべき諸抵抗やその他の諸困難なしにそうした行動を眼に浮かべることはできないのであるが、だからと言って——例えば——ファーマーとペザントあるいは小規模事業の幾つかを社会化から見逃してやるといった方法を講じることでは乗り越えられない程の由々しきをもったものではない。収容をなさんがための立法的処置は比較的簡単な事柄で、道徳的挫折は最小限に抑えられよう。未成熟の場合、先走り過ぎた社会化に対する悲劇的ジレンマというべきものがある。通常未成熟な全社会化は革命として讃えられるが、革命とは挫折または混乱の特異なケースなのである。ここでは資本家達が尚も一定の機能を果たしており、他の有効にその機能を果たすべき機関はない。それ故に彼等のバイタリティは尚傷つけられておらず、彼等に対する悪しき侵略に対しては闘争なしには屈服しえないこととなる。他の側では、そうした状況下での全社会化はリーダーとしての社会主義的知識人の集団利益となる。権力掌握後の且つ資本家から収容されたこれまでの諸機構や諸装置の受領後の彼等にとっては、監督下の強制経済以外の他の事をなすことは不可能なのである。このケースにおいて移行の実質問題は由々しき問題となる。諸抵抗と仕事の諸困難の量が未成熟性の程度を示す尺度となる。そこで血塗られた意味での革命が避け得ないものとなり、妨害者の他の世界への追放乃至は受牢がなされ、権威による規律の目一杯の行使がある。しかしこの状況は、その中に機械化された産業組織が創り出される限り、人間性情の内部にある適応の習慣を形成することで成熟した存在へと徐々に変化していくものである。・・・その他（編者）

Ⅲ—(6)—1～19

移行過程——社会化——

1 移行上の問題は二重に取り上げられる。移行期間の政策と移行がなされた時の政策——革命に向けた政策、・・・そこで(5)・・・後の修正のための重要な方向・・・

1 完全成熟の場合・・・スウェーデン型社会主義もまた含まれる。・・・

2 未成熟の場合、最初に状況の記述、次いでインフレーションとそれに恐らくは赤軍・・・年に半ダースの殺人・・・更に次いで社会化、原理的な問題とは離れて一撃(one stroke)について、更にここにおいても尚、それぞれのディテールについては細心に、とりわけ大衆制御と組織化の必要性、ソビエトについては。・・・ソビエト形態・・・唯一の可能性、赤軍・・・一撃については政治的契機とその他の契機を峻別すること。

3 そこで何時成熟になるのか、は批判がある。但し量的に規定されないということ、抵抗がどれ程に多いか、大規模産業はどのようであるか。・・・更にこの問題では勇気と責任の問題が結びつく。

4 しかし、何も起こらないこともあり得る。——そう、社会主義を採用する以前の移行政策、他の意味での移行と移行政策。社会主義へ向かっての移行であると意図される必要はない。・・・偉大なる前進が意図される目的なしになされてきた。・・・ドイツの国家社会主義(Etatisums)、カーネギー(小売業界へ参入)はある段階とある世界を教え、社会主義においても利用可能な組織を同時につくり出した。如何に社会主義と違うところが少ないかをみよ——スウェーデンのカルル6世の「私的所有は全くのところ時代が与えた一手段に過ぎない」に対して。・・・イギリスの場合につき論じる。そこでは拘束と損傷が設けている区別を強調すること。実際それら——拘束や損傷——は、一部は社会主義者達によって目論まれた。・・・設せられた課題そのものは可能である、しかし要求された方法では可能でない。・・・良き政策では全くない、だが事実である。・・・太った豚、社会主義者によって、賞讃される。・・・考えられて然るべき卵、だがそれは良き経済である。・・・(拘束は *fettered capitalism*、損傷は *injured capitalism*・・・ 編者)

注意・・・

a) 未成熟な状態で、従って事前にそれ自身を準備することなしに、社会主義が決定され、しかも十分に社会化に特化したプログラムが効力をもつ

に至る——選挙はさほど良くない場合で！——、といった場合には、そこには現実問題としても社会化が行われ、しかも正に一撃でなされなければならない。事情がそれを要求し、そこでは現実主義的に最も安全な筋道がある。更にそこでは、でき得る限りに多くの事柄を掌握すること以外には、もともと何もし得ないということである。掌握には軍隊などそれぞれの問題のグループ以外のものも数え上げられる。巨大な課題は組織化することと一時的な錯乱にならざる規律の保持である。・・・更に民主主義の如き外観をもった何者か——労働者評議会といったもの——が与えられなければならない。・・・他方、成熟の場合にはそうしたことは必要ではない。・・・

- b) 私の証言・・・私は、民主主義的・・・自由・・・であることが
(α) 遅れば遅れるほど、(β) 少なければ少ないほど、益々うまくいく、という「可能性」のあることを否定しはしない。・・・
c) 社会主義は全体主義である(Sozialismus ist Totalitarianism.)ということ。

2 移行問題(transitional)・・・既に適応可能性の問題があることは述べたである。・・・精力を節約することの重要性(知識人達)・・・移行問題は本来既に解決済である。・・・どんな雰囲気になされるかということも、及びそうでないと全てが秩序立てられるか否かということも、——それはいつにおいてもあらゆる早期の——先走った——社会化に対する非劇的ジレンマ(das tragic Dilemma für vorzeitige Sozialisierung)である。・・・本質的なこと、どんな段階においてか?である。(Wesentlich : in welchem Stadium?)。・・・臨床医といったものの診断の如く。・・・他の如何なる問題におけるよりも——「段階」に依存する。・・・極限的な場合には何事もし得ない。

移行期として現在が観察されるならば、ある他の側面が見出される。・・・全問題が——尚も人々がそれに拠って生活しているところの——一個のシステムの更なる加工だということの内に(in Weiterarbeiten eines Systems)ある。・・・収容と協同への意欲・・・ぐずぐずした移行と敏速な移行・・・収容と貨幣の価値削奪(Entwertung des Geldes)、・・・それに国有化(Verstaatlichung)といったこと、押しなべて人気のあることではない。課税・・・長期償還債券・・・文献、ランゲを見よ・・・それ

に農業的セクター(*agrarischen Sektor*)と小売商、それに芸術家たちについて・・・大きな問題が不寛容の中に横たわっている。・・・十分に成熟した資本主義とは何なのか？ それ以前には可能でなく、それ以後では祝福されることが可能であるような、そうしたはっきりした時点の存在は、異論があるだけでなく、事実上もあり得ない。・・・イギリスにおける移行・・・

3 それに移行は今や心理的困難を提起する。・・・諸条件が必要なのだ、ということが、どんな他のところにおけるよりも、ここで告げられなければならない。・・・そうでないと、社会主義は行政的—技術的にも心理的にも最早可能でないことが確実なのである。そして他の諸々の場合は、論議の余地のない程に、明瞭に、もっと劣ったものなのである。それ故に時代に対応した諸々の場合を強調することが重要なのである。更にそれ故に抽象的な理論の中には、それだけ含蓄が乏しいのである。・・・中世の行政——そこに利潤が必要だったことは確かであり、それが死に絶えてはいないことは確かである。・・・国家は創造しない、の時代が続く。・・・(そして社会主義が来る——编者)・・・経済的並びに文化的に社会主義の内実がどのようなものであるかは完全に未確定である、ということを強調することが極めて重要である。・・・

ストライキ参加者・・・社会的な義務と享受から上部階層の諸機能と諸集団の確認・・・我々は實際上、この心の枠組みを癒すことが可能なことを検証するだろう。・・・家族と性愛(*Erotik*)・・・コストと結びついた行動にはがみがみ言う——その意図は知らない？ そして私は私がうるさがられているのならば改める。・・・既に次官タイプの現代人(*die modernen man von undersecretary type*)のことを述べた。・・・専門家達(課税においては斯く斯く、資源においては斯く斯く、といった如くに、半科学的(*semi-scientific*)).・・・

4 社会主義社会についての全ての命題は、事実上その先代である資本主義の発展の中の一つの与えられた段階に相对应するものとして存在するものである、ということを我々は以前から心に止めてきた。それは比較の最も明白な標準を提供するだけでなく、社会主義的配列の作動可能性と成

功がそれに依存することになる経済的、行政的、社会心理的な諸条件のそれぞれ全てを提供する筈のものであるからである。とりわけ移行問題の範囲の中では、この相対性が殆ど全ての事柄において重きをなす。・・・問題は(移行の時期は・・・編者)確定した時ではないことである。・・・いつでも可能である。・・・そして拘束された資本主義との比較である。・・・いつ、そしてどのように、更に両者の間の諸関係は・・・。論ぜられるべきは成熟性の判断基準である。・・・但しⅡ. において入り来たり、政治的方法との関連ではⅣに連なる、相互に矛盾しない——例えば肅清(das killing off)はそこにおいて来る！・・・ボルシェヴィズムが本来の社会主義ではないということはどこで？・・・

移行は独自の問題を常に提起するだろう。たとえ利子率がゼロに近い程に資本の潤沢な経済の下であったとしても、たとえ全企業を完全に統制しているのがダースの巨大企業以外の何者でもない程に集中の進んだ経済の下であったとしても、たとえ全ての事柄が官僚制的自動化の問題であろう程に機械化がなされている経済の下であったとしても、たとえそこには家族の家庭等はないだろう程に合理化がなされた経済の下であったとしても、——そういう状態の下でさえ、資本主義は自分で社会主義に変換していくのではない。特別の政治的アクションによってそれへの変換がなされなければならないだろうということである。更に我々はそうした行動を——同時に諸々の抵抗や他の困難を知覚することなしには——思い浮かべる(visualize)ことはできないのである。しかしそれをひとり克服し難いものとして放置しておくほど由々しい(serious)ことは他にない。抵抗について言えば、臨時的便法であろうと恒久的な措置であろうと、その措置がファーマー達やペザント達を——更に小規模な非農業でのこうしたタイプの幾ばくかをも同様に——見逃してやるとしても、我々はその社会主義はやはり社会主義であると想定する——この点は他も同様である。・・・諸々の抵抗や諸困難に伴う必然的損失がないような特例、それは我々の行論の一つの補足である。・・・真の勇気——アリストテレス——「持ち来ることが必要でないことをも問題にする」のが真の勇気である。・・・

5 社会主義者は弱者に対しては強い態度はとれない——ということに勇気づけられて、このスタイルを採ることに嬉しがらされている。他方で

共通の仕事や事務机の中では、それを指示するための勇気などは必要でない。・・・勇気が入ってくるとすれば、反対のことを言う必要にせまられたが故の時である。・・・

6 社会主義を「導入する」ため必要な立法活動は、かくして、比較的単純な事柄であるだろう。私的所有と経営を存続させることに決定されるような何等かの部門があったとしても、その部門の範囲を設けることの中に、及び彼等の社会化された産業に対する関係の規制の中に、それらの諸部門の境界設定において乗り越えることができない困難などはないであろう。社会化される諸産業に関しては、新規企業の設立はこれを禁止する、未だ社会化されていない現存企業群の社会化を強制して特殊法人形態——もしそうした形態がとられていることが僅かなれば——とさせる。彼等のもっている株式の全てを生産大臣に引き渡させる。収奪された個人のオーナー達(*the expropriated individual owners*)——法人ではない——は先に示唆しておいたように、その持ち株に応じた「共和国が定めた年金に対する請求権」(*a claim to the annuity determined by the commonwealth*)——金額表示のない一種の債権——を受け取る。もし法が私的所得に上限を課すものであり、しかも手続き的にその上限があるべきだとされるその上限の限度よりも高いものであれば、それ以上の金額——最後の残余——は所得税によって押収されることになるだろう。・・・よろしい、だが繰り返しになっている。・・・せいぜいのところ一撃のところどころで・・・繰り返しはしない。

このタイプの社会主義からは——何の不条理もなしに——次のことが望まれてよい。すなわち、それは我々がそのように印象付けられてきた我々の意味での優越性のあらゆる諸可能性を実現するであろう。更にそれは文化的諸価値の破壊を最小限ならしめるであろう。経済的な落ち込みの危険はこのように最小化されるであろう、そしてそのようにして道徳的な落ち込み——それは通常革命として栄光化(*to glorify as revolutions*)される——の中の一つのもつ、更にずっと由々しい危険が最小化されることも同様であろう。・・・恐らく後で比較を・・・そしてここに論行につき第二の補足がくる。・・・自由貿易についてのマルクスの忠言に即して行動する！・・・社会主義者はこの確信から何を為すべきか？について。・・・だが他に何かがある、それは後で、その時ある冷笑が——但し一回だけだ

が。・・・

しかし、この都合の良い予見(prognosis)が次の二点に完璧に立脚するものであることは明瞭である。先ずは「成熟性」(maturity)についての極めて包括的な諸条件——それはただ世代にまたがる諸作用力の緩慢な作動からのみもたらされることができる——のワンセットである。第二にこれらの諸条件が関連していることが確かであるような数多くの諸仮定がある——それらは変換を効率的にすることと確立されたシステムを運転することの双方の諸方法に関わっているものとしてのものである。これらの諸条件が充たされておらず、しかもこれらの諸方法の行使が期待されない場合は、そうした予見は可能でない。・・・どれほどに多くのことがこれらの世代にまたがる作用力の働きなのであるか、大部分。・・・当然のことながらそれが社会主義的殉教者達に対する一つの弱点(ein Nachteil für sozialistische Savonarolaes・・・イタリアの修道僧(編者))・・・社会主義者は他のやり方では何もし得ないのか？・・・

7 しかし、先行のエッセイで予想されているその諸困難に対し、我々が対面するのはこの点においてである。そこで指摘しておいたように、それ自身の発展のロジックのお蔭(徳目)で、資本主義は成功裡の社会主義のための道程を舗装してきているので、成功裡の社会主義は時が経過するほど益々以て可能となる、という命題は保持されてよい。はっきりしているのは——ある社会主義者の経験からおおざっぱに言って——、言ってみれば、1890年にそうであった程度に比して幅広く存在することが今や馬鹿げたものではないということである。だがこのことが、我々が何等かの確信をもって主張できることのすべてである。・・・カオスの侵害と危険無しにではない、文化的価値の損失無しにではない。・・・民主主義的でない——消失——ロシア・・・あるいは一撃をもってではない。・・・熱狂的興奮、傷ついた資本主義に惹きつけられる。・・・イギリスに対してだけの行論では。・・・完全な社会化は破局ではなかったのか！・・・(そうした異論に対して・・・編者)・・・

明らかな不可能性は、疑わしいということへと、徐々に影をひそめていき、更にその上、明瞭な可能性へと進む。更にこのことは、再びゆっくりとした程度においてだが、累増的に、成功に都合良きチャンスへと進む。その場合、それらの間には明瞭であるような区画線等はないのである。そこに

何の利益もなく、無駄多き思考もその余地がない場合にさえ、更にはいくらかの人々にはほとんどどこにでもある環境の下で「時は未だ来ていない」と結論するような如何なる示唆も、道徳的不正であり悪しきごまかしと同義語であるような、そしてその一方で他の人々には「その時は来ている」と結論するような如何なる示唆も、常に冒涇と同義語であるような、そうした事実がなかったとしてさえ、決定的な重大な措置(a serious operation)を成し遂げようと決心するか、または拒絶するかは重大性からは離れ得ないような診断に合意を得ることは尚困難であろう。その困難たるや外科医の執刀をいつも要求するタイプの医師とそのケースは手術が正当だとは決して認めないタイプの医師の間に合意を得ることの困難と同様なのである。・・・勇氣、素晴らしい！・・・真の勇氣とは責任ある人物にとっては、殆どの場合、粗野な怒声に立ち向かうことであり、知識人達に対しては、彼等の無責任な冷笑という批判に立ち向かうことである。・・・既にはっきりしていること、社会主義者は疑惑の存在であり、ブルジョワジーもまたそうだ、ということ。すなわち、全ての社会主義者は自分が社会主義者ではないのではという疑惑の中で社会主義者であると正しく感じている。また他の社会主義者に対しては論議は——ブルジョワジーに比すれば大ではないとしても、正にそれなりに大きい個人的利益に由来したものである個人的利益と関係のあるような論議は——信じられないと弁明される。(Schon begreiflich, dasz der Sozialist suspicious ist und bourgeois auch: every socialist rightly feels that he is socialist in being suspicious dasz er nicht Sozialist ist, dasz der andere Sozialisten geradeso justified ist Argumenten zu misztrauen, die mit persönlichen Interessen zusammenhängen which proceed from personal Interessen just as much though not more als die bourgeoisie.)

8 殆ど全てが労働者となり、そして既に平等性は——技術者や医師の能率が害されているので——労働者の利益すらもが傷つけられる程に大である。・・・それにも拘わらず、古い章句が反復され、本質的に諸機能に対応するべき諸標準が無視される。・・・

9 労働組合についてのロイターの見解。・・・よろしい——それでは、

何故に労働者階級を指導者による生産の方向に組織すること——資本主義の下では全く容易でない——を引き受けることにはならないのか。・・・

10 私は進歩について十分な配慮をもって扱ってきた。更にそれでも尚、前もって既に多くの進歩が達成されていることの必要性を強調してきた。・・・更にまた精神の社会主義教育が必要なので、それだけではないということをして！

11 短期の到達状態・・・1) 最初においては恐らくは同様であろう。そこでは如何に良く機能しても、それほど良くはないということ、——それは解き難い問題である——と私は言っている。・・・2) 更に誰が運転するのかとどのように運転できるのか、という問題について。・・・適正な人の手中にそれがあるという状態はそれぞれ様々な時期に対応してそれぞれ様々である(zu verschiedenen Zeiten verschiedenen)——資本主義の側の代わられるものの傷つき具合もまた様々である！——という公算の故に、私は尚何かを告げるものである。・・・3) 未成熟な全面社会化(unreife Vollsozialisierung)は社会主義者達のグループ的——階級的利益である。・・・それは失業している知識人達に正にぴったりである。・・・労働組合にはその利益は提供されない、熱心な政党人に対してもそれ以上に。・・・標準にまで仕立てあげられた改革者、但し知識人達についてはたびたびそうでない——比較においては尚検討されていない事例。・・・

12 知られざる事態が明らかに見通せた！・・・だがどんな意味での「真実」があったのか。・・・確かにある関連では利点がある。・・・人々について均等造型がなされること。・・・金銭的なことにながみがみ言っている個人的利益は一掃されよう。・・・II. ではそこで、a) 移行、多数派性といったものがない。・・・研究は必要なのだが・・・b) 運転、それは進行する？・・・スターリンはそれほど広範ではなかったのでは、長期的政策。・・・支配の委員会(Committee von Krata)・・・何かを確信している人々、例えば優生学を・・・更なる労働に対する新しい態度といった

こと・・・数多くのことが強要されなければならない。・・・

1 3 この優生学(Eugenik)の歴史、そして社会主義は——これが個人的自由の理念でないならば——それをより速めることができるのでは。・・・更に給付の最大化に、またはある客観的な文化的理念に合わせるという可能性は、そのように片手間に扱われるのではなくして、一節をさいてその場を充たすことによってであるべきだろう。(最大性の傍らで言及)

1 4 資本家的諸利益に対する温和性(mildness)は、その場合、最早あり得ない。概括してどこまでが同じ方法で、どこまでが他の方法か?・・・あるいは行論の中の第二の状態(未成熟な状態での移行・・・編者)を際立たせるため、我々が考慮するであろうところのもの。・・・恐らく、これは一節をみてることで、然るべき予見を可能とするであろう。・・・我々は、その下での社会化の試みが——成功には至り得ないとしても——単なる想像的叛乱以上のものがあるような状況を、我々が定義している尺度の他の端に位するケースとなす。・・・そこでは権力の掌握は可能であるが、他の全ては未成熟である。・・・そこでは革命は可能であるが、他のことは何もできない。・・・それは総崩壊と紛擾が起こるような様々の場合の特別の場合であるだろう——際立った敗北、社会主義国家の機関の一時的な麻痺——(Das wird besonders der Fall in Fällen der Zusammenbrüche und Verwirrungen — — äusere Niederlage, temporäre paralysis der Organe des sozialistischen Staates.)。・・・

恐らくより良いだろう。というのはこのケースにおいて移行の事実上の問題が発生する、あるいは同じことであるが、遭遇させられる抵抗と仕上げられるべき仕事が由々しい重大事態となる。実際、抵抗の量と仕事の困難が経済的及び社会的諸条件の未成熟性の尺度そのものであり、同じく次のエッセイ(・・・第IV部・・・編者)で論じられるように、真に民主主義的方法での一撃の社会化を成し遂げることの不可能性である。・・・資本家的諸利益、それらが依然として他の如何なるエージェントをもってしても効果的には充たし得ないような機能を充たしているという状況の下では、それをもって処理するよう処せられるものが経済的合理性だ、とみる

ような正にそうした配慮と優しさは不可能となるのである。そのようにして、その十分な、且つ血に染まるという意味での革命が殆ど不可避となる。その理由はもとより、一定の社会的機能を充たしており、それ故に彼等の生命力が傷つけられているところがないか、または傷つけられるところが充分ではないかであるような、そうした諸階級は彼等が悪しき侵害と考えるところのものには闘争なしには降伏(submit)しないからである。この事実の認識とカール・リープクネヒトとローザ・ルクセンブルグの運命に遭遇することもありそうなことではない訳ではないという疑惑とが、そこで攻撃的な社会主義者達をして、どんな本来の意図をも超えた暴力的過程に駆り立てるであろう。彼等はそこで人々——その人々にとって彼等は間もなく恐ろしい犯罪人達として見立てられるよう、彼等自身を仕立てあげていくのであるが——に対し犯罪人的恐ろしさをもって振る舞うであろう。・・・よろしい・・・そして脅かされている者が脅かすといったこと。・・・しかしロシアのケースは殆どの点で特殊的であり、それ故に一般化のための展望を殆どもっていない。

15 対抗した「追い立て」(“drives” gegenüber)が広範にわたる。・・・実践から——誰が摘出されるのか?・・・過激化・・・そして幾ばくかの犠牲を見出す。・・・陳腐でも新奇でもない。しかしこの過激主義は古く、しかももともと壊れ得るものである。・・・

16 しかし、暴力やサディズムは、あり得べき一つの問題を除いて、どんな問題をも解決しはしない。その一つの問題とは、どのように政治的に政治的権力を手に入れるか、及び通常、抵抗の土壌となるところのものを除去するか、という問題である。このことが成し遂げられたとしよう。あらゆる行政的中枢——内閣及びそうしたもの——並びに政治的意志と影響力の中枢——非社会主義諸政党の事務局、新聞社編集局、ラジオ放送局、そういったもの——は征服されている。闘おうとする、そして仲間を集めようとする、そうした意志と能力をもつあらゆる個人は、安全に、牢獄や他の世界に宿泊させられている。行政職員は——その最も勇気のある反対者は追放せられており——気が進まないサービスを提供しつつあり、その上カフェーからの徴募によって急速に水増しされつつある。産業のブルジ

ヨワ的経営者達は——ブルジョワジー達がいつもそうであるように——その立場において呆然としている。

我々に二つの願い事を新しい指導者に与えさせていただきたい。と言うのは、もしそれがないのならば、論じるべきことは何もないからである。先ず労働者組織は——命令に服従する傍ら——十分に強力ならしめられることである。それは組織破壊の騒ぎを防止するのに十分な程になされ、新政府が左翼に対し砲撃を加える場合、あるいはもしそれらが解体し去っているのならば、出現してこざるを得ない新極左党のメンバーに対し撃破を加える場合、新政府を支援するのに十分な程に強力であることである。加えて我々は次のことを想定したい。新政府は少なくともファーマー達とペザント達の中立性を——我々をして言わしめれば彼等を多かれ少なかれ独りにしておくことで——最低限確保することに成功することである。このことに失敗すると、田舎では至る所でロシア的ペザントであふれている(このことの含意は?・・・編者)、ということ想定しなければならないと知るべきである。・・・

中央委員会は設立されている。万事が明確であって然るべき程には完全ではないならば、サボタージュについて不平を言い、そしてブルジョワジーの陰謀と破壊活動を処理するため追加的権力を要請する、といったこと以外にこの中央委員会が為すべきことは何であろうか。・・・

17 様々な事件と気紛れな破壊を見ての恐怖を通しての分裂。・・・経済事情についての完全な無理解・・・急進的生産・・・労働者に対する仕事の規律と彼のヨーロッパの仲間達(peers)・・・併し希望は誰をも満足させる程に偉大な成果に向けられている。・・・輸出願望自体が活性化される！！

18 人民委員の監視と労働者及び公衆双方の気分によって拘束された資本主義産業が、その下で、機能し得る唯一のことは・・・である。このことを自ら了解する読者は、そこには——完全な操業停止を除けば——成功よりも大きな罪悪はない、といった雰囲気想起するだけで充分である。

そうした環境下で産業を稼働させ得る唯一の方法は結局は社会化させることである、というに十分なものがある。このようにしてここでも、第一のケース(完全成熟の場合・・・編者)と同様に、完全に異なったものであるとしても一撃による社会化(one stroke socialization)もあり得るということになる。・・・そして損失は非常に大なものとなり得ようし、その一方で漸変主義(gradualism)に即した体制の危険(Gefahr für regime)もとりわけ大であり得よう、とランゲは是認する。しかしランゲは時間次元なしに論じており、ある場合には斯く斯くであり、他の場合には斯く斯くである、という代替するものがないのがその解決である、というところをみていない。・・・

しかしこの行論は、大規模産業のケースとそれに加えるに、多分管理につき大規模単位に造型されることが容易であるような部分のケースだけを完全にカバーする。除外された農業分野と大規模産業の間に位すあらゆる分野を完全にカバーするものではない。小規模乃至は中規模を主たる構成分子とするような地盤においては、便宜的方法が指令され、しかもとりわけ——レーニンがやったように——その便法への考慮の変化に従って、前進したり後退したりすることがあり得るといったように策謀(manuever)することが大いにあるだろう。これでも尚我々の言葉の枠内で「十分な」社会化であるというべきであろう。・・・多分に保証の限りではない。・・・モンゴール達?は「ネップ」を冷笑する——ブルジョワジーの反逆者であり、しかも怠業者である者達が同じ見解をもたないか。

この他に、一撃の社会化は巨大な衝撃力を持ち、政治的アピールをもつことも大である。少しでも弱さを見せることが致命的となるところが極めて重要である。・・・決定の為され方は成熟期での社会化の場合と似たものになり得よう。中央当局は理論的討議の中に告げられるような手続きで必要な変更を加え、一個の計画に至り、且つ修正する。その場合他方の側に評議会(Soviet)が唯一可能な形態である。それは軍隊における兵士会議よりも以上の意味をもたせる必要はない。この場合におけるこの軍隊は本質的である——とトロッキーの言は意味深長である。同志達の訪問と——幻想に対する反作用があればのことだが——弱さの創設的な利用、赤軍からの同志の訪問——それが差当たっての移行上の政策であると言えよう。調整とすでにあった課題一般は——もし馬鹿げた挫折が非常に厳しいならば——このシステムを殺してしまうことになるが、そうした挫折が十分に色合いを変えていくことは将来——いつのことか期待されないが——

にはあろう。何時それが可能か？を決めることを求める作業は無駄である。・・・ここでも尚私は「不可能」とは言っていないことに注意してほしい。・・・ひとたび機械化された巨大産業が生み出された後ならば、疑いなく移行問題は解決される。そして可能性はいつもより一層に高まるのである。かくして未成熟のケースは成熟における社会主義へと溶解していく。・・・今は何時なのか？ この問題は関心と気質によって非常に屈折したものとなる。・・・我々は性情の内部に、性情をつくり出すこととその中から諸習慣(habits)をつくり出すこと、という区別されるべき諸機能をもつ。このことがここでは重要となる——禁酒は非常な厳格さをもって短期間に習慣を固定化するように働く。・・・

19 厳肅たるべき良き神(good God to be serious)・・・衝突に走る赤軍の同志達・・・併しながら、これらの全ては自己規律と集団規律が——拘束された資本主義の段階におけるよりも社会主義社会において——一層強力になりそうだという単なる予見(prognosis)を超えたところに迄、我々を導く。それにも拘わらず、十分な論証になっていないことは明らかであろう。しかし我々は既に我々の最後の命題を確立する方向に向かって幾ばくかの前進をなしているのだ、ということを見抜くことは容易にできるのである。社会主義的経営は権威による規律という武器を——それが必要とされるべきならば——生み出すにあたって、如何なる資本主義の経営にせよ、それが現在もっている位置よりも更に良い位置にあるだろう(Socialist management will be in much better position to wield the weapons of authoritallian discipline, should that be necessary, than any capitalist management is present.)、というのがその命題である。挫折した事業家達を見出しては嬉しがるのが最早なくなった社会は、最早、準犯罪的な行動を是認しはしないであろうし、更にそうした行動に労働者を据えようとするそうした人々には——これまでとは——異なった眼で以て見張ろうとするであろう。我々はこのようにして——と私は思うのだが——労働者自身の位階(ranks)からは離れたところにある知識人達や指導者達——彼等は新しい体制に一般的な同感(be in general sympathy with new regime)をもっているのであろうが、反体制的活動に転換することもあり得る——に対しては、その数において存在する余地を少なくするであろうと期待してよい。しかしそこでは権威による規律が打ち砕くよう要求されるといった種類のトラブルはないであろう、とは我々は言う必要はな

いし、私は言えないと信じる。その理由は我々が諸誘引のいくつかに眼を向けるやたちどころに明瞭となる。

とりわけ自分達の——利益のために起こる——衝動的トラブルは最早可能でないであろう。体制を吹き飛ばすことなどは昔話であろう。尚、特権官僚や最短昇進組は相変わらずであり、更に将来の享受か眼前の享受かといったこと、またセクト的な差——地域的なものでも産業的なものでもよい——をもたらすという問題も相変わらずである。そしてここに恐らくは大きなトラブルとなるのでは？・・・このように武器は・・・。単一の個人は事業所や機構の中で無力な位置にあり、そして統治機構のもつ権力的な手段は可能性と動機において反逆者に向けられよう。但し、今日の統治機構のようには——それは反対の立場を保有する——軽々しく発動することは許されない。・・・神経の抑制・・・

(7) 社会主義の経済的バランスシート

摘要

社会主義の経済的バランスは——多かれ少なかれ——そう甚だしくは変わらない。人的諸要素を含めてあらゆる可能性を成熟した資本主義と比較するのならば、了解し得るべき推定は社会主義に歩ありとなさしめよう。能率におけるありうべき利は開示された損失の諸源泉に対する補償をなすに充分以上のものがある。但し・・・その他 (編者)

Ⅲ—(7)—1～4

社会主義の経済的バランスシート

1 今一度、社会主義の経済的貸借対照表(*das ökonomische Bilanz des Sozialismus*)は——大なり小なりで——大きくは変わらない。・・・我々の判断 —バランス関係は有利なようである。・・・[こうしたいい方に・・・编者] 我々は強気でありえないし、しかも時間は充分にある。・・・領主社会(*Herrengesellschaft*)、すなわち領主という言葉(*Lord*)によって性格付けられた社会・・・私は平均的な社会のオフィスの中に、閣議におけるよりもより多くの有能の士がいると信じている。正しくないか？

2 かくかくに優越していることの可能性・・・有閑階級や不完全競争の無駄(浪費)の削減・・・その場合、恐らくは実現へのあらゆる可能性が手に収められ、それと資本主義の現実が比較される、それはいつもそうしている。・・・このケースは一見して問題の社会心理的側面を考慮に入れることによって弱められるのではなく、強められる。・・・行論全体の中の最強のものはいつも了解可能性(*understandability*)に達しうるもののように、私には見えてくる。・・・ただし、そこには尚、システムのもつ摩擦の問題が今や入ってくる。そうしたトラブルは一層の支持を集めはしないし、誰もそれをなそうと欲しないであろう。しかし成熟した資本主義の下でも——他者に対する対立として——そのようにあるだけなのである。

経済的諸現象は了解可能であり、しかもそれらの真の顔を示す。・・・すべては逆にもなり得る——すなわち有能な人物が見出され、配置されることができる。この他・・・

α) 生産の諸規制に対する自由交易、貯蓄・・・

β) 利益闘争が反社会的である、という分別・・・それはまた道徳支持に属する。言ってみれば、人々は資本主義に反対する場合(ストライキ、サボタージュ、ピケッティング)、それに地方的利益を凶る場合、罪の意識に惑乱する。・・・全てに対して消費者のための生産である、ということに疑問を感じさせられるということはあるかないのか。・・・より健康な態度。

γ) 知識人(インテレクチュアル)達に対しては、事態はそれほど容易とは

ならないであろう。——恐らくは望まれることはないであろうし、且つ、恐らくは、彼等には許されるだろう。・・・しかしどんな場合にも、僅かな効果をもつにすぎないだろう。・・・それがどれほどの重要性をもつかは、どれほどに社会不安の中で身につけた利益が封じ込められているかに依存する。・・・もはや個人主義ではない、それは正しく道徳的支持としての何者かに対するものである。・・・

完全な敵対者は確かにいない、反対は誰が機構を運転するのかわかる。・・・荷馬車—自動車双方の方法を切り捨てる。・・・社会主義が戦争に賛成であっても、その利益の中でのものであり、無駄(浪費)には属していないのではないか？ 更に有閑階級の保持に対しては？・・・労働組合はあったとしても、尚、社会主義を超えたそれである、という結論にはならない。・・・所有の理論・・・何よりもまず「残渣」、何となれば便宜(方便)は一つの行政の方法なのだから・・・資本主義とその利用、乃至は排除(An—Oder Einwendung)・・・

3 比較に対する総括・・・Ⅲ(4)比較のところでは「多大の長所についての力強い観点」が欠けていた。・・・私は理論と実行可能性のところになされた示唆から私の「リスト」を始めることにする——多くのエネルギー(モラル上の努力)の節約。・・・ことによると疑わしい人間性の価値についても、機構は人間類型における進歩を必ずしも意味していない！ そして次のことを忘れないで欲しい。道徳上の欠陥は必然的にさほど大でなく、しかも補償なしにとはいかないこと、及び、その機構が文化的成果は度外視するとしても、それが何であれ前進している限りにおいて——しばしば合理的でない可能性はあるとしても——手段を整え、更には政治的意志を整えていることは、信認しなければならないこと。・・・しかし最大の利点は、——と言っても「可能性」だけのことだが、損失を利得に変えるような利点であり——外部からの(政治的局面からの)侵害(injury)に対する過程の保護である。

かくしてリストは提示される。しかし、このリストは尚、能率に関するもののみである。——そこで行われる正義とはどんなものか？

- 1) 正義と平等(これは尚、機会の平等ではない)と厚生からのものではない。・・・確かに能率に有効に働く。・・・
- 2) 奢侈品生産からのものも、さほど著しくはない。それにしても無駄(浪

費)の削減。・・・

3) 進歩を計画することへのロジック、規定性、可能性についての反復して言われた示唆・・・ここでは独占と寡占、それに消費者のための生産だということ。・・・

4) 政策がもたらした紛争、妨害、無駄(浪費)、監視人ロス(keeper loss)・・・

α) 誤りによるものと階級政策によるもの・・・生産しない者に支払おうとする明瞭な意図。・・・自由貿易——今日、自由貿易に賛成できるものは誰もいない。・・・銀10億ドルの蓄積。・・・時には国際分業をも排除する。——ただし農業者とは全く別の問題である。・・・

β) 社会主義が軍備を削減するかどうか。・・・全く疑わしい。・・・

γ) 労働者の特別の立場・・・ストライキ参加者のアンチ政府的性格・・・体制に向けての道徳的是認と共に、可能性としての規律が消滅する。・・・

δ) 知識人とそのくすくす笑い(chuckle)・・・その重要性が如何に大きいか、そして止めるだろうか。・・・利益は残される。・・・

リストについてのノート

貯蓄と投資、二つの問題・・・資本主義的失策と資本主義システムの失策・・・ここでもまた政策が？——有閑階級はここで扱う。・・・非資本主義的有閑階級とはどのような存在か？・・・強調すべきこと、比較は拘束され傷ついた資本主義との比較であること——それはだが、移行の後段においても出てくる。・・・関連付けられた比較をもってするともっと良い。・・・ズボンに付した紋様もここで？・・・所有制度、官僚制度、それに貧弱な動機についてはどこで・・・ここでは動機と蓄積の減退に依じて能率も減退すると言っておく。・・・時(時代)(Zeit)、それは諸困難と関係する！！・・・短期的視野に走ろうとする傾向についてはどこで。・・・国家は長期的視点を採り得るといふこととの関係。・・・今日把握し得る前進についての提議にはむかつく(Disgust mit Resolution des Fortschrittes heute begreiflich,)——だが経済学者達はそれを見究めようとしないうし、50年を概観することはできないとする、これは一つのスキヤンダルである。

4 能率の中の利得・・・恐らく、開示されることがあり得るような損失の諸源泉に対して、補償するのに十分なもの、それ以上のものがあるだろう

う。・・・

これが必然的である全てではない。しかしその計画を超えたどんな前進もが、特殊な、大部分は非経済的な、理由によって自らを正当化させなければならない。軍備または枢機産業、映画、造船、食糧市場などはそのあり得べき諸例である。その上ともかく、十分に消化するためには将来相当の時間を要するものであり、責任ある社会主義者をして——彼がそれだけの仕事を成し上げたと言うのなら——自分の仕事を祝福した上で、国営化された部門以外の部門においても、同時に合理化を成さしめるであろうような容認(譲歩)(concession)を受け入れるに充分ということになるろう。もし彼がそのようにしても尚、土地の国有化にこだわる——農業者のステイタスは今あるが如く残しておくこと、私はこの場合を想定している——のならば、すなわち、あらゆる地代や鉱区料等を国に移転するというのならば、一人のエコノミストとして異を唱えたりはしない。・・・[刊行本の中に同文あり・・・編者]

問題(Frage)、ここでは尚、取り上げずにおくかどうか。

- 1) それは一般化され得ない。・・・
- 2) それが労働者達と、そういった人々に関わる諸困難を増大させる。その上、あらゆる脅しよりもより良く作用するという点を除けば、誰にも多くの利益をもたらさない。・・・
- 3) 要するに二つの可能性がある。時の充分性があること、一步一步と結果を積み上げていくこと、こぶしを握りしめていないことが非常に重要である。ただしそれについて「社会主義者」が考えているものは何もない。彼には嬉しくないことであろうか。・・・